

令和7年度 第1回神戸 2030 ビジョン推進会議

日 時：令和7年11月13日（木曜）15:00～

場 所：神戸市役所1号館14階 大会議室

議 事 次 第

（配 付 資 料）

1 開会

資料1 神戸 2030 ビジョン推進会議開催要綱

資料2 神戸 2030 ビジョン推進会議委員名簿

2 議事

（1）神戸 2030 ビジョンの策定方針について

資料3 神戸市総合基本計画の概要

資料4 神戸 2030 ビジョンの策定方針

（2）神戸 2030 ビジョン（素案）について

資料5 神戸 2030 ビジョン（素案）

3 閉会

参考資料1 神戸 2025 ビジョン（第4版：R6.12改訂）

参考資料2 神戸 2025 ビジョン総括報告書

参考資料3 神戸 2025 ビジョン総括報告書議事録

参考資料4 神戸 2025 ビジョン

数値目標・KPI 進捗状況一覧表

参考資料5 Well-Being 指標の概要

神戸 2030 ビジョン推進会議開催要綱

令和 7 年 7 月 16 日 企画調整局長決定

(趣旨)

第 1 条 神戸 2030 ビジョンを策定及び推進するにあたり、専門的な見地から幅広く意見を求め、計画の全体構成に関する検討及び、計画の進行管理の検証や改善に関する検討を行うことを目的として、神戸 2030 ビジョン推進会議（以下「有識者会議」という。）を開催する。

(委員)

第 2 条 有識者会議に参加する委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 専門的知識や経験を有する者

(3) 前各号に掲げる者のほか、市長が特に必要があると認める者

2 前項の規定により委嘱する委員の人数は、15 名以内とする。

3 前項までに定める他、市長は、特定の事項について専門的知識を有する者を臨時委員として参加させることができる。

(任期)

第 3 条 委員の任期は、委嘱の日から令和 12 年 9 月 30 日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長の指名等)

第 4 条 企画調整局長は、委員の中から会長を指名する。

2 会長は、会の進行をつかさどる。

3 企画調整局長は、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、前項の職務を代行する者を委員の中から指名する。

(有識者会議の公開)

第 5 条 有識者会議は、これを公開とする。ただし、次のいずれかに該当する場合で、企画調整局長が公開しないと決めたときは、この限りでない。

(1) 神戸市情報公開条例（平成 13 年神戸市条例第 29 号）第 10 条各号に該当すると認められる情報について意見交換を行う場合

(2) 有識者会議を公開することにより公正かつ円滑な有識者会議の進行が著しく損なわれると認められる場合

2 有識者会議の傍聴については、神戸市有識者会議傍聴要綱（平成 25 年 3 月 27 日市長決定）を適用する。

(施行細目の委任)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、有識者会議の開催に必要な事項は、企画調整局政策課課長が定める。

附 則（令和 7 年 7 月 16 日決裁）

(施行期日)

1 この要綱は、令和 7 年 7 月 16 日より施行する。

(要綱の失効)

2 この要綱は、令和 12 年 9 月 30 日限り、その効力を失う。

会 長（敬称略）

神戸大学大学院 法学研究科 教授

しなだ ゆたか
品田 裕

委 員（五十音順、敬称略）

甲南大学 経済学部経済学科 教授

いしかわ のりこ
石 川 路子

一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事

いながき けんいち
稲 垣 賢 一

連合神戸地域協議会 副議長

かとう あきら
加藤 明

La vie est belle 株式会社

「おやこの世界をひろげるサードプレイス PORTO」代表

かやま なお
佳山 奈央

iC 株式会社 代表取締役

さごう じゅん
佐合 純

関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 講師

たけうち ともあき
竹 内 友 章

特定非営利活動法人 Oneself 理事長

なかの みゆき
中野

株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長

なかむら こういちろう
中 村 浩 一 郎

P&G イノベーション合同会社 代表社員職務執行者

P&G R&D ヴァイスプレジデント 神戸研究所所長 シンガポール研究所長

なかむら ゆうこ
中 村 優 子

西日本旅客鉄道株式会社 理事

（近畿統括本部副本部長・兵庫支社長）

ひらた きょうこ
平田 恭 子

Airtist in Residence KOBE (AiRK)

一般社団法人 ハイム 代表理事

まつした まり
松 下 麻理

一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事

むらかわ まさる
村 川 勝

兵庫県立大学環境人間学部 教授

やませ けいたろう
山瀬 敬太郎

神戸市総合基本計画の概要

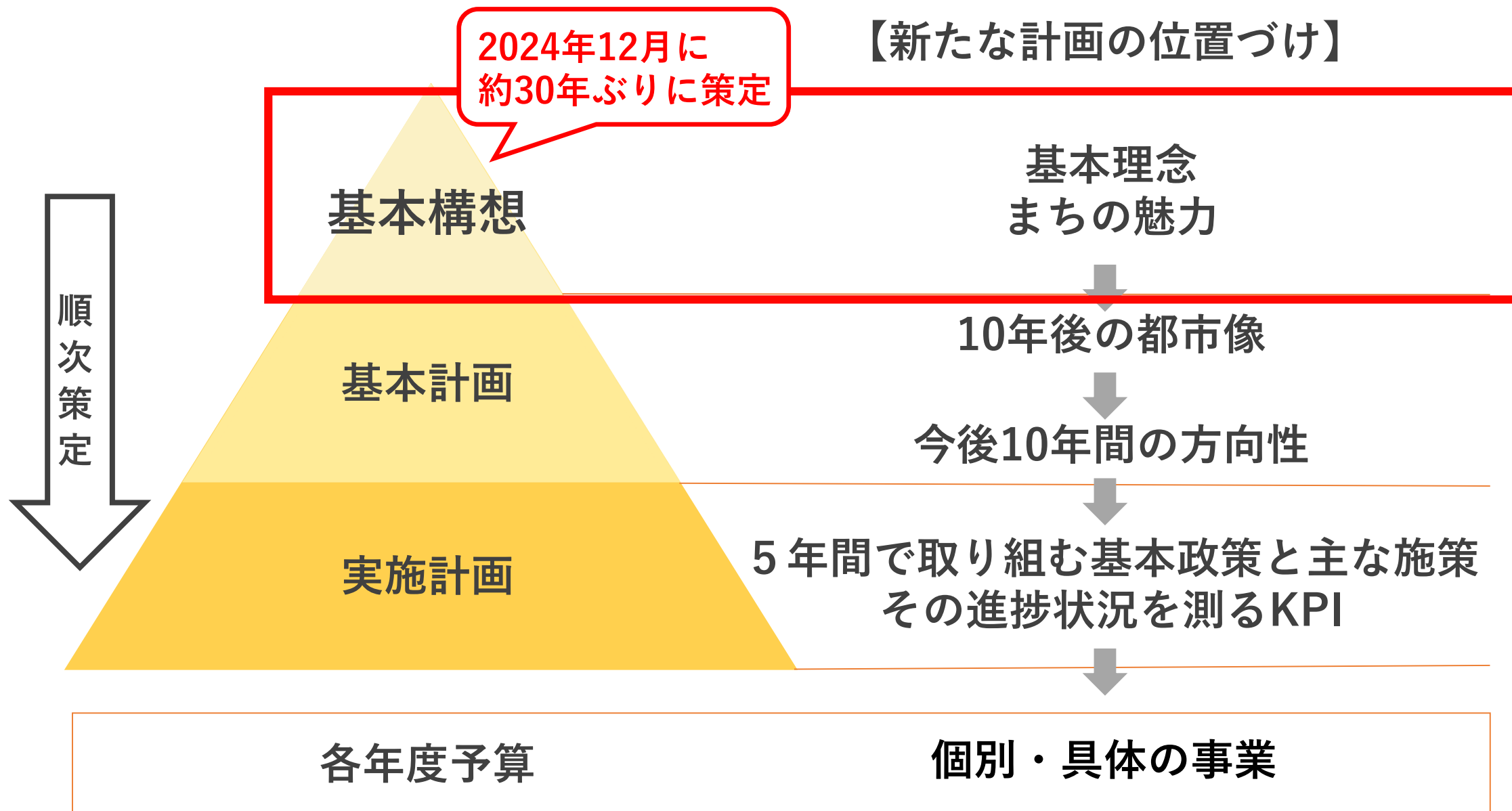
総合基本計画の全体像

【現在の計画】



現計画が2025年度末で終期を迎えるため、新たな計画を策定

神戸市基本構想の策定



新たな基本構想の策定の経緯

2023年7～12月

アンケート

約25,000名

第1弾 みんなの思う神戸の魅力 16,433名

第2弾 第1弾の結果を踏まえた深掘り 8,553名

エリア別ワークショップ

約250名

“神戸の魅力”や“未来の神戸でやってみたいこと”など具体エピソード



はじめての市政参画

約35,000名

市立の小中学校などの4年生以上が思う神戸の魅力



神戸市
総合基本計画
審議会



意見集約
素案の作成



2024年12月

新しい
基本構想
完成



「神戸市基本構想」

未来の「ありたい姿」

これまで神戸には多くのものが
受け継がれてきました
これから神戸は
世代や立場を超えた繋がりの中で
広く内外に貢献し
未来に向けて進んでいきます

培ってきた技術と知の集積により
時代を彩る産業とひとが育つまちへ
世界を臨む海や空からひとが集い
新たな価値の創造を実現するまちへ

誰もがひとに寄り添い、助け合いながら
それぞれの夢に挑戦できるまちへ
豊かな自然とひとの営みが織りなす
一人ひとりが幸せを感じられるまちへ

神戸は、いつまでもまちの誇りを育み
次代に紡いでいきます

目的
願い

未来に歩みを
進める指針

大きな方向性

「神戸の魅力・神戸らしさ」

神戸は、海と山に囲まれた
美しいみなとまちです
開港以来、海外との交流を重ね
文化や流行を日本に生みだしてきました

神戸は、多彩な表情を見せるまちです
都会と里山の共存
洗練されたまち並みと下町の活気
まちに溶け込む坂道も
毎日違う風景を見せてくれます

神戸は、人間らしい
あたたかみのあるまちです
ともに困難を乗り越えていく絆
多様性があふれる開かれた気風
いつでも神戸は
すべてのひとをやさしく包み込みます

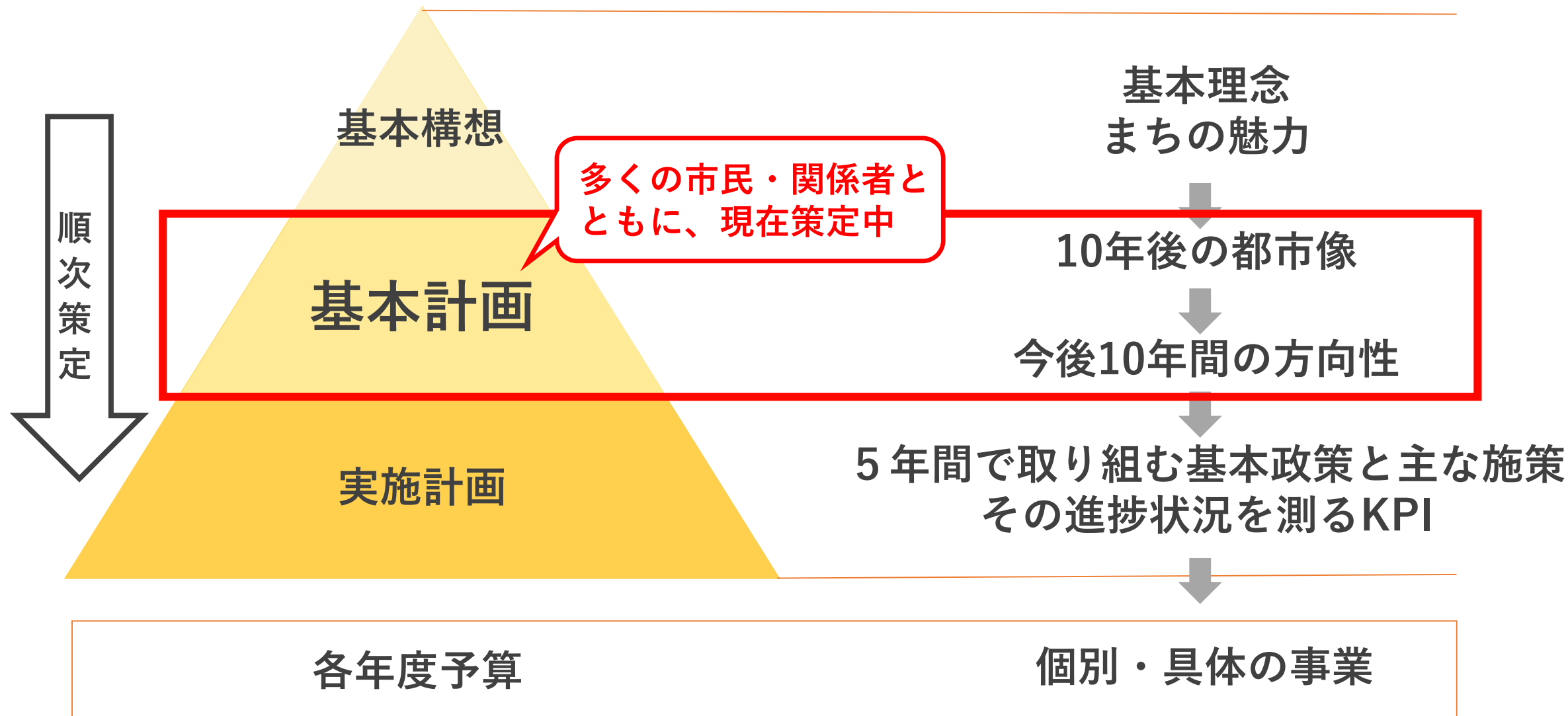
人間らしい
あたたかみのあるまち

多彩な表情を
みせるまち

海と山に囲まれた
美しいみなとまち

次期「基本計画」の策定

【新たな計画の位置づけ】



次期「基本計画」の策定に向けた市民参画の取り組み

2024年7月～2025年10月

ワークショップ

約4,100名

(2024年度)

体験型(9回) 未来の神戸の方向性 198名

(2025年度)

第1弾(53回) 基本姿勢・3つの方向性 2,340名

第2弾(53回) 10年後の都市像 1,597名

アンケート

約14,300名

(2024年度) 2035年の神戸に期待すること等 9,318名

(2025年度)

第1弾 基本姿勢・3つの方向性 3,211名

第2弾 10年後の都市像 1,810名

はじめての市政参画

約32,600名

(2025年度)

市立の小中学校などの4年生以上が思う

10年後の神戸はこんな未来になってほしい！という気持ち

神戸市
総合基本計画
審議会

意見集約

2025年12月

パブリック
コメント
の実施

次期「基本計画」の構成

1 基本計画の策定にあたって

2 神戸市基本構想

3 神戸のこれまでと今

4 基本計画

(1) 10年後の都市像

① “ともに描いた10年後の神戸”

② KGI（数値目標）

(2) 都市像を実現するための方向性

基本姿勢 未来を見据えた都市の持続可能性を最重視します

方向性Ⅰ 世界と繋がる2つの港 「新たな時代の国際都市」へ

方向性Ⅱ 個性豊かで多様な地域の融合「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

方向性Ⅲ とともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

次期「基本計画」 （10年後の都市像）

現在案

自然も都会も、歴史も未来も、仕事も余暇も、安らぎも挑戦も・・・
～すべての望みに手が届くまち・神戸～

神戸空港や神戸港は、世界とつながる玄関口。そこには、絶えず人やモノ、情報が集まり、多様な文化が行き交うことで、新たな風が吹く。

都心には、おしゃれで心地よい雰囲気と、温かなもてなしの心があふれる。周辺に広がる交通網によって、人との出会いと交流が生まれ、まちの魅力がさらに深まる。

くらし息づく街では、個性豊かな駅を中心に、それぞれの理想のライフスタイルが形となり、ゆとりある上質な時間が流れる。

山から望めば、先人から受け継いだ農村や里山、豊かな自然が悠然と広がり、夜には世界に誇れる美しい夜景が幻想的に彩る。海に向かえば、汽笛や潮風に迎えられ、ジャズを育んだ港町の歴史と文化芸術にふれながら、贅沢な時間に包まれる。食は、自然の恵みと人に育まれ、いつでも人々の心を満たす。

しごとや学びの場では、経験と新たな挑戦が融合し、未来を切り拓く力がみなぎる。

街のいたるところで、異なる世代や多様な人々が集い、支え合い、こどもたちの笑い声と皆の笑顔があふれ、まちのあたたかみが安らぎをもたらす。

人々の暮らしは、困難を乗り越え、築いてきた、たくましい礎によって守られ、それぞれの環境を思いやる行動が、次世代への安心を生み出す。

そして、まちの誇りは、神戸を愛する人々の心によって育まれ、力強く次代に紡がれていく。

1 経済指標

・実質GDP成長率1%以上(年換算)の達成

「GDP（市内総生産）」は、市内で生み出されたモノやサービスの総額を示す数値で、この数値が上がるほど経済活動が活発になっていることを表します。「実質GDP」は物価の変動を除いた、実際の成長を表す数値です。今後、人口が減少する中でも、空港の国際化や三宮の再整備、新しい技術の導入などを通じて、経済の活力を維持・向上させ、我が国全体の目標と同じ水準である年1%以上の成長率を目指します。

・地域経済循環率100%以上の維持

「地域経済循環率」は、市内の稼ぐ力と地域の所得の比率を示す指標で、市内で生まれた富（お金）が、どれだけ市内で使われているか等を表します。市内店舗での売上が増えたり、近隣地域からも従業員が集まる地元企業が増えるなどでこの指標は高まり、100%を超えると地域で経済が活発に循環し、独立して安定していることを示します。（100%を下回ると、ベッドタウンの傾向が見られます。）今後、神戸経済を活性化させ、地域の中で経済が循環する神戸独自の経済圏を維持・発展させることを目指します。

※地域経済循環率＝市内総生産（GDP）/市民所得

2 人口指標

・生活関連サービスを提供する市街地の比率を維持

「生活関連サービスを提供する市街地」は一定程度人口が集積し、病院、学校、スーパーなど、生活に必要な施設が整った地域を示します。人口が減少する中でも、こうした地域を維持することで、多彩なライフスタイルが実現できる居住地として選ばれる都市を目指します。

※DID (Densely Inhabited District) 地区を準用。算出は神戸市独自指標(2025年度時点)を設定

・22～39歳の社会動態の転出超過を解消

本市では大学進学などで若い世代が多く転入してくる一方、就職や結婚・子育てのタイミングで転出する人が多い傾向があります。働く場の充実、子育て支援、住環境の整備などを進め、若い世代が住み続けたいまちを目指します。

3 幸福度指標

・ Well-Being指標

幸福度：6.5以上、生活満足度：7.0以上を確保（2025年神戸市実績）

「幸福度」や「生活満足度」は、市民がどれだけ心身ともに健やかに、安心して暮らせているかを示す指標です。この指標は、単なる経済成長ではなく、市民一人ひとりの「暮らしの質」を重視したものであり、人口減少が進む中でも、誰もが健やかに、安心して暮らせる都市を目指します。

（数値はそれぞれの都市の市民の価値観に基づく幸福感等の平均値であり、一概に他都市の数値と比較により優劣を測るものではありません。）

※出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」（国において活用を推奨）

方向性Ⅰ 世界と繋がる2つの港 「新たな時代の国際都市」へ

神戸は、古くから外国との交流によって、多様な文化や気風を取り入れながら、まちを発展させてきました。空港の国際化により、神戸は国内外とのつながりがより一層強化されます。多様な人材・技術・文化を取り入れ、神戸の強みと融合させることで、人・まち・しごとの魅力を高め、これからも「海と山に囲まれた美しいみなとまち」を守り育てながら、世界に開かれたまちとして、持続的な発展を目指します。

多様な文化や人との交流を促進し、グローバルに活躍する人材を育み、受け入れ、そして神戸への想いを胸に世界へ羽ばたいていく流れを加速させていきます。

また、海と山が織りなす美しい風景や豊かな自然・文化との調和などの魅力に加え、都心・ウォーターフロント再開発による相乗効果を活かしながら、国内外へ神戸の魅力発信を強化していきます。

さらに、国内外から集まる多様な人材や企業と、市内の大学や企業、行政等が組織を超えてつながり、イノベーションを創出することで、独立した経済圏を支えるものづくり、港湾、農水産、食、観光、医療・バイオ等の既存産業の発展、新たな成長産業の創出を加速させ、東京一極集中が進む中においても、関西圏ひいては日本全体の経済成長をリードしていきます。

こうした機能強化により、神戸の国際的な存在感を高め、新たな時代の国際都市として、市民の暮らしをより豊かにしていきます。

方向性Ⅱ

個性豊かで多様な地域の融合

「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

神戸の地理的特性や歴史の中で形作られた個性豊かなまちなみや、豊かな自然は、神戸ならではの魅力です。今後、全国的に人口減少が進む中でも、先人たちがこれまでの歴史の中で築いてきた貴重な財産を最大限に活かし、磨いていくことで、将来世代が充実したライフスタイルを送ることができるよう、これからも「多彩な表情を見せるまち」を守り育てていきます。

都心部では、居住機能との調和を図りながら、商業施設や業務機能の集積を進めていきます。国内外から多くの人々が訪れ、買い物やアート、食事など五感を刺激する体験ができる場を創出します。また、魅力的なビジネス環境の整備も進めていきます。

既成市街地やニュータウンでは、まちの顔である駅を中心に、生活利便施設のリニューアルや、職住近接の取り組みを進めます。さらに、商店街などに息づく下町文化を活かし、まちの魅力と暮らしの質を高めていきます。

また、海や山、農村・里山地域など、神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進することで、自然と調和するまちの魅力を高めていきます。

そして、こうした多彩なまちなみをつなぐ公共交通網を維持・充実させ、それぞれの日常と非日常が交わる都市空間を実現することで、市民の満足度を高め、いつまでも住み続けたいと思えるまちへ、そして、国内外から愛され選ばれる都市を目指します。

方向性Ⅲ

ともに乗り越え育んだ絆

「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これまでの歴史によって培われた進取の気風や、ともに災害を乗り越えてきた絆は、神戸のまちと人に受け継がれてきました。今後、先行きが不透明な変化の激しい時代においても、誰もが寄り添って助け合い、そして、新たな挑戦を続けていくことで、いつまでも「人間らしいあたたかみのあるまち」を守り育てていきます。

神戸の未来を担う子どもたちをはじめ、性別、年齢、障がいの有無、民族、国籍に関わらず多様な主体や団体が、地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して、それぞれの夢に向かって自由に挑戦でき、主役になれるまちを目指していきます。

また、子育て・教育環境の充実、健康・福祉の増進や、安全で快適な住環境を支えることで、一人ひとりの笑顔を育み、誰もが安心して健やかで心穏やかに暮らせる環境をつくります。

さらに、新たなテクノロジーと先進技術を積極的に取り入れながら、地球環境への貢献や次代をリードする防災力を強化し、より豊かで質の高いくらしを実現させます。

そして、それらの取り組みを世界に発信することで、震災でいただいた多くの支援に、いつまでも感謝の気持ちを忘れることなく、国内外に貢献していくまちを目指します。

次期「実施計画」（神戸2030ビジョン）の策定

【新たな計画の位置づけ】



神戸2030ビジョンの策定方針

策定スケジュール

11/13

第1回神戸2030ビジョン推進会議

- ・神戸2030ビジョンの策定方針
- ・神戸2030ビジョン（素案）の議論①

1月下旬

第2回神戸2030ビジョン推進会議

- ・神戸2030ビジョン（素案）の議論②

} 庁内議論

2月～

パブリックコメント

3月上旬

第3回神戸2030ビジョン推進会議

- ・パブリックコメントの内容の確認

3月中旬

議会報告

3月末

策定

神戸2025ビジョン推進会議（総括検証）での意見

- 神戸2030ビジョンでは、**上位計画との連携**をしっかりと図るべき。
- **社会の変化が非常に速く、次の5年間の状況すら予測が難しい**ため、その点も踏まえてKPIを設定する必要がある。
- 神戸2025ビジョンでは、**KPIの粒度にばらつき**が見られた。5年後に振り返る際、**KPIをどのような考えで設定**したかが分かるよう、**計画段階で整理**しておくことが重要。
- 数字を示すと解釈が独り歩きするため、その意味をしっかりと読み取るとともに、**現場に過度な縛りとならないよう配慮**が必要。

神戸2030ビジョンの策定方針

①構成

- 計画期間は5年間（2026年～2030年）
- 従来の実施計画はページ数が多く、市民が馴染みにくいため、次期実施計画は市民が馴染みやすく、理解を深めやすいものとする。
- 従来計画は基本計画と重複した内容が多かったが、次期実施計画は**基本構想・基本計画と一体的に策定し、重複をなくすことで、より簡潔でわかりやすいものとする。**
- 変化の激しい時代に機動的に対応していくため、次期実施計画には**基本政策と主な施策のみを掲載し、その内容を踏まえ、各年度予算編成で、個別具体の事業を検討・具体化**する。

〈参考〉神戸2025ビジョン：51ページ

神戸2030ビジョンの策定方針

②KPIの設定

- 市の取組みによって向上が期待でき、かつ基本計画のKGIの達成に寄与するKPIを設定する。
- 今後、適切に評価ができるよう設定理由を明記する。
- 神戸市独自のKPIに加え、自治体経営の土台となる幸福度を測るWell-Being指標の客観指標をKPIとして設定することで、幅広い政策分野の水準を今以上に高めることを目指す。

〈参考〉神戸2025ビジョン：104項目

～Well-Being指標の概要～

国が推進する「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、Well-Being指標の活用が進められている。

この指標は、総合指標（幸福度・生活満足度）を最上位に置き、その要因を客観・主観両指標から分析するもの。

客観指標は、統計調査の結果等により自治体の施策の状況等を客観的に測定する指標であり、主観指標は、市民の主観によるアンケートにより各施策の市民への浸透度合い等を測定する指標。

神戸 2030 ビジョン (素案)

神 戸 市

第1章 序論

1 実施計画の策定にあたって

- (1) 背景
- (2) 地方版総合戦略との位置づけ

2 神戸市基本構想

- (1) 全文
- (2) 神戸らしさ
- (3) ありたい姿

3 第6次神戸市基本計画

- (1) 10年後の都市像
- (2) 都市像を実現するための方向性

第2章 実施計画

1 概要

2 基本計画に掲げる方向性と施策

方向性Ⅰ 世界と繋がる2つの港「新たな時代の国際都市」へ

- (1) 基本政策と主な施策
- (2) KPI

方向性Ⅱ 個性豊かで多様な地域の融合「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

- (1) 基本政策と主な施策
- (2) KPI

方向性Ⅲ とともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

- (1) 基本政策と主な施策
- (2) KPI

第 1 章 序論

1 実施計画の策定にあたって

(1) 背景

神戸市の総合基本計画である「新・神戸市基本構想（1993 年策定）」、「第 5 次神戸市基本計画（2011 年策定）」及び「神戸 2025 ビジョン（2021 年策定）」は、いずれも 2026 年 3 月に計画終期となります。

全国的に人口減少や少子・高齢化が進む中、未来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくためには、市民と行政が目指すべき神戸の姿や方向性を明確にし、長期的な視点をもって、ともに運営していくことが求められます。

そのため、本市においては、新たな総合基本計画の策定を、市民の市政参画への機運醸成の機会とするとともに、行政内部で共通の価値観を持ち、部局間の連携を図りながら一貫性のある施策を展開していく契機とすることとしました。

新たな基本構想は、6 万人を超える多くの市民から様々なご意見を頂きながら、審議会において議論を積み重ね、策定されました。この基本構想は、計画終期を設けておらず、いつの時代でも変わることのない神戸の“基本理念”として、神戸がこれからも大切にし、未来に紡いでいく価値や、未来に向かって目指すべき姿が描かれています。

基本構想の下位となる新たな基本計画については、神戸のこれまでの歴史や現状、多様化・複雑化する社会課題を踏まえながら、100 回を超えるワークショップを通じて多くの市民や関係者とともに議論を重ね、WEB アンケートや GIGA スクール端末を活用した小中学生等からの意見も含め、総勢 5 万人を超える参画を得て、2035 年の神戸のありたい姿とその実現に向けた方向性を、2026 年度から 2035 年度までの 10 年間の指針として策定しました。

基本計画に掲げる都市像の実現に向けて、具体的な施策を着実に展開していくためには、これを実行段階へと落とし込む実施計画の策定が不可欠です。

神戸 2030 ビジョンは、基本計画の前半 5 年間（2026 年度～2030 年度）に取り組む基本政策及び主な施策、その進捗状況を測る KPI を体系的に整理した実施計画として策定しました。

(2) 地方版総合戦略との位置づけ

総合基本計画は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、兵庫県の「地方版総合戦略」、「神戸人口ビジョン」を踏まえた、「地方版総合戦略」としての位置づけも有します。

2 神戸市基本構想

(1) 全文

神戸は、海と山に囲まれた美しいみなとまちです。開港以来、海外との交流を重ね文化や流行を日本に生みだしてきました。神戸は、多彩な表情を見せるまちです。都会と里山の共存。洗練されたまち並みと下町の活気。まちに溶け込む坂道も。毎日違う風景を見せてくれます。神戸は、人間らしい。あたたかみのあるまちです。ともに困難を乗り越えていく絆。多様性があふれる開かれた気風。いつでも神戸は。すべてのひとをやさしく包み込みます。これまで神戸には多くのものが受け継がれてきました。これからも神戸は。世代や立場を超えた繋がりの中で。広く内外に貢献し。未来に向けて進んでいきます。培ってきた技術と知の集積により。時代を彩る産業とひとが育つまちへ。世界を臨む海や空からひとが集い。新たな価値の創造を実現するまちへ。誰もがひとに寄り添い、助け合いながら。それぞれの夢に挑戦できるまちへ。豊かな自然とひとの営みが織りなす。一人ひとりが幸せを感じられるまちへ。神戸は、いつまでもまちの誇りを育み。次代に紡いでいきます。

(2) 神戸らしさ

基本構想の前段には、神戸の歴史や都市のなりたちに触れながら、「海と山に囲まれた美しいみなとまち」、「多彩な表情を見せるまち」、「人間らしいあたたかみのあるまち」という3つの神戸らしさが描かれています。

神戸は大都市でありながら海と山といった自然に恵まれ、古くから「進取の気風」に富む、国際色豊かな港町として発展し、新たな流行や文化を生み出してきました。人の手が入り続けることによって緑滴る山になった六甲山、茅葺民家が点在する里山、古くからの景勝地、須磨や垂水の海岸、外国風の建物が残るまち並みや、多くの人で賑わう市場、風情あふれる下町、身近にある坂道からの眺望も、先人たちが守り育ててきたものです。また、神戸は、戦災や水害、震災など多くの試練に直面する度に、まちを愛する人たちが、国籍や人種を超え、それぞれを尊重しながら支え合い、乗り越えてきました。この絆があるからこそ、神戸には多様な主体が互いに認め合い、助け合う優しさを感じることができます。

(3) ありたい姿

中段には、先人たちが育み、受け継がれてきたこれらの神戸らしさを、これからも守り、活かし、高めながら、世代や立場を超えたつながりの中で広く内外に貢献し続けていくことが謳われています。

そして、後段には、多くの市民の方々からいただいたご意見・メッセージが凝縮され、未来に向けて神戸のありたい姿として描かれています。「時代を彩る産業とひとが育つまち」、「新たな価値の創造を実現するまち」、「それぞれの夢に挑戦できるまち」、「一人ひとりが幸せを感じられるまち」。これらは、いずれも先人から受け継いだ神戸らしさを活かし、さらなる歩みを進めるにあたっての指針です。市民の皆様とともに作り上げた神戸のありたい姿を追い求めていくことで、まちを愛する心が生まれ、まちの誇りが育まれます。基本構想には、このような、いつまでも、神戸らしさを磨き、まちの誇りを育み、次代に紡いでいきたいという市民の想いが込められています。

3 第6次神戸市基本計画

(1) 10年後の都市像

① “ともに描いた10年後の神戸”

以下の都市像は、神戸市基本構想に掲げた基本理念や“神戸らしさ”を踏まえ、多くの市民・関係者とともに描いた10年後（2035年）の神戸のありたい姿です。

人口減少や社会構造の変化が進む中であっても、この都市像を市民・行政等の多様な主体と共有し、共通の目標をもって、ともにまちづくりを進め、海と山に象徴される豊かな自然や、歴史とともに歩んできたまちの誇りを次代へと紡いでいきます。

自然も都会も、歴史も未来も、仕事も余暇も、安らぎも挑戦も・・・
～すべての望みに手が届くまち・神戸～

神戸空港や神戸港は、世界とつながる玄関口。そこには、絶えず人やモノ、情報が集まり、多様な文化が行き交うことで、新たな風が吹く。

都心には、おしゃれで心地よい雰囲気と、温かなもてなしの心があふれる。周辺に広がる交通網によって、人と人の出会いと交流が生まれ、まちの魅力がさらに深まる。

くらし息づく街では、個性豊かな駅を中心に、それぞれの理想のライフスタイルが形となり、ゆとりある上質な時間が流れる。

山から望めば、先人から受け継いだ農村や里山、豊かな自然が悠然と広がり、夜には世界に誇れる美しい夜景が幻想的に彩る。海に向かえば、汽笛や潮風に迎えられ、ジャズを育んだ港町の歴史と文化芸術にふれながら、贅沢な時間に包まれる。食は、自然の恵みと人に育まれ、いつでも人々の心を満たす。

しごとや学びの場では、経験と新たな挑戦が融合し、未来を切り拓く力がみなぎる。街のいたるところで、異なる世代や多様な人々が集い、支え合い、こどもたちの笑い声と皆の笑顔があふれ、まちのあたたかみが安らぎをもたらす。

人々の暮らしは、困難を乗り越え、築いてきた、たくましい礎によって守られ、それぞれの環境を思いやる行動が、次世代への安心を生み出す。

そして、まちの誇りは、神戸を愛する人々の心によって育まれ、力強く次代に紡がれていく。

② “KGI（数値目標）”

KGI（Key Goal Indicator）は、神戸市が目指す「10年後の都市像」を示す数値目標です。市民の幸福度や生活の質に加え、経済指標と人口指標を組み合わせることで、神戸のありたい姿を現しています。これらの KGI は、持続可能な都市の実現に向けた強い意思を示すものであり、あえて高い目標として設定しています。

社会や地域を取り巻く環境が大きく変化する中、達成には不断の努力と創意工夫が求められますが、その挑戦の過程は市民、市政において貴重な礎となります。また、高い目標を掲げることは、神戸市の都市経営における理念と志を体現するものであり、未来を切り拓く原動力となります。

【経済指標】

・実質 GDP 成長率 1 % 以上（年換算）の達成

「GDP（市内総生産）」は、市内で生み出されたモノやサービスの総額を示す数値で、この数値が上がるほど経済活動が活発になっていることを表します。「実質 GDP」は物価の変動を除いた、実際の成長を表す数値です。今後、人口が減少する中でも、空港の国際化や三宮の再整備、新しい技術の導入などを通じて、経済の活力を維持・向上させ、我が国全体の目標と同じ水準である年 1% 以上の成長率を目指します。

・地域経済循環率※100%以上の維持

「地域経済循環率」は、市内の稼ぐ力と地域の所得の比率を示す指標で、市内で生まれた富（お金）が、どれだけ市内で使われているか等を表します。市内店舗での売上が増えたり、近隣地域からも従業員が集まる地元企業が増えるなどでこの指標は高まり、100%を超えると地域で経済が活発に循環し、独立して安定していることを示します。（100%を下回ると、ベッドタウンの傾向が見られます。）今後、神戸経済を活性化させ、地域の中で経済が循環する神戸独自の経済圏を維持・発展させることを目指します。

※地域経済循環率＝市内総生産（GDP）/市民所得

【人口指標】

・生活関連サービスを提供する市街地※の比率を維持

「生活関連サービスを提供する市街地」は一定程度人口が集積し、病院、学校、スーパーなど、生活に必要な施設が整った地域を示します。人口が減少する中でも、こうした地域を維持することで、多彩なライフスタイルが実現できる居住地として選ばれる都市を目指します。

※DID（Densely Inhabited District）地区を準用。算出は神戸市独自指標（2025 年度時点）を設定

・22～39 歳の社会動態の転出超過を解消

本市では大学進学などで若い世代が多く転入してくる一方、就職や結婚・子育てのタイミングで転出する人が多い傾向があります。働く場の充実、子育て支援、住環境の整備などを進め、若い世代が住み続けたいまちを目指します。

【幸福度指標】

・Well-Being 指標※に基づく幸福度 6.5 以上、生活満足度 7.0 以上を確保（2025 年度神戸市実績）

「幸福度」や「生活満足度」は、市民がどれだけ心身ともに健やかに、安心して暮らしているかを示す指標です。この指標は、単なる経済成長ではなく、市民一人ひとりの「暮らしの質」を重視したものであり、人口減少が進む中でも、誰もが健やかに、安心して暮らせる都市を目指します。（数値はそれぞれの都市の市民の価値観に基づく幸福感等の平均値であり、一概に他都市の数値と比較により優劣を測るものではありません。）

※出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」（国において活用を推奨）

(3) 都市像を実現するための方向性

【基本姿勢】

今後 10 年間、神戸だけでなく、東京をはじめ全国の都市で人口が減少し、さらに加速していくことが見込まれます。この時代の流れを冷静に捉え、短期的効果ではなく、長期的な視点に立ち、**未来を見据えた都市の持続可能性を最重視**することを**基本姿勢**とし、以下の 3 つの方向性で取り組みを進めることで、まちの誇りを育み、次代に引き継いでいきます。

方向性Ⅰ 世界と繋がる 2 つの港「新たな時代の国際都市」へ

神戸は、古くから外国との交流によって、多様な文化や気風を取り入れながら、まちを発展させてきました。空港の国際化により、神戸は国内外とのつながりがより一層強化されます。多様な人材・技術・文化を取り入れ、神戸の強みと融合させることで、人・まち・しごとの魅力を高め、これからも「海と山に囲まれた美しいみなとまち」を守り育てながら、世界に開かれたまちとして、持続的な発展を目指します。

多様な文化や人との交流を促進し、グローバルに活躍する人材を育み、受け入れ、そして神戸への想いを胸に世界へ羽ばたいていく流れを加速させていきます。

また、海と山が織りなす美しい風景や豊かな自然・文化との調和などの魅力に加え、都心・ウォーターフロント再開発による相乗効果を活かしながら、国内外へ神戸の魅力発信を強化していきます。

さらに、国内外から集まる多様な人材や企業と、市内の大学や企業、行政等が組織を超えてつながり、イノベーションを創出することで、独立した経済圏を支えるものづくり、港湾、農水産、食、観光、医療・バイオ等の既存産業の発展、新たな成長産業の創出を加速させ、東京一極集中が進む中においても、関西圏ひいては日本全体の経済成長をリードしていきます。

こうした機能強化により、神戸の国際的な存在感を高め、新たな時代の国際都市として、市民の暮らしをより豊かにしていきます。

方向性Ⅱ 個性豊かで多様な地域の融合 「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

神戸の地理的特性や歴史の中で形作られた個性豊かなまちなみや、豊かな自然は、神戸ならではの魅力です。今後、全国的に人口減少が進む中でも、先人たちがこれまでの歴史の中で築いてきた貴重な財産を最大限に活かし、磨いていくことで、将来世代が充実したライフスタイルを送ることができるよう、これからも「多彩な表情を見せるまち」を守り育てていきます。

都心部では、居住機能との調和を図りながら、商業施設や業務機能の集積を進めていきます。国内外から多くの人を訪れ、買い物やアート、食事など五感を刺激する体験ができる場を創出します。また、魅力的なビジネス環境の整備も進めていきます。

既成市街地やニュータウンでは、まちの顔である駅を中心に、生活利便施設のリニューアルや、職住近接の取り組みを進めます。さらに、商店街などに息づく下町文化を活かし、まちの魅力と暮らしの質を高めていきます。

また、海や山、農村・里山地域など、神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進することで、自然と調和するまちの魅力を高めていきます。

そして、こうした多彩なまちなみをつなぐ公共交通網を維持・充実させ、それぞれの日常と非日常が交わる都市空間を実現することで、市民の満足度を高め、いつまでも住み続けたいと思えるまちへ、そして、国内外から愛され選ばれる都市を目指します。

方向性Ⅲ ともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これまでの歴史によって培われた進取の気風や、ともに災害を乗り越えてきた絆は、神戸のまちと人に受け継がれてきました。今後、先行きが不透明な変化の激しい時代においても、誰もが寄り添って助け合い、そして、新たな挑戦を続けていくことで、いつまでも「人間らしいあたたかみのあるまち」を守り育てていきます。

神戸の未来を担う子どもたちをはじめ、性別、年齢、障がいの有無、民族、国籍に関わらず多様な主体や団体が、地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して、それぞれの夢に向かって自由に挑戦でき、主役になれるまちを目指していきます。

また、子育て・教育環境の充実、健康・福祉の増進や、安全で快適な住環境を支えることで、一人ひとりの笑顔を育み、誰もが安心して健やかで心穏やかに暮らせる環境をつくれます。

さらに、新たなテクノロジーと先進技術を積極的に取り入れながら、地球環境への貢献や次代をリードする防災力を強化し、より豊かで質の高い暮らしを実現させます。

そして、それらの取り組みを世界に発信することで、震災でいただいた多くの支援に、いつまでも感謝の気持ちを忘れることなく、国内外に貢献していくまちを目指します。

第 2 章 実施計画

1 概要

実施計画では、基本計画に掲げる都市像の実現に向けて、今後 10 年間に取り組む 3 つの方向性を踏まえ、今後 5 年間の基本政策及び主な施策を掲げるとともに、その進捗状況を測定するための KPI（Key Performance Indicator）を設定しています。

また、KPI の 1 つとして、自治体経営の土台となる幸福度を測る Well-Being 指標の客観指標を設定することで、幅広い政策分野の水準を今以上に高めることを目指します。

なお、今後、変化の激しい時代においては、施策も柔軟に変化させることが求められるため、個別事業については、実施計画を踏まえながら、毎年度の予算編成において具体化するとともに、10 年後の都市像の実現に向けた達成度を適切に測定できるよう、必要に応じて KPI の見直し（追加・修正・削除）を行い、柔軟に運用していきます。

2 基本計画に掲げる方向性と施策

※基本計画より抜粋

方向性Ⅰ 世界と繋がる 2 つの港「新たな時代の国際都市」へ

神戸は、古くから外国との交流によって、多様な文化や気風を取り入れながら、まちを発展させてきました。空港の国際化により、神戸は国内外とのつながりがより一層強化されます。多様な人材・技術・文化を取り入れ、神戸の強みと融合させることで、人・まち・しごとの魅力を高め、これからも「海と山に囲まれた美しいみなとまち」を守り育てながら、世界に開かれたまちとして、持続的な発展を目指します。

多様な文化や人との交流を促進し、グローバルに活躍する人材を育み、受け入れ、そして神戸への想いを胸に世界へ羽ばたいていく流れを加速させていきます。

また、海と山が織りなす美しい風景や豊かな自然・文化との調和などの魅力に加え、都心・ウォーターフロント再開発による相乗効果を活かしながら、国内外へ神戸の魅力発信を強化していきます。

さらに、国内外から集まる多様な人材や企業と、市内の大学や企業、行政等が組織を超えてつながり、イノベーションを創出することで、独立した経済圏を支えるものづくり、港湾、農水産、食、観光、医療・バイオ等の既存産業の発展、新たな成長産業の創出を加速させ、東京一極集中が進む中においても、関西圏ひいては日本全体の経済成長をリードしていきます。

こうした機能強化により、神戸の国際的な存在感を高め、新たな時代の国際都市として、市民の暮らしをより豊かにしていきます。

(1) 基本政策と主な施策

基本政策	主な施策
多様な文化の交流促進と世界で活躍する人材の育成・交流を進める	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸空港の国際化への対応 ・陸海空の広域交通結節機能の強化 ・神戸経済のグローバル化推進 ・革新的な起業・創業支援 ・芸術・文化・スポーツの振興
新たな時代の国際都市にふさわしい都市の魅力をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・都心・三宮再整備 ・ウォーターフロント地区の魅力向上 ・都心・ウォーターフロントの回遊性向上 ・観光誘客の推進 ・森林・里山の再生 ・芸術・文化・スポーツの振興（再掲）
圏域経済を牽引する大都市として、神戸経済のさらなる成長と国際競争力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸経済のグローバル化推進（再掲） ・国際コンテナ戦略港湾政策の推進 ・市内産業の活性化 ・企業誘致の推進 ・就業人口の拡大 ・農水産業の活性化 ・多様な食文化の発信と地場産業の振興 ・革新的な起業・創業支援（再掲） ・大学・企業等との共創によるまちづくり ・神戸医療産業都市の推進 ・観光誘客の推進（再掲） ・多様な大都市制度の実現・自治体間連携の推進

(2) KPI

KPI		現状値 (2025 年)	目標値 (2030 年)
1	神戸空港利用者数	〇〇	〇〇
(設定理由) 世界に開かれ持続的に発展するまちの実現に向けて、国内外とのつながりを測るための指標を設定。			
2	コンテナ取扱貨物量	〇〇	〇〇
(設定理由) 港湾物流業の発展による、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、神戸港に関連する経済の活性化や成長の動向を測るための指標を設定。			
3	市内スタートアップ数	〇〇	〇〇

<p>(設定理由)</p> <p>国内外の多様な人材や企業と市内の産官学が連携し、新しい価値を創出することによる、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、市内における起業の動向を測るための指標を設定。</p>			
4	都心・三宮の滞留人口	〇〇	〇〇
<p>(設定理由)</p> <p>自然・文化の魅力と都心・三宮の再整備の相乗効果を活かした魅力発信による、新たな国際都市にふさわしい都心の実現に向けて、都心部の賑わいを測るための指標を設定。</p>			
5	市内延べ宿泊者数	〇〇	〇〇
<p>(設定理由)</p> <p>自然・文化の魅力と都心・三宮の再整備の相乗効果を活かした魅力発信による、新たな国際都市にふさわしい都心の実現に向けて、国内外からの観光需要を測るための指標を設定。</p>			
6	市内企業立地数	〇〇	〇〇
<p>(設定理由)</p> <p>既存産業の発展、新たな成長産業の創出による、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、地域経済の活性化や成長の動向を測るための指標を設定。</p>			
7	大学・高専の新卒者の市内就職率	〇〇	〇〇
<p>(設定理由)</p> <p>既存産業の発展と新産業の創出による、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、神戸での雇用創出の度合いを測るための指標を設定。</p>			
8	一次産業の市内総生産	〇〇	〇〇
<p>(設定理由)</p> <p>農水産、食等の既存産業の発展による、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、一次産業者の経済活動の活性化や成長の動向を測るための指標を設定。</p>			
9	地場産業の海外輸出額(アパレル、ケミカルシューズ、真珠加工、清酒、洋菓子)	〇〇	〇〇
<p>(設定理由)</p> <p>ものづくり、農水産、食等の既存産業の発展による、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、地場産業の経済の活性化や成長の動向を測るための指標を設定。</p>			
10	卸売市場における県内産青果物の割合	〇〇	〇〇
<p>(設定理由)</p> <p>農水産、食等の既存産業の発展による、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、地産地消の推進とブランド化、地元生産者の販路拡大の状況を測るための指標を設定。</p>			

※基本計画より抜粋

方向性Ⅱ 個性豊かで多様な地域の融合 「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

神戸の地理的特性や歴史の中で形作られた個性豊かなまちなみや、豊かな自然は、神戸ならではの魅力です。今後、全国的に人口減少が進む中でも、先人たちがこれまでの歴史の中で築いてきた貴重な財産を最大限に活かし、磨いていくことで、将来世代が充実したライフスタイルを送ることができるよう、これからも「多彩な表情を見せるまち」を守り育てていきます。

都心部では、居住機能との調和を図りながら、商業施設や業務機能の集積を進めていきます。国内外から多くの人々が訪れ、買い物やアート、食事など五感を刺激する体験ができる場を創出します。また、魅力的なビジネス環境の整備も進めていきます。

既成市街地やニュータウンでは、まちの顔である駅を中心に、生活利便施設のリニューアルや、職住近接の取り組みを進めます。さらに、商店街などに息づく下町文化を活かし、まちの魅力と暮らしの質を高めていきます。

また、海や山、農村・里山地域など、神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進することで、自然と調和するまちの魅力を高めていきます。

そして、こうした多彩なまちなみをつなぐ公共交通網を維持・充実させ、それぞれの日常と非日常が交わる都市空間を実現することで、市民の満足度を高め、いつまでも住み続けたいと思えるまちへ、そして、国内外から愛され選ばれる都市を目指します。

(1) 基本政策と主な施策

基本政策	主な施策
五感を刺激する体験と魅力的なビジネス環境を創出する都心をつくる	<ul style="list-style-type: none">・都心・三宮再整備（再掲）・ウォーターフロント地区の魅力向上（再掲）・ポートアイランド・六甲アイランド・HAT 神戸の活性化・芸術・文化・スポーツの振興（再掲）・多様な食文化の発信と地場産業の振興（再掲）
ゆとりある上質な暮らしが生まれる既成市街地・ニュータウンの再生を推進する	<ul style="list-style-type: none">・駅周辺のリノベーション・オールドタウン対策・空き家空き地対策の推進・商店街の活性化
海と山を感じる豊かな自然を次代につなぐ	<ul style="list-style-type: none">・森林・里山の再生（再掲）・農村地域等の賑わい創出・農水産業の活性化（再掲）

個性豊かなまちなみをつなぎ日常と非日常が交わる都市をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の維持確保 ・既存ストックの有効活用 ・多彩なライフスタイルを実現する住宅供給・支援
-------------------------------	---

(2) KPI

KPI		現状値 (2025 年)	目標値 (2030 年)
1	都心・三宮の滞留人口（再掲）	〇〇	〇〇
（設定理由） 商業・業務機能の集積と魅力的なビジネス環境の整備により、国内外から多くの人が訪れる都市の実現に向けて、都心部の賑わいを測るための指標を設定。			
2	主要駅の乗降客数	〇〇	〇〇
（設定理由） 既成市街地やニュータウンにおいて、駅を中心とした生活利便性の向上や職住近接の取り組みにより、持続可能な地域社会づくりに向けて、駅周辺の人流を測るための指標を設定。			
3	公共交通分担率	〇〇	〇〇
（設定理由） 多彩なまちなみをつなぐ公共交通網の維持・充実を通じて、理想のライフスタイルを送ることができるまちの実現に向けて、公共交通網の充実度を測るための指標を設定。			
4	商店街エリアのにぎわい	〇〇	〇〇
（設定理由） 下町の魅力を支える商店街の維持に向けて、地域住民や来訪者による商店街エリアの賑わいを測るための指標を設定。			
5	広葉樹林の持続可能な森林資源の循環量	〇〇	〇〇
（設定理由） 神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進し、自然と調和した魅力あるまちの実現に向けて、森林資源の活用や保全を測るための指標を設定。			

※基本計画より抜粋

方向性Ⅲ とともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これまでの歴史によって培われた進取の気風や、ともに災害を乗り越えてきた絆は、神戸のまちと人に受け継がれてきました。今後、先行きが不透明な変化の激しい時代においても、誰もが寄り添って助け合い、そして、新たな挑戦を続けていくことで、いつまでも「人間らしいあたたかみのあるまち」を守り育てていきます。

神戸の未来を担う子どもたちをはじめ、性別、年齢、障がいの有無、民族、国籍に関わらず多様な主体や団体が、地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して、それぞれの夢に向かって自由に挑戦でき、主役になれるまちを目指していきます。

また、子育て・教育環境の充実、健康・福祉の増進や、安全で快適な住環境を支えることで、一人ひとりの笑顔を育み、誰もが安心して健やかで心穏やかに暮らせる環境をつくります。

さらに、新たなテクノロジーと先進技術を積極的に取り入れながら、地球環境への貢献や時代をリードする防災力を強化し、より豊かで質の高いくらしを実現させます。

そして、それらの取り組みを世界に発信することで、震災でいただいた多くの支援に、いつまでも感謝の気持ちを忘れることなく、国内外に貢献していくまちを目指します。

(1) 基本政策と主な施策

基本政策	主な施策
地域の交流と協働を促進し、誰もが安心して夢に向かって挑戦できる社会をつくる	<ul style="list-style-type: none">・市民生活・地域活動の支援・大学・企業等との共創によるまちづくり(再掲)・外国人との共生
子育てと仕事の両立を支え、こどもたちの健やかな成長と豊かな感性を育む	<ul style="list-style-type: none">・子育て世帯の経済的負担の軽減・子育て環境の充実・教育・保育環境の充実、保育人材の確保・こうべ女性活躍プロジェクトの推進・学びの環境整備・体験機会の充実・こどもの外遊びの推進・コベカツの推進に向けた取り組み
きめ細かい多様な支援により誰もが安心して健やかに暮らせる環境をつくる	<ul style="list-style-type: none">・健康づくりの推進・医療の充実・高齢者施策の充実・障害者施策の充実・不登校児童生徒に対する支援

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待防止対策の強化 ・孤独・孤立対策 ・生活困窮者等に対する支援 ・市民生活・地域活動の支援（再掲）
ともに困難を乗り越えてきた絆と経験を活かし、あらゆる危機から市民の安全・安心を守る	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応力の向上 ・消防力の強化 ・くらしの安全・安心を守る ・高温常態化対策 ・物価高騰に対する経済支援 ・安全で快適な住環境を支える ・森林里山の再生（再掲）
既存資源を活かしながら新たな価値創出と循環型社会に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な資源循環の促進 ・再生可能エネルギーの拡大 ・水素スマートシティ神戸構想の推進 ・森林里山の再生（再掲）
デジタル技術の活用と行政機能の強化により、便利でわかりやすい市民サービスを提供する	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化による市民サービスの利便性向上 ・支所・出張所等の機能強化
国内外に貢献する持続可能な大都市をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な大都市制度の実現・自治体間連携の推進 ・行政基盤を支える働き方改革の推進 ・EBPM の推進

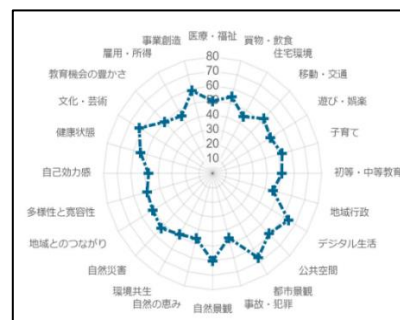
（２）KPI

KPI		現状値 (2025 年)	目標値 (2030 年)
1	新たな地域貢献活動の創出数	〇〇	〇〇
（設定理由） 多様な人々が地域でつながり支え合い、誰もが安心して挑戦できる、主役になれるまちの実現に向けて、地域への愛着やコミュニティのつながり、地域活動の活性化の度合いを測るための指標を設定。			
2	高齢者の生きがい活動件数	〇〇	〇〇
（設定理由） 高齢者が地域の中で役割やつながりを持ち、心身ともに健やかに暮らし続けられる社会の実現に向けて、高齢者の地域活動の活発度合いを測るための指標を設定。			
3	子育て関連事業の利用者満足度	〇〇	〇〇
（設定理由） 子育て環境の充実を通じて、子育てと仕事の両立ができるまちの実現に向けて、子育て支援の満足度を測るための指標を設定。			

4	全国学力・学習状況調査における、課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んだ児童生徒の割合	〇〇	〇〇
(設定理由) 子育てや教育環境の充実を通じて、子どもたちの健やかな成長と豊かな感性が育まれるまちの実現に向けて、子どもの主体的な学びの姿勢を測るための指標を設定。			
5	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、体力合計点の平均値	〇〇	〇〇
(設定理由) 子育てや教育環境の充実を通じて、子どもたちの健やかな成長と豊かな感性が育まれるまちの実現に向けて、子どもの健康や運動習慣の状況を測るための指標を設定。			
6	市域における再生可能エネルギー導入量	〇〇	〇〇
(設定理由) 新たなテクノロジーと先進技術を活用した循環型社会への貢献による、豊かで質の高いくらしの実現に向けて、市内での再生可能エネルギーの利用の度合いを測るための指標を設定。			
7	公共インフラ（橋梁・上下水道）の耐震化率	〇〇	〇〇
(設定理由) 防災力の強化による、安心して暮らせる環境の実現に向けて、生活の基礎となる公共インフラの耐震化度合いを測るための指標を設定。			
8	新たな市政課題に対応するために創出した時間数	〇〇	〇〇
(設定理由) 人口減少や東京一極集中が進む中においても、複雑化・多様化する市政課題に対応し、行政サービスの質の向上と持続可能な行政運営の実現に向けて、「やめる・へらす・かえる」の視点やAI等を活用した業務改革により既存業務の効率化・最適化を推進し、その成果として創出した時間を測るための指標を設定。			

○Well-Being 指標に関する KPI

KPI	現状値 (2025 年)	目標値 (2030 年)
Well-Being 指標の客観指標	全指標の平均値 50.8	現状値以上
<p>(設定理由)</p> <p>神戸市独自の KPI に加え、自治体経営の土台となる幸福度を測る Well-Being 指標の客観指標を KPI として設定することで、幅広い政策分野の水準を今以上に高めることを目指すとともに幸福度に関する KGI の達成に向けた進捗状況を測る。また、必要に応じて主観指標も参考値として活用する。</p> <p>【参考】Well-Being 指標の概要</p> <p>国が推進する「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、Well-Being 指標の活用が進められています。この指標は、総合指標（幸福度・生活満足度）を最上位に置き、その要因を客観・主観両指標から分析するものです。</p> <p>客観指標は、統計調査の結果等により自治体の施策の状況等を客観的に測定する指標であり、主観指標は、市民の主観によるアンケートにより各施策の市民への浸透度合い等を測定する指標です。</p> <p>※Well-Being 指標の詳細内容及びダッシュボードは下記 URL を参照 https://well-being.digital.go.jp/</p>		



BE KOBE

神戸 2025 ビジョン

【第4版】

令和6年12月

神戸 2025 ビジョン策定にあたって



このたび、2021 年度（令和 3 年度）から 2025 年度（令和 7 年度）までを目標年次とする「神戸 2025 ビジョン」を策定しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人口減少、超高齢社会、東京一極集中など、従来から地方が抱える課題に加え、with コロナ時代、さらにその先のポストコロナ時代を見据えながらさまざまな施策を講じていく必要があります。

神戸は、市街地から至近の場所に六甲山や里山農村地域が広がり、穏やかな瀬戸内海に面しているなど豊かな自然環境に恵まれています。この地理的特長を最大限に活かし、人間中心で持続可能なバランスのとれたまちづくりを進めていくことが重要です。

また、進化するテクノロジーを積極的に取り入れながら、誰もが学び、働き、子育てし、住み続けるまちとして選ぶよう、「まちの質」「くらしの質」を重視した施策の強化を図り、神戸を見違えるまちへと変えていかなければなりません。

こうした背景を踏まえて、国連サミットで採択された SDGs（持続可能な開発目標）の考え方を取り入れ、神戸 2025 ビジョンのテーマを「海と山が育むグローバル貢献都市」としました。

海と山の豊かな自然環境、開港以来育まれてきた国際性や多様性といった神戸の強みを磨き、活かしながら、環境に貢献するまちづくりを進め、他者のために貢献する利他の市民性を発揮して、市民が心豊かに幸せを実感できるまちの実現をめざします。

最後に、神戸 2025 ビジョンの策定にあたり、市民、市会をはじめ、企業、団体及び学識経験者などから多くの貴重なご意見、ご提案をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

神戸市長 久元 喜造

1. 神戸 2025 ビジョンの意義と位置づけ

神戸市では、2025 年（令和 7 年）までの神戸の都市像、まちづくりの方向性を示した「新・神戸市基本構想」、「神戸づくりの指針」を実現するため、5 か年の実施計画である神戸 2020 ビジョンを策定し、取り組んでいます。

神戸 2020 ビジョンが、2020 年度（令和 2 年度）で終了することから、その後継計画として、2025 年度（令和 7 年度）までの実施計画である神戸 2025 ビジョンを策定しました。

また、この神戸 2025 ビジョンは、少子高齢化の進展や急激な人口減少、東京一極集中の進行といった喫緊の課題を克服し、地方創生を実現するために、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき国が策定した第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、「神戸人口ビジョン（改訂版）」を踏まえた「地方版総合戦略」としての位置づけも有します。

2. 計画期間

2021 年度（令和 3 年度）～2025 年度（令和 7 年度）

3. 策定の背景（時代の潮流）

我が国は、本格的な人口減少、超高齢社会に突入しています。総人口は、2008 年（平成 20 年）をピークに減少局面に入っており、2019 年度（令和元年度）に改訂された国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、人口減少対策を何も講じない場合、2060 年（令和 42 年）には約 9,300 万人と、3 割近く減少する見通しとなっています。また、健康寿命の延伸などによって、総人口に占める高齢者の割合は 2019 年（令和元年）に約 28%と過去最高を記録し、今後も日本の老年人口は増加し、高齢化率も更に上昇する見通しとなっています。

人口移動については、住民基本台帳に基づく、令和元年の人口移動報告によると、全国から東京圏に対し 24 年連続の転出超過となっており、総人口の約 3 割が集中するなど、東京一極集中が加速化しています。

神戸市もこのような問題に直面しており、2012 年（平成 24 年）には総人口が初めて減少に転じ、高齢化も進行しています。市民の暮らしを支える地域の社会・経済システムの維持・存続に影響を及ぼす可能性があります。

さらに、2019 年（令和元年）に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的規模で大流行しています。我が国においても、全国的に感染者が確認され、特に都市部では感染者数が急増し、医療提供体制がひっ迫する事態も危惧されます。2020 年（令和 2 年）4 月及び 2021 年（令和 3 年）1 月には、国によって緊急事態宣言が発出され、市民生活・経済活動に大きな影響が出ました。国や地方自治体は、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着をはじめ、検査体制や医療体制を整えるとともに、経済的に厳しい状況にある住民や事業者を支援するなど、感染拡大の防止と社会経済活動の維持・回復の両立を図っています。

一方で、このような状況を契機として、人々の暮らし方や働き方をはじめ、産業構造や企業行動、地方自治体の行政運営などが大きく変化しようとしています。具体的には、産業、教育、医療、行政など、あらゆる現場でのデジタル化や、テレワークなどの進展に伴う通勤・通学形態や働き方などを通じて、市民生活や経済活動のあり方が見直されており、先に述べた東京一極集中の状況の変化にも的確に対応していく必要があります。

4. 神戸市 with コロナ対応戦略の策定と神戸 2025 ビジョンへの反映

新型コロナウイルス感染症の存在を前提にした with コロナ時代が今後、年単位の期間で継続されるという認識のもと、神戸市の施策だけでなく、市民の生活スタイルや経済活動を with コロナ時代に対応したものへと変容させることが求められます。

そこで、①市民のみなさまの不安にいかに向き合うか、②「高密度至上主義」からいかに脱却するか、③「人」と「人」との絆をいかに紡いでいくか、を重要な視点と捉え、感染拡大の防止と市民生活・経済活動の維持・回復を両立させていくことをめざし、2020 年（令和 2 年）9 月に「神戸市 with コロナ対応戦略」を策定しました。本戦略を神戸 2025 ビジョンのテーマ、基本的な考え方や施策などに反映しています。

5. 神戸 2025 ビジョンの全体構成

神戸 2025 ビジョンは、策定の背景（時代の潮流）、「神戸人口ビジョン」、国の第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「神戸市 with コロナ対応戦略」などを踏まえ、「ビジョンのテーマ」、その核となる「基本的な考え方」、及び「基本目標（ビジョンの施策）」により構成しています。

神戸2025ビジョン 全体構成						
ビジョンのテーマ						
海と山が育むグローバル貢献都市						
基本的な考え方						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 豊かな自然と文化、多様な価値観が融合する神戸の強みを磨き、活かした新たな価値・スタイルを創造する ○ 人口減少時代に向き合い、神戸のまち・くらしの質を高め、成熟都市の魅力を訴求し、好循環へ転換する ○ 神戸に住み、働き、学び、楽しみ、あらゆる関係者が幸福を実感するまちを実現する ○ ダイバーシティ推進やジェンダー平等の視点を確保し、女性が活躍できる環境を整え、外国人市民をはじめとした多様な市民の参画による多文化共生社会を実現する ○ 震災から再起した市民の知恵・気風を活かし、あらゆる危機への備え、誰一人として取り残さず、人を大切にする安心・安全なまちを実現する ○ テクノロジーの実装・デジタル化の加速による市民生活の豊かさや利便性向上、経済活動の回復・成長、環境貢献など、SDGsの達成による持続可能な都市を実現する 						
基本目標						
①魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長	②妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実	③多様な文化・芸術・魅力づくり	④災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築	⑤安心・健康でゆとりあるくらしの実現	⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ	⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化
数値目標・施策・事業・事業のKPI						

国の第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

▲ 勘案

【横断的な目標 1】多様な人材の活躍を推進する 【横断的な目標 2】新しい時代の流れを力にする（Society 5.0の推進、地方創生SDGsの実現など）			
【基本目標 1】 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする	【基本目標 2】 地方とのつながりを楽しみ、地方への新しいひとの流れをつくる	【基本目標 3】 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	【基本目標 4】 ひとが集う、安心してくらすことのできる魅力的な地域を作る

（１）ビジョンのテーマ

海と山が育むグローバル貢献都市

感染症の流行により自然環境へのニーズが高まる中、神戸には都心部に近接した海や山などの自然、里山・農村といった豊かな資源があります。さらに、古来より海外との貿易港として栄え、開港以降、いち早く外国文化を取り入れ、国内外からさまざまな影響を受けながら発展してきた多彩な芸術文化があります。

豊かな自然環境、国際性や多様性、芸術文化といった神戸の強みを磨き、活かし、神戸のまちの力である「人に優しく、人を大切にする」という気風を今後も変わらず大事にしながら、阪神・淡路大震災を経験し、世界から支援を受け、乗り越えてきたまちとして、被災地の復興やコミュニティの再生などに貢献します。

また、withコロナ・ポストコロナの時代には、新たな価値やスタイルに対応し、危機感を持って変化していく必要があります。感染症やあらゆる災害などに対し、ソフト・ハードの両面からより強いまちをつくとともに、まちのリノベーションを進め、まちの質・くらしの質を一層高めることで、住み心地の良い、見違えるようなまちをめざします。あわせて、市民や神戸を応援してくれる方々の、他者のために貢献する利他の思いを大切に、さらに醸成して、広げていくことにより、コロナ禍を乗り越え、地域課題の解決につなげていきます。

さらに、地球温暖化に伴う気候変動の影響が顕在化している中、自然と太陽のめぐみを再認識し、再生可能エネルギーや先駆的な環境技術及び水素エネルギーの利活用、省エネルギー、ごみの減量や資源化に取り組み、神戸の海、山、川、田園、生きものなどの豊かな自然環境、健全な水大気環境の保全など環境に貢献するまちづくりを進めます。

これらの取り組みを広く発信することで、国内外に神戸の魅力を訴求し、にぎわい創出につなげていきます。

このような考え方にに基づき、市民一人ひとりが安心安全で心豊かに幸せを実感できる生活を享受でき、将来を担う若者が輝き、活躍できる持続可能な社会を築く「海と山が育むグローバル貢献都市」をめざします。

（２）基本的な考え方

- 豊かな自然と文化、多様な価値観が融合する神戸の強みを磨き、活かした新たな価値・スタイルを創造する
- 人口減少時代に向き合い、神戸のまち・くらしの質を高め、成熟都市の魅力を訴求し、好循環へ転換する
- 神戸に住み、働き、学び、楽しみ、あらゆる関係者が幸福を実感するまちを実現する
- ダイバーシティ※推進やジェンダー※平等の視点を確保し、女性が活躍できる環境を整え、外国人市民をはじめとした多様な市民の参画による多文化共生社会を実現する
- 震災から再起した市民の知恵・気風を活かし、あらゆる危機への備え、誰一人として取り残さず、人を大切にする安心・安全なまちを実現する
- テクノロジーの実装・デジタル化の加速による市民生活の豊かさと利便性向上、経済活動の回復・成長、環境貢献など、SDGsの達成による持続可能な都市を実現する

※ ダイバーシティ…性別、人種、宗教、思想などあらゆる違い（多様性）を尊重し活かしていくこと

※ ジェンダー…社会的・文化的に形成された性別のこと

■ 持続可能な社会の構築に向けた取り組み

「持続可能な開発目標（SDGs）」とは、2015年（平成27年）9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」※にて記載された2030年（令和12年）までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

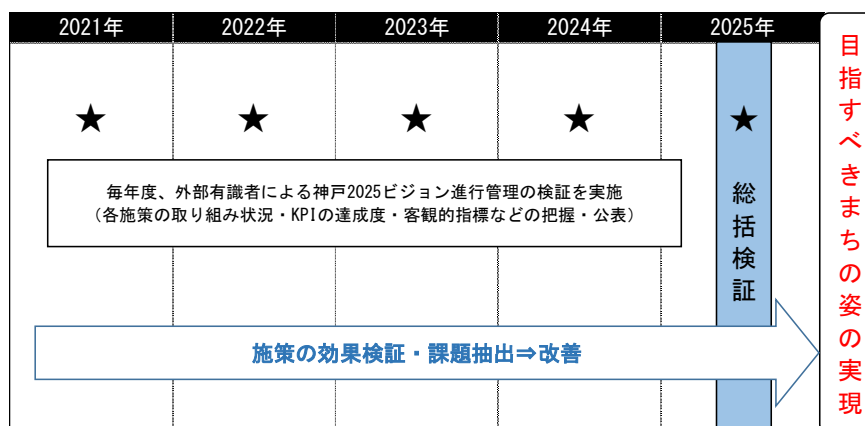
神戸市では、兵庫県とともに最先端のテクノロジーを活用して、イノベーションを通じたSDGsの実現に向けて、積極的な取り組みを進めています。地方創生を一層促進する上でも、SDGsの考え方を取り入れて、戦略的に取り組みを進めていくことが重要であり、本ビジョンにおいても、これらの目標を意識し、ビジョンの実現を通じて神戸におけるSDGsの達成をめざしていきます。

※ 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」…2015年（平成27年）9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」で採択された成果文章



6. ビジョンの進行管理

テーマに掲げたまちの姿の実現に向け、神戸2025ビジョンの進行管理に取り組みます。毎年度、基本目標（施策の柱）ごとに定める数値目標の達成度、各施策の取り組み状況やKPI（重要業績評価指標）の達成度を把握するとともに、まちの質・くらしの質を示す客観的指標やSDGsローカル指標など、さまざまなデータも踏まえながら、効果検証を実施し、課題の抽出や改善を行っていきます。また、社会経済情勢などの外部環境に大きな変化が生じた場合には、見直しの検討を行い、柔軟に対応していきます。



SDGs 17のゴールとビジョンの各基本目標

	基本目標		基本目標
	②妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実 ⑤安心・健康でゆとりあるくらしの実現 ⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化		①魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長 ②妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実 ⑤安心・健康でゆとりあるくらしの実現 ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ ⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化
	②妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実 ⑤安心・健康でゆとりあるくらしの実現 ⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化		①魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長 ③多様な文化・芸術・魅力づくり ④災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築 ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ ⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化
	①魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長 ④災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築 ⑤安心・健康でゆとりあるくらしの実現 ⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化		③多様な文化・芸術・魅力づくり ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ
	②妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実 ③多様な文化・芸術・魅力づくり ④災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築 ⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化		④災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築 ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ
	①魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長 ②妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実 ③多様な文化・芸術・魅力づくり ④災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築 ⑤安心・健康でゆとりあるくらしの実現 ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ ⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化		①魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長 ③多様な文化・芸術・魅力づくり ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ
	⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ		③多様な文化・芸術・魅力づくり ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ
	①魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長 ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ		②妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実 ④災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築 ⑤安心・健康でゆとりあるくらしの実現 ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ
	①魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長 ②妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実 ⑤安心・健康でゆとりあるくらしの実現 ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ ⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化		①魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長 ②妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実 ③多様な文化・芸術・魅力づくり ④災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築 ⑤安心・健康でゆとりあるくらしの実現 ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ ⑦多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化
	①魅力的な仕事の創出と多様な市民による経済成長 ③多様な文化・芸術・魅力づくり ④災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築 ⑥将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ		

7. 加速する人口減少への対応

神戸市の人口は、開港、戦後の全国的な高度経済成長の波を捉え着実に増えていき、1992 年（平成 4 年）には 150 万人に到達しました。その間、増え続ける人口の受け皿として、海と山に挟まれた旧市街地に加え、山間部を造成しその土で海を埋め立てるなど、画期的な方法で居住地域を拡大してきました。その後の阪神・淡路大震災による人口流出を乗り越え、再び 2001 年（平成 13 年）に 150 万人に回復した後も人口は増え続けましたが、2011 年（平成 23 年）の約 154 万人をピークに減少局面に入っています。この減少の大きな原因は我が国全体の課題でもある出生と死亡に基づく自然増減であり、団塊の世代が後期高齢者となる「2025 年問題」も控えるなか、2023 年（令和 5 年）10 月に、神戸市の人口は 150 万人を割り込みました。

このような潮流のなかでも、以下のような「人口減少を抑制する観点」及び「人口減少に適応する観点」の両輪から取り組みを進めていくことで、市民の暮らしを支える地域の社会・経済システムを維持・存続し、柔軟でしなやかな都市経営を続けていきます。

<主な取り組み>

基本目標 1 魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長

- ① 中小企業の事業承継・競争力強化・海外展開
- ⑤ 持続的な農業と農村地域の活性化
- ⑦ 神戸医療産業都市の推進
- ⑧ 企業誘致の推進
- ⑩ 国際的なネットワークの構築による外国人材の集積
- ⑪ 在住外国人との共生の推進
- ⑫ 大学などとの連携促進
- ⑬ 女性が活躍できる環境づくり

基本目標 2 妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実

- ① 妊娠・出産・子育て支援、子育て支援施策の情報発信

基本目標 3 多様な文化・芸術・魅力づくり

- ⑥ 首都圏などへの神戸の魅力発信及び移住促進
- ⑨ 都心・三宮再整備の推進と回遊性の向上
- ⑩ ウォーターフロントなどの魅力向上
- ⑪ 駅前空間の魅力向上

基本目標 4 災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築

- ② 災害に強いみなとづくり
- ⑨ 行政手続きスマート化

基本目標 5 安心・健康でゆとりあるくらしの実現

- ⑥ 「健康創造都市 KOBE」の推進

基本目標 6 将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ

- ① 空き家・空き地対策
- ② きめ細かで持続可能な交通環境の形成
- ⑥ 計画的開発団地・都市公園などのリノベーション

基本目標 7 多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化

- ① 地域活動の活性化

8. 神戸空港の国際化への対応

○ 経緯

神戸港が開港した 1868 年（明治元年）以来、神戸は都市の玄関口となる広域交通拠点として鉄道・高速道路ネットワーク・神戸空港を整備し、人やものが行き交うことで地域文化が形成され、日本を代表する国際都市として発展してきました。

2022 年（令和 4 年）に開催された第 12 回関西 3 空港懇談会において、今後の神戸空港のあり方として、2025 年（令和 7 年）の国際チャーター便の運用開始・国内線発着枠の拡大（1 日最大 120 発着回）、2030 年（令和 12 年）頃の国際定期便就航（1 日最大 40 発着回）という道筋が示されました。

神戸が国際都市として新たなステージを迎えるにあたり、その効果を都市の成長・発展へつなげていくことが重要です。

○ 対応の方向性

第 12 回関西 3 空港懇談会で合意された「神戸空港の機能強化」を確実に実現し、新たな国際都市として魅力あふれるまちであり続けるために、空港基本施設や新たなターミナル整備など、神戸の空の玄関口にふさわしい空港整備を着実に推進していきます。また、広域道路ネットワークの整備促進や、ポートライナーの輸送力強化など、利用者需要を見据えた「交通アクセスの強化」を図りつつ、関西 3 空港の需要拡大に貢献できる「観光・ビジネス需要の創出」に向け、関西経済界や周辺自治体と協力しながら取り組んでいきます。

今後は、グローバル社会の中で環境等に配慮した付加価値が高い持続可能な新たな国際都市の実現に向け、神戸の将来像を次期総合基本計画策定の中で検討しながら、時代をリードする施策を積極的に展開していきます。



9. 基本目標（ビジョンの施策）

基本目標 1 魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長

基本的方向



神戸市の人口動態の特徴として、大学卒業後の25歳～29歳の世代の転出超過、特に東京圏への流出が顕著になっている点があげられます。人口の東京一極集中により、産業も東京に集中する傾向があり、既存の地元産業の活性化対策と、新たな産業の振興に危機感を持って取り組む必要があります。

新型コロナウイルス感染症による、若者を中心とした地元回帰や地方移住の希望の高まりなどの価値観の変化も踏まえながら、若者が神戸を働く場所として選ぶことをめざし、魅力的な仕事の創出や起業環境の充実に引き続き取り組みます。加えて、仕事と子育て・家事を両立できる環境づくり、キャリアブランクのある女性の再就職・転職希望者の支援など女性の就労支援や、ひとり親家庭の就労支援を進め、一人ひとりが働きやすいまちづくりを推進します。

また、多様化する社会課題や市民ニーズに応えるため、神戸市が有するデータのみならず、市民や民間事業者など、市政に関わるさまざまな主体が有するデータを連携させ、分野横断でのデータ活用を可能とするデータ連携基盤を構築します。中小企業のデジタル化やリモートワーク、キャッシュレス化の推進などICTなどのテクノロジーを活用した課題解決の取り組み、副業人材の活用などを支援し、企業の構造改革を促すことにより、市内企業の魅力や競争力を高めるとともに、市外から人材を呼び込み、関係人口※を創出・拡大して地域づくりに携わる方の増加につなげます。これにより、これまで神戸の産業を支えてきた製造業に加え、情報通信産業など都市型創造産業とそれを担う多様な人材の集積を図ります。こうした産業や起業家、クリエイターの集積により、神戸に新しい成長のエンジンが生まれ、革新的な企業や事業が生み出される都市として国内外に認知されることをめざすとともに、市外からの資金流入と域内循環の強化を図ります。

with コロナ・ポストコロナ時代を見据え、「新たな生活様式」への対応に取り組む市内企業、個人事業主を最大限支援し、コロナ禍からの早期回復、持続的な経済成長をめざします。

あわせて、「六甲山上スマートシティ構想」や「里山・農村地域活性化ビジョン」を推進するとともに、自然が持つ多様な機能を活用し、地域課題の解決をめざす「グリーンインフラ」の取り組みを進めます。

また、市内産の農水産物の地産地消を進め、神戸の食の魅力を発信することで農漁業のさらなる活性化とともに「食都神戸」の構築につなげます。

さらに、テクノロジー進化のメリットを市民が享受し、市民の生活の利便性の向上と豊かさ、幸せにつながる「テクノロジー進化の実験都市」を推進し、人間中心の目線で社会課題を解決する「Human×Smart」なまちの実現をめざします。

※ 関係人口…移住した「定住人口」でもなく、観光にきた「交流人口」でもない、地域と多様に関わる者

数値目標

- ・雇用創出数（医療関連企業を含む）：3,400人【2021年度(令和3年度)～2025年度(令和7年度)】
- ・大学生アンケート「勤務希望地を「神戸市」とした人の割合：45%以上【2025年度(令和7年度)】

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 中小企業の事業承継・競争力強化・海外展開

中小企業におけるITツール（ソフトウェア）やIoT・AI・ロボットなどの導入について、セミナー開催などによる普及啓発に努めるとともに、経営相談や専門人材派遣などを通じて、各事業者の課題抽出や最適なシステム導入へのアドバイスを実施し、中小企業のDX（デジタル・トランスフォーメーション；デジタル化）促進を支援します。また、副業やフリーランスの人材の活用事例を紹介するなど、市内企業の多様な人材活用を支援します。

また、事業承継に課題を抱える中小企業を支援するため、専門家の派遣などにより、円滑な事業承継を後押しするとともに、後継者不在企業には、起業家など第三者とのマッチングを実施し、事業の継続を図ります。

さらに、人口減少・少子高齢化等の社会構造の変化により、国内需要の減少が予測される中、市内企業の持続的な成長を支える一環として、海外展開を積極的に支援します。

—事業例と KPI—

・テクノロジーを活用した企業の課題解決支援

KPI 専門家派遣による IT などの導入件数：100 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

② 新しい生活様式に対応した企業活動の支援

「新しい生活様式」の定着に伴い変容する生活スタイルや消費動向に対応し、リモートワークをはじめとした働き方改革や、オンライン商談会・展示会といった非対面・非接触の商談取引手法の導入、新事業の展開などに取り組む事業者に対し、セミナーなどによる啓発、人材育成支援、経営相談支援などに取り組みます。

—事業例と KPI—

・テクノロジーを活用した企業の課題解決支援（再掲）

③ スタートアップ支援・イノベーション創出

2021 年（令和 3 年）4 月に開設のビジネススクエア「ANCHOR KOBE」（アンカー神戸）を核として起業家育成に取り組むほか、市内大学や企業と連携し、起業から成長まで切れ目のない支援を行うことで、域内スタートアップの設立促進・育成を図るとともに海外展開を支援します。加えて、海外スタートアップについては、受入れ環境の整備や市内企業のマッチングなど神戸への進出を支援します。

また、行政が抱える課題解決を通じたスタートアップ支援プログラム「アーバンイノベーション神戸」における実証フィールドの提供・成果に応じた調達、資金調達環境の整備などに取り組みます。

あわせて、神戸医療産業都市ライフサイエンス・スタートアップエコシステム構築事業を実施します。



さらに、市内ものづくり企業と大学、起業家などの交流促進の機会を創出し、実践的なオープンイノベーションの誘発をめざします。

海洋産業の分野においては、海洋政策を学べる神戸大学や、造船や水中探査船の技術を持つ民間企業があり、これにより神戸の強みを活用した「知の集積」を中心としたネットワークを構築し、産業振興へとつなげる仕組みづくりを行います。

—事業例と KPI—

- ・大学・企業と連携したスタートアップ創業支援及び起業家育成

KPI ・域内スタートアップ設立数：80 社【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】
・域内大学発ベンチャー設立数：20 社【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】
・域内スタートアップ VISA 認定件数：15 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

- ・スタートアップ育成・集積のための総合的支援

KPI ・支援スタートアップ数：1,000 社【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】
・ベンチャーキャピタルやファンドの投資スタートアップ数
：100 社【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

④ 六甲山上スマートシティ構想の推進・都市型創造産業の集積

美しい自然が広がる六甲山において、IT ベンチャーやクリエイターなどの都市型創造産業が集積する「自然調和型オフィス（没入空間）」、データや IoT 技術を活用したサービスが実現する「最先端テクノロジー（実装空間）」、企業・クリエイター・住民のコラボレーションが生まれる「創造を生むつながり（共創空間）」の 3 つの環境を作り出すことにより、心豊かに働き、遊び、暮らすことができる空間を実現します。



—事業例と KPI—

- ・六甲山上スマートシティ構想の推進

KPI ・山上オフィス企業会員数：200 社【2023 年度(令和 5 年度)】
・山上オフィス月あたり利用者数：延 1,800 人【2023 年度(令和 5 年度)】

⑤ 持続的な農業と農村地域の活性化

新型コロナウイルス感染症を契機として、里山や農村地域などで過ごす新たなライフスタイルが注目されていますが、都心に隣接しているながら、茅葺民家などの魅力ある風景や豊かな自然が残る神戸の農村は非常に暮らしやすい環境が整っています。農業にも生活にも恵まれた環境を最大限活かし、「持続可能な農業の振興」、「農村定住環境の整備」、「自然文化環境の保全」の 3 本柱で取り組みを進め、持続可能な農業と快適な里山暮らしを実現します。

また、環境保全や、多様ないのちを育む豊かな自然とその恵みを次世代につなぐ自然共生都市をめざし、生物多様性を保全する取り組みを進めます。

—事業例と KPI—

・里山・農村地域活性化ビジョンの推進

- KPI
- ・営農組織の広域化・法人化：5 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】
 - ・省力化農業用機械の導入件数：50 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】
 - ・農村移住件数：75 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】
 - ・農村地域における起業数：125 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

⑥ 食都神戸の推進

瀬戸内海に面した港町神戸は、都市と農村が近く、豊かな自然に囲まれ、質の高い農水産物が生産されています。一方、都市地域では、港町として交易を中心に栄えてきた経緯から、いかなごのくぎ煮をはじめとした独自の多様な食文化が根付いています。

このポテンシャルを活用し、地域の農漁業と関連した持続可能で神戸らしい新たな食ビジネスと食文化を育て、活かす戦略として「食都神戸」を掲げ、世界に誇る持続可能な都市の構築を進めます。旧農業公園を「食」と「農」をテーマとした新たな食文化の創造拠点として再整備し、周辺も含めたエリア全体のにぎわいづくりをめざします。また、都市地域で農に関わる仕組みをつくるアーバンファーマリング※、神戸らしい新たな食の開発、地産地消を進めるファーマーズマーケットなど、市民の日常の中に「農業」や「漁業」がより感じられる取り組みも推進していきます。

※アーバンファーマリング…都市のビルの屋上にある農園や商店街の中にある

空き区間を使った畑のように、都市地域で農業体験ができる場所をつくること



—事業例と KPI—

・食都神戸の推進

- KPI
- ・ローカルフードへのアクセス機会（ファーマーズマーケット、食材フェアなど）と参加者数：500 回、30 万人/年間【2025 年度(令和 7 年度)】
 - ・世界へ向けた神戸の「食」または「食文化」の発信項目：20 種類／累計【2025 年度(令和 7 年度)】
 - ・「農」に関する体験、活動を行っている市民の人数：10 万人/年間【2025 年度(令和 7 年度)】
 - ・地域食材の利用を意識している市民・事業者の割合：80%【2025 年度(令和 7 年度)】

⑦ 神戸医療産業都市の推進

神戸医療産業都市は、阪神・淡路大震災で「いのちの大切さ」を改めて知った神戸市が「市民福祉の向上」、「神戸経済の活性化」、「国際社会への貢献」を目的として開始したプロジェクトです。これまで iPS 細胞を活用した網膜再生医療の臨床研究、国産初の手術支援ロボットなど、さまざまな成果を生み出してきました。



さらなる成果の創出をめざし、産学官の連携による、AI・5G・8K などの最新技術を活用した医療機器の研究開発を推進するとともに、医工連携人材の育成に取り組み、医療機器開発エコシステムの構築を図ります。

また、さまざまな企業との連携が可能な神戸医療産業都市の強みを活かし、企業ニーズを踏まえたヘルスケア関連データの取得などにより、デジタルヘルス分野の研究開発の促進に取り組みます。

自動 PCR 検査ロボットの開発など新型コロナウイルス感染症対策、スーパーコンピュータ「富岳」を活用した革新的な創薬、遠隔医療システムの開発・導入などに取り組み、全地球的規模で貢献していきます。

—事業例と KPI—

・神戸未来医療構想の推進

KPI 神戸未来医療構想に参画する神戸大学や企業による研究開発により、国産手術支援ロボットに実装される新技術の件数：5 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

⑧ 企業誘致の推進

都心地区を中心としたオフィス誘致や、医療、航空・宇宙、新エネルギーなどの成長分野における研究開発型企業や雇用創出効果の高い製造業などを産業団地に誘致します。また、神戸医療産業都市においては、スタートアップの発掘・育成や進出企業との連携を推進することにより、新たな企業集積やイノベーションの創出につなげ、さらなる雇用の増加と神戸経済の活性化を実現します。

あわせて、with コロナ・ポストコロナ時代における新たな用地需要や、市内企業のサプライチェーン強化・再構築への対応を見据え、新たな産業用地の供給について調査・検討を進めます。

また、国内外からのアクセスの利便性をアピールし、外国・外資系企業についても積極的に誘致を進めるとともに、ポートアイランド（第 2 期）においては「ポートアイランド・リボーンプロジェクト」の進捗を踏まえ、ポテンシャルを最大限発揮できる誘致戦略について検討を進めます。

—事業例と KPI—

・雇用の場を生み出す企業誘致の推進

KPI 雇用創出数（医療関連企業を含む）：3,400 人【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

⑨ 国際コンテナ戦略港湾の集貨・創貨・競争力強化

西日本を中心とした広域からの貨物集約などの「集貨」、産業集積による「創貨」、高規格コンテナターミナル整備などによる「競争力強化」を軸に、西日本の産業を支えるゲートポートとして多方面・多頻度の直航サービスを充実させることで、グローバルに展開するサプライチェーンに貢献します。

あわせて、在来貨物の拡大に向けた取り組みを事業者と協力しながら進めることにより神戸港の港勢拡大を図り、神戸経済の活性化や安定した雇用の創出につなげます。

—事業例と KPI—

- ・国際コンテナ戦略港湾の集貨・創貨・競争力強化

KPI ・外航コンテナ航路：78 航路以上【2025 年度(令和 7 年度)】

・内航フィーダー航路：90 便/週以上【2025 年度(令和 7 年度)】

・外航在来船航路（RORO 船含む）：29 航路以上【2025 年度(令和 7 年度)】

⑩ 国際的なネットワークの構築による外国人材の集積

国際都市としての魅力をさらに高めるため、外国人が住みやすく働きやすい環境を整備し、国内外から外国人材を呼び込み、神戸の特色である多文化共生・多様性のあるまちづくりを進めます。あわせて、神戸の産業の発展に寄与するため、海外の都市や大学とのネットワークを構築、深化することで、外国人材の獲得を支援するとともに、神戸への定着をめざします。さらに、国の制度改革（在留資格）も踏まえながら、就職支援策も含めて外国人の就労環境の向上に取り組みます。

—事業例と KPI—

- ・高度外国人材の調査・発掘・開拓、介護など資格職人材の就労支援

KPI 高度人材、介護など資格職人材の在留資格外国人数

：100 人【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

⑪ 在住外国人との共生の推進

日本語学習を希望するすべての在住外国人に対し、ニーズに応じた日本語学習環境を提供するとともに、「やさしい日本語」の活用など、外国人にもわかりやすい広報物の作成を推進し、よりきめ細やかな双方向型情報共有ネットワークを構築します。また、医療通訳システムへの支援を拡充し、外国人の方も安心して医療機関を受診できる体制を確立します。あわせて、多文化共生の推進拠点「ふたば国際プラザ」や「多文化交流員制度」により、多文化交流事業や地域の防災訓練への参加など、地域における日本人と外国人との交流を推進します。

既存住宅を共同居住型住宅（シェアハウス）として改修し、外国人を受け入れる企業や法人などが、住宅の確保に支援が必要な外国人や学生などに賃貸する場合の支援に取り組みます。また、市営住宅の空き家をシェアハウスとして留学生などに提供するとともに、社宅などとしての活用を推進します。

—事業例と KPI—

- ・総合的な日本語学習プラットフォームの構築

- KPI ・市内日本語学習関連拠点の維持・拡充：55 箇所【2025 年度(令和 7 年度)】
(地域日本語サポートセンター・地域日本語教室・日本語学校など)
- ・地域日本語教室における学習者数
：863 人【2019 年度(令和元年度)】⇒2,000 人【2025 年度(令和 7 年度)】
- ・企業などへの日本語教師の年間紹介件数：20 件【2025 年度(令和 7 年度)】

・在住外国人への情報発信及び言語サービスの充実

- KPI ・外国人向けの広報物の多言語(英中越・やさしい日本語)対応率
：100%【2025 年度(令和 7 年度)】
- ・外国人向け双方向型情報共有ネットワークの提携拠点設置数
：全区に 100 拠点【2025 年度(令和 7 年度)】

・地域コミュニティへの外国人流入の活性化

- KPI ・多文化共生推進拠点の増設：2 箇所【2019 年度(令和元年度)】⇒3 箇所
【2025 年度(令和 7 年度)】
- ・拠点への年間合計来館者数：37,403 人【2019 年度(令和元年度)】⇒60,000 人
【2025 年度(令和 7 年度)】
- ・多文化交流員などの年間派遣件数：24 件【2019 年度(令和元年度)】⇒100 件
【2025 年度(令和 7 年度)】

⑫ 大学などとの連携促進

神戸市には 22 の大学・短期大学をはじめ、高等専門学校、多くの専門学校があります。こうした機関と産業界・行政などとの地域内連携により、地域の将来ビジョンを共有し、地域の課題解決に向けた連携協力を強化します。

また、グローバル化が進展し、各都市・大学間で世界規模の人材獲得に向けた競争が激しさを増している中、大学が集積している神戸に、優秀な外国人留学生を戦略的に獲得し、卒業・修了後の市内定着につなげていくための施策に取り組みます。

—事業例と KPI—

- ・地域連携プラットフォーム（仮称）構築の検討

KPI 「地域連携プラットフォーム（仮称）」の構築【2021 年度(令和 3 年度)】

- ・外国人留学生の戦略的獲得と定着

KPI 市内留学生数(大学・短大)

：4,153 人【2019 年(令和元年) 5 月】⇒5,000 人【2025 年度(令和 7 年度)】



⑬ 女性が活躍できる環境づくり

女性が働く希望をかなえ、ライフイベントに左右されずにキャリアを形成し活躍できる環境づくりを進めます。

関係機関などと連携し、キャリアブランクのある女性や非正規雇用の女性などのキャリアアップ・再就職を支援するほか、女性リーダーの育成・ネットワークづくり、仕事と子育ての両立や就業などに関する相談、カウンセリングを実施します。

また、コワーキングスペースの拡充など多様な働き方を推進するほか、市内企業の女性活躍に向けた取り組みの促進を図ります。

—事業例と KPI—

- ・再就職やキャリアアップを希望する女性への支援

KPI 再就職やキャリアアップを希望する女性への支援人数

： 3,000 人【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

- ・女性リーダー育成事業

KPI 女性リーダー育成プログラムの参加者数

： 250 人【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

基本目標 2 妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実

基本的方向



本市の出生数は年々減少を続けており、人口減少社会の進展、共働き世帯の増加、児童虐待など、子育てをめぐる環境は大きく変化しています。子どもは神戸の未来の担い手です。いわゆる貧困の連鎖などによって、その将来が閉ざされることはあってはなりません。

こうした中、子育てを希望するすべての人が安心して出産・子育てができるように、出産・子育て・教育の切れ目のない支援に取り組みます。また、仕事と家庭の両立に向けて、保育施設などの整備、学童保育の充実などを推進するほか、子育て世帯への住宅情報の提供などを行います。あわせて、これらの施策について、市内外の人々に十分に情報が届くように、情報発信に力を入れていくことにより、出生率の向上や子育て世帯の流入を図ります。

さらに、確かな学力を育むとともに、未来を切り開くために必要な教育を安心して受けられるよう、神戸の歴史、自然環境、多様性の豊かさなど、神戸の特徴を活かした特色ある教育を推進し、次代を担う青少年の育成に努めます。あわせて、文化センターなどを活用した学習スペースなど、学びの環境整備を進めます。また、複雑・多様化する教育課題に対応し、事務負担の軽減など教職員の働き方改革の推進を通して子どもに向き合う時間を確保することで、教育全体の質を高めるとともに、神戸のまちの自然の中で、子どもたちが自然に直接触れ、遊ぶことを通じて好奇心や探求心を持つ体験により、神戸らしい子どもの育ち、子どもの健やかな育成につなげます。

数値目標

在住者アンケート「子育て環境が良いまち」「教育環境が良いまち」の評価
：ともに 70%以上【2025 年度(令和 7 年度)】

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 妊娠・出産・子育て期の支援、子育て支援施策の情報発信

保護者の子育てに対する負担や不安、孤立感を解消し、子どもの特性、地域の実情を踏まえながら、誰もが安心して子どもを産み育てることができるような支援や情報発信を行います。

妊娠・出産・子育て期のサービスや情報提供を充実するとともに、ワンストップで確実に支援につなげる体制づくりにつとめるほか、児童虐待の早期発見、対応、未然・再発防止に取り組み、社会的養育を必要とする子どもたち、障がい児やひとり親家庭への支援、貧困の連鎖防止などの支援を充実させます。

また、子どもが安心・安全に過ごすことができる環境づくりを図るなど、地域における子育て支援を推進するとともに、青少年が社会の一員としての自覚を持ち、自立と自己実現が図れるよう支援を進めます。

あわせて、神戸市子育て応援サイト「こどもっと KOBE」を中心として、子育て支援施策の認知度向上を図り、神戸で安心して子育てする魅力を発信していきます。



—事業例と KPI— ※「神戸っ子すこやかプラン 2024」より

・幼稚園預かり保育事業

KPI 利用者数（延べ）：854,451 人【2024 年度（令和 6 年度）】

・一時保育事業

KPI 利用者数（延べ）：69,846 人【2024 年度（令和 6 年度）】

・子育てリフレッシュステイ事業

KPI 利用者数（延べ）：ショートステイ 1,355 人、デイサービス 1,484 人【2024 年度（令和 6 年度）】

・地域子育て支援拠点事業

KPI 箇所数：141 箇所【2024 年度（令和 6 年度）】

・ファミリー・サポート・センター事業

KPI 利用者数（週あたり延べ）：519 人【2024 年度（令和 6 年度）】

② 仕事と子育ての両立支援

安心して出産、子育てができる環境を整えるためには、仕事と子育ての両立支援が不可欠です。

待機児童対策・保育士などの負担軽減・病児保育・学童保育などの充実に加え、保育施設とあわせたコワーキングスペースの整備への研究や子育て世代の働く環境の整備など、仕事と子育ての両立支援に向け、さまざまな取り組みを検討・実施します。

また、就業継続や仕事と家庭の両立に不安を抱える育休中の女性などを対象に相談、カウンセリング、セミナーを実施しており、こうした機会などを通じて、育休中の市民の交流につなげます。

—事業例と KPI— ※一部事業・KPI は「神戸っ子すこやかプラン 2024」より

・待機児童対策

KPI 教育・保育施設などの利用定員：30,629 人【2024 年度（令和 6 年度）】

・保育士などの負担軽減

KPI 保育業務効率化システムの導入：希望する施設すべてで導入【2021 年度（令和 3 年度）まで】

・病児保育事業

KPI 利用定員数（延べ）：25,680 人【2024 年度（令和 6 年度）】

・学童保育

KPI 利用者数：17,760 人【2024 年度（令和 6 年度）】

・育休中の市民の交流の場の提供

KPI 育休復帰のためのカウンセリング、セミナーの参加者数
：700 人【2021 年度（令和 3 年度）～2025 年度（令和 7 年度）】



③ 生きる力と夢を育む教育の推進

確かな学力を育む「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適化された学び」の実現に向け、1人1台の端末をはじめとしたICT機器やデジタル教科書、教育用ソフトウェアを最大限活用した教育活動を展開するとともに、その教育活動の実施にあたっては、児童生徒があこがれを抱くような社会の第一線で活躍する方の参画も得ていくなど、知・徳・体にわたる生きる力と夢を育む学校教育を推進します。

あわせて、いじめや不登校、児童虐待、非行などの問題への対応のために、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）などと連携を図るとともに、家庭の経済状況などに左右されない学びの保障に向けて、教育・福祉との連携のもとで、児童生徒の発達段階に応じた支援の充実を進めていきます。

—事業例とKPI—

- ・GIGAスクール構想の実現とこれからの時代に求められる資質を育む教育の推進

KPI 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う」児童生徒（小6・中3）の割合：全国平均以上【2021年度(令和3年度)～2025年度(令和7年度)】

- ・児童生徒が生き生きと過ごせる安心・安全で楽しい学校の構築

KPI 「自分にはよいところがあると思う」児童生徒（小6・中3）の割合：全国平均以上【2021年度(令和3年度)～2025年度(令和7年度)】

④ 神戸の特色ある学び（創造的学び・国際教育など）の推進

AIやITの進化によって、子どもたちが生きていく未来は予測不能と言われる中、創造性がますます必要な時代となります。子どもたちが創造性を発揮して成長していくために必要な学びや、子どもたちに身近に接する大人にとって、必要なことは何かを議論し、実践します。

子どもたちの創造性を地域社会全体で育む活動を市内各所で展開するとともに、神戸の自然環境を活かした幼児期からの自然体験を推進します。さらに、持続可能な未来



の創造をめざし、SDGsを踏まえた創造的学びを、地域・企業との連携を深めながら推進します。

神戸市外国語大学においては、世界的に活躍できる人材の育成を図る「神戸グローバル教育センター」の設立や、国際社会の第一線で活躍できる人材育成のための魅力的なプログラムの構築などにより、グローバル人材の育成に取り組みます。

また、神戸市看護大学においては、社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ看護人材を育成するとともに、地域の課題解決に向けた学術研究、ICTを活用した市民への健康相談や訪問看護等事業者への研修の実施などの地域貢献活動、国際交流を推進することにより、大学ブランドを確立します。

神戸市立工業高等専門学校においては、AI、IoT、ロボットなど先端技術の導入がもたらす社会の変化に柔軟に対応し、多様化、高度化、グローバル化する社会の要請に応え、国際社会で活躍できる人材を輩出するため、産業界との連携強化を推進してブランド力をさらに向上させ、実践的な教育を充実します。

—事業例と KPI—

・子どもの創造的学びの推進

KPI 創造的な学びを取り入れた新たなプログラムを行う小中学校：30 校
【2025 年度(令和 7 年度)】

・神戸市外国語大学における「世界と神戸を結ぶ」グローバル人材の育成

KPI 神戸グローバル教育センターの設立：設立【2021 年度(令和 3 年度)】及び、日本英語模擬国連（JUEMUN）を主催【3 年に 1 回】
新たなプログラムの設置：入学から大学院までで中国語通訳を養成するプログラムを設置
【2023 年度(令和 5 年度)】

基本目標 3 多様な文化・芸術・魅力づくり

基本的方向



全国的に人口減少、東京圏一極集中に歯止めがかからない中、市民にこれからも神戸に住み続けてもらうためには、さまざまなシーンで居心地の良さを実感できることが不可欠です。同時に、市外の人に対しては戦略的な PR により、神戸の魅力を実感し興味を持ってもらうなど、関係人口の創出・拡大を図るとともに、継続的なアプローチにより、段階的に神戸との関係性を深化させていく必要があります。また、新型コロナウイルス感染症により先の見えない不安な時代の中で、文化・芸術がますます市民に求められています。

神戸には多様な自然環境や国外の影響を受けながら発展してきた多彩な文化があるとともに、多様な背景を持つ人々が集まっています。これらの強みを活かしながら、さらなる魅力づくりに取り組んでいきます。コロナ禍から市民とまちが元気を取り戻し、心豊かな生活を送れるように、まちの魅力を高め、文化・芸術・スポーツを振興し、多様な食文化を育むなど、ソフト面の取り組みを進めます。

また、まちづくりの観点では中心市街地や駅前、ウォーターフロントなど、神戸のまちの「顔」となるエリアの魅力を高めるとともに、神戸らしさを感じられるように、道路・公園などの公共空間の高質化や、まちのサインなど工作物について、統一感のあるデザインに再整備を進めていきます。加えて、市民が心豊かに日常を大切にできるような暮らしが送れるように、まちの質・くらしの質を一層高め、市民の参画を得ながら、住み心地の良いまちづくりを進めていきます。あわせて、神戸空港の国際化を含む機能強化に向け、既存施策への効果を十分に考慮しながら、将来の都市ブランドや価値、ポテンシャルの向上を目指し、まち全体の活性化や発展につながる施策を推進していきます。

さらに、世界に開かれた多様性のあるまちとして、LGBTQ※などに対する市民意識の向上を図るとともに、誰もが包摂され、個性と多様性を尊重し、持てる力を発揮でき、支え合うことのできるまちづくりをめざします。

※LGBTQ…レズビアン、ゲイなど性的少数者を表す言葉

数値目標

- ・観光消費額：3,700 億円【2025 年(令和 7 年)】
- ・在住者アンケート「楽しむ場所として魅力的である」の評価：80%以上【2025 年度(令和 7 年度)】

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 神戸市文化芸術推進ビジョンの取り組み

30 年後の神戸のために、これからの 10 年、神戸に住み、働き、集うすべての人々が自らできることを考えるために、本市の文化芸術に関する施策・事業の総合的な指針として策定した神戸市文化芸術推進ビジョンで掲げている「①暮らしを彩る②次世代を育てる③変化を楽しむ④自然を活かす⑤豊かに繋がる」の 5 つの将来像の実現をめざし、with コロナ時代の新しい生活様式や変化に柔軟に対応しながら、下記のような取り組みを進めていきます。

- ・ホールや劇場だけでなく、街中やさまざまな場所で文化芸術に触れられる場や機会を創出し、まちの賑わいづくりやナイトタイムエコノミーの活性化を推進します。
- ・文化芸術の広報・情報発信力の強化

- ・神戸ならではの文化コンテンツ（例：神戸国際フルーツコンクール）や、豊かな自然、文化資源を活かしたエリアごとに異なる地域の魅力・個性の磨き上げ
- ・地域や文化施設・文化団体間の連携・協働を推進するネットワーク・プラットフォームの構築
- ・プロの楽団である神戸市室内管弦楽団及び神戸市混声合唱団などの活動を通じた、更なるシティプロモーションの推進や神戸ブランドの向上を図ります。
- ・関西を代表する芸術祭への成長をめざす六甲ミーツ・アート芸術散歩等との連携協力により、文化芸術による活性化やインバウンドを含めた市内外からの誘客を図ります。

—事業例と KPI—

- ・神戸市文化芸術推進ビジョンの取り組み

KPI ・ストリートピアノの設置台数

：20 台【2020 年(令和 2 年)10 月現在】⇒30 台【2025 年度(令和 7 年度)】

・現・神戸文化ホールの利用率：80%【2025 年度(令和 7 年度)】

・屋内・屋外を問わず、過去 1 年間で芸術文化を鑑賞した人の割合（絵画・音楽・演劇・映画・ダンスなど）：ネットモニターアンケート調査 71.5%【2019 年度(令和元年度)】⇒80%【2025 年度(令和 7 年度)】

・神戸の文化的な環境に対する満足度（文化施設の使いやすさ、情報の入手のし易さ、文化芸術に触れる機会など）：ネットモニターアンケート調査 45.3%【2019 年度(令和元年度)】⇒50%以上【2025 年度(令和 7 年度)】

② 文化財の新たな保存と活用の推進

少子高齢化や地域社会の変化により、これまで地域によって守られてきた歴史的な遺産の継承が困難になりつつあります。

まちの魅力を再認識するためにも、法や条例で指定などされた文化財だけでなく、未指定の文化財を含め包括的にその保存・活用を推進するため、「神戸市文化財保存活用地域計画」を作成しました。計画の中で、地域において人との関わりの中で伝えられてきた歴史的な建物、文書の記録、伝統行事、自然などのさまざまな事象を、行政と地域住民や団体及び大学などにより、調査しその結果を共有、公開することとしています。さらにこれらを次世代へ継承する具体的な方策を検討するために、有識者と観光及び文化関連団体、市民などを含めた協議会を設置し、検討をはじめています。さらに今後、計画の担い手、手法などの在り方を含めて検討し、保存と活用を一体的に推進していきます。計画の一つの施策として歴史的な遺産の中から、指定・未指定文化財を問わず「神戸歴史遺産」として認定し、継承機運の醸成を図るとともに、市民などからの寄附により基金を造成し、保存活用が必要な事業に助成します。

さらに、インバウンド誘客の推進に向け、多言語化への対応など文化資源による誘客推進の取り組みを検討してまいります。

また、公文書については、市民共有の知的資源として適切な管理を行う必要があることから、後世に残す重要な歴史的公文書について、新たな公文書館の整備など、さらなる市民利用を図る検討を行います。

—事業例と KPI—

- ・文化財の新たな保存と活用の推進

KPI ・指定文化財などの新規指定など件数：10 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

- ・未指定文化財の神戸歴史遺産新規認定件数
： 30 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】
- ・基金からの助成件数： 15 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

③ スポーツの振興

少子高齢化、グローバル化、多様性の尊重といった社会変化により、スポーツの多様な価値が高まる中、本市では、全ての市民が日常的にスポーツ・健康づくりに取り組む「アクティブシティ※こうべ」を創ることをめざしています。アクティブシティが創られることにより、健康寿命の延伸と市民の生活の質の向上が期待されます。

兵庫県などと連携し、神戸マラソンを開催しているほか、競技団体などと連携し、国際級・全国級のスポーツイベントを開催するとともに「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」、「神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会」などの大規模スポーツイベントを通じて、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、神戸のまちの魅力を発信していきます。

また、本市を拠点に多くのトップスポーツチームが活躍しており、観戦会やチームと連携した交流事業の推進を通じて、チームを応援する機運を醸成し、ひいては市民が日常的にスポーツに親しむことへとつなげていきます。

さらに、コロナ禍においてもスポーツ活動を継続できるよう、スポーツ施設における感染症対策の徹底や、デジタル技術を活用した新たなスポーツ振興の取り組みを推進します。加えて、e スポーツが新たなコミュニケーションやビジネスの手法としてなり得るのか、その可能性を探り、地域課題解決・産業振興につなげる e スポーツプロジェクトに引き続き取り組みます。

※アクティブシティ…主体的、活動的、健康的な生き方であるアクティブライフを推進する都市

—事業例と KPI—

・スポーツの振興

KPI 国際級・全国級のスポーツイベントの開催件数

： 累計 140 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

④ 本に親しめる環境づくり

本は、子どもにとって、確かな学力を身に付け豊かな心を形成するために大きな役割を果たすとともに、大人にとっても、知識や教養を磨き人生を豊かにするものです。市民が身近に本に親しめることができるように、また、知の拠点としての役割を果たせるように、図書館の整備に引き続き取り組みます。

都市ブランドの向上と人口誘引につながるプロジェクトである「リノベーション・神戸」第 2 弾の中で「垂水活性化プラン～生まれ変わる海辺のまち～」 「西神中央活性化プラン～進化する上質なまち～」を公表し、新図書館の整備を打ち出しました。

図書館は駅前の拠点性を高めるまちづくりにおいて重要な施設であり、本市西部地域の拠点図書館としての役割をもつ「新西図書館」は 2022 年度（令和 4 年度）に移転拡充をしました。また、「新垂水図書館」は 2025 年度（令和 7 年度）の移転拡充を予定しています。

新図書館では、with コロナの時代に配慮するとともに、ゆったりと本に親しむことができるよう十分なスペースを確保した居心地の良い滞在型の図書館をめざします。

また、子どもたちが良質で多様な本と出会い、豊かな感性と創造力を育むことのできる施設として、東遊園地の中に「こども本の森 神戸」を整備し、運営していきます。

—事業例と KPI—

・新西図書館の整備

KPI 新西図書館の入館者数：年間 70 万人【2023 年度(令和 5 年度)～2024 年度(令和 6 年度)】

・新垂水図書館の整備

KPI 新垂水図書館の入館者数：年間 60 万人【2024 年度(令和 6 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

⑤ 食都神戸の推進（再掲）

瀬戸内海に面した港町神戸は、都市と農村が近く、豊かな自然に囲まれ、質の高い農水産物が生産されています。一方、都市地域では、港町として交易を中心に栄えてきた経緯から、いかなごのくぎ煮をはじめとした独自の多様な食文化が根付いています。

このポテンシャルを活用し、地域の農漁業と関連した持続可能で神戸らしい新たな食ビジネスと食文化を育て、活かす戦略として「食都神戸」を掲げ、世界に誇る持続可能な都市の構築を進めます。旧農業公園を「食」と「農」をテーマとした新たな食文化の創造拠点として再整備し、周辺も含めたエリア全体のにぎわいづくりをめざします。また、都市地域で農に関わる仕組みをつくるアーバンファーム※、神戸らしい新たな食の開発、地産地消を進めるファーマーズマーケットなど、市民の日常の中に「農業」や「漁業」がより感じられる取り組みも推進していきます。

※アーバンファーム…都市のビルの屋上にある農園や商店街の中にある空き区間を使った畑のように、都市地域で農業体験ができる場所をつくること

—事業例と KPI—

・食都神戸の推進（再掲）

⑥ 首都圏などへの神戸の魅力発信及び移住促進

全国的に東京圏一極集中に歯止めがかからない中、東京圏から本市への移住者を増やしていくためには、まずは接点を増やし、その後、段階的に神戸との関係性を深化させていくことが重要です。

「神戸市との接点を増やし」、「知って興味を持っていただき」、「観光や仕事でのつながりを通じて神戸を体感していただき」、「移住や転職のタイミングで神戸を想起し、選んでいただく」ことを想定して、それぞれのフェーズごとに効果的な施策を実施し、最終的に移住へとつなげていきます。

また、海外における神戸のプレゼンス向上のためには、海外に暮らす神戸ファンの方々に、神戸の魅力や情報を直接発信していただくことが効果的です。海外在住の神戸に縁のある方の親睦組織「コウベ・インターナショナル・クラブ」を世界各地に広げるとともに、各支部・会員のネットワークを活かしたシティプロモーションを実施し、神戸の魅力を世界に発信します。



「こうべぐらしコンシェルジュデスク」での移住相談

—事業例と KPI—

・魅力発信及び相談対応による移住促進

KPI 神戸市への住み替え・移住相談件数：3,000 件【2021 年(令和 3 年)～2025 年(令和 7 年)】

・コウベ・インターナショナル・クラブの普及と積極的な情報提供

KPI ・コウベ・インターナショナル・クラブ支部設置数：50 支部【2025 年度(令和 7 年度)】

・コウベ・インターナショナル・クラブ会員数：3,000 人【2025 年度(令和 7 年度)】

⑦ 神戸観光の推進

新型コロナウイルス感染症の影響による観光需要の落ち込みからの回復をめざし、旅行動態の変化を踏まえた、神戸の歴史・文化、自然や食といった多彩な魅力を活かし、国内外へのプロモーションを強化していくとともに、滞在時間の延長や宿泊につながるナイトタイムエコノミーを推進し、観光消費額の高い滞在型観光を振興します。

また、公共交通機関や観光施設等のキャッシュレス化の促進に取り組み、市内観光地の回遊性の向上による観光消費の拡大を図ります。

さらに、経済波及効果が高い国内外の神戸発着クルーズを誘致するため、都市に近接した空港の利便性を活かした「フライ＆クルーズ」を強化し、国内外のマーケット拡大を目指します。

加えて、MICE※開催による神戸市への経済波及効果や都市ブランドの向上のため、中長期的な視点で国際会議などの誘致促進を図るとともに、地元大学との連携強化、インセンティブツアーの誘致強化などを実施します。

※MICE（マイス）…Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報奨・研修旅行）、Convention（国際会議）、Exhibition/Event（展示会・イベントなど）を総称した造語。

—事業例と KPI—

・神戸観光の推進

KPI 観光消費額：3,700 億円【2025 年(令和 7 年)】

日本人延べ宿泊者数：590 万人【2025 年(令和 7 年)】

外国人延べ宿泊者数：100 万人【2025 年(令和 7 年)】

・MICE の推進

KPI 国際会議開催件数：420 件【2025 年(令和 7 年)】

⑧ 六甲山・摩耶山での観光と豊かな自然を活かしたアートシーンの推進

六甲山、摩耶山から丹生山系まで、神戸に広がる山々を山頂から山麓まで楽しむ神戸登山を観光資源として磨き上げ、インバウンドを含めたさらなる誘客を目指して、登山支援拠点の開設や登山環境の整備など神戸登山の魅力向上に取り組む「神戸登山プロジェクト」を実施します。

また、六甲山、摩耶山については、魅力を維持しつつ活用し、さらなるにぎわいを創出するとともに、アクセスしやすく巡りやすい公共交通の形成に取り組むなど、活性化を図ります。

さらに、六甲山の自然の中で現代アートを楽しむことができる神戸ならではの芸術祭「六甲ミーツ・アート 芸術散歩」の開催を支援し、神戸で芸術家やクリエイターを育成するとともに、with コロナ時代において新しいアートの楽しみ方を提供し、芸術の灯を絶やさぬよう、多くの方に楽しんでいただける取り組みを推進します。



灰野ゆう「あめふらし」六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2020

—事業例と KPI—

・六甲山・摩耶山の活性化

KPI 観光客数（六甲・摩耶エリア）：230 万人【2025 年(令和 7 年)】

⑨ 都心・三宮再整備の推進と回遊性の向上

山と海が近いという地理的条件や美しい街並みなどの資源を活かしながら、駅を出た瞬間に訪れた人々が自然とまちへ誘われる「美しき港町・神戸の玄関口」をめざし、官民連携して事業を推進します。

三宮駅周辺では、分散している中・長距離バスの乗降場を集約し、西日本最大級のバスターミナルを整備し、駅前の幹線道路を人中心の広場的空間へ転換する「三宮クロススクエア」を整備することで、利便性が高く、神戸の玄関口にふさわしい空間を創出します。あわせて、バスターミナルビル内に新三宮図書館・ホールなどを整備し、相互に連携を図るなど、にぎわいづくりにも取り組みます。



さらに、駅とウォーターフロントの動線上に位置する本庁舎 2 号館では、再整備により新たなにぎわい機能を導入するとともに、東遊園地の再整備により都心の回遊性を高めるなど、各種プロジェクトを推進します。

また、三宮再整備と県庁舎等再整備が一体的で整合が図られたものになるよう、県市が連携し、三宮や元町駅から県庁舎及び周辺地域への回遊性の強化などに取り組むことで、都心エリア全体に相乗効果を発揮させることをめざします。

—事業例と KPI—

・都心・三宮再整備の推進

KPI 三宮周辺地区の建替えの計画件数：7 件【2025 年度(令和 7 年度)】

・都心・三宮再整備の推進（文化施設の整備）

KPI 中央区の新たな文化施設の利用率：70%【2025 年度(令和 7 年度)】

⑩ ウォーターフロントなどの魅力向上

都心・ウォーターフロントの将来構想である「港都神戸」ランドデザイン及び「神戸ウォーターフロントビジョン」の実現に向けて、新港突堤西地区、中突堤周辺地区を中心に再開発を進めるとともに、LRT・BRT等の新たな公共交通の導入検討を進め、都心からのアクセス機能やウォーターフロント内におけるまちの回遊性向上に取り組めます。

具体的には、新港突堤西地区では、第1突堤基部に引き続き、第2突堤のアリーナの建設や、第1・2突堤間における親水空間やマリーナの整備など水域活用を進めます。

中突堤周辺地区では、観光・エントランスエリアとしての魅力に磨きをかけるため、シンボル施設であるポートタワーのリニューアルや中突堤中央ビルの再整備に向けた取り組みを進めます。

ウォーターフロントエリアの面的な再開発の進捗にあわせて、ハーバーランド～中突堤～新港突堤西地区に至る回遊性を促す魅力的な歩行空間など、楽しみながら回遊できる取り組みを進めます。

あわせて、神戸のシンボルロードであるフラワーロード（税関前交差点）において、斬新でデザイン性に優れた歩道橋に架け替えを行います。

さらに、国内外の誘客に向け、神戸空港と須磨エリア等の海上ルートの検討や、花火やイルミネーションなど、ナイトタイムエコノミーの強化に取り組んでいきます。

また、官民が連携して、土地利用誘導から将来的なエリアマネジメントを見据えた取り組みを推進し、持続的で魅力と活力のあるウォーターフロントの形成を図ります。

HAT 神戸においては、県立美術館を核として、ミュージアムロードの人の流れをなぎさ公園まで展開し、アートを活かしたまちの活性化を図ることで、なぎさ公園やハーバーウォーク、水面など資源を活用して、まちのにぎわいを創出します。

ポートアイランドにおいては、まちの将来ビジョンを描く「ポートアイランド・リボーンプロジェクト」の検討とともに、公共施設などのリニューアル、未利用地の利活用、街路樹の再整備などを進めます。六甲アイランドにおいては、まちの将来の姿の実現に向けて、未利用地の利活用などを進めます。これらにより、まちの活性化の促進につなげていきます。



—事業例と KPI—

・新港突堤西地区・中突堤周辺地区の再開発及びウォーターフロント内の回遊性促進

KPI 観光客数（神戸港エリア）：700 万人【2025 年(令和 7 年)】

⑪ 駅前空間の魅力向上

駅は、その地域の佇まいや雰囲気印象づける「顔」となる重要な空間です。神戸のこれまでの歴史・資産を活かしながら、まちや人が新たな輝きでつまれるような駅前空間のリノベーションを名谷・西神中央・垂水をはじめ、順次展開し、まちの質・くらしの質を一層高めます。

駅や駅周辺施設への歩行者動線をはじめアクセス性の改善、滞留空間、バスロータリーや駅前広場などの再整備を進めるほか、コワーキングスペースなど拠点性の向上・駅前空間の活性化にあわせてさまざまな取り組みを実施・検討していきます。

—事業例と KPI—

・駅前空間の魅力向上

KPI 駅前空間クオリティアップの整備完了数

: 12 駅【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

⑫ 須磨海岸・海浜公園の魅力向上

須磨海浜水族園及び海浜公園は、設備をはじめとする老朽化が進んでおり、再整備による魅力向上が必要です。

このため、民間企業のノウハウを取り入れ、須磨海岸エリアの持つ魅力を最大限に引き出した再整備を行います。また、隣接する須磨海岸、ヨットハーバーと連携しながら、須磨海岸エリア全体の魅力向上を図ります。

2019 年（平成 31 年）4 月に初めて取得した安心・安全なビーチの国際環境認証である「ブルーフラッグ」の継続取得をはじめ、海岸利用者の安心・安全の確保に注力し、四季を問わず家族連れがずっと楽しめる健全な海岸をめざします。



—事業例と KPI—

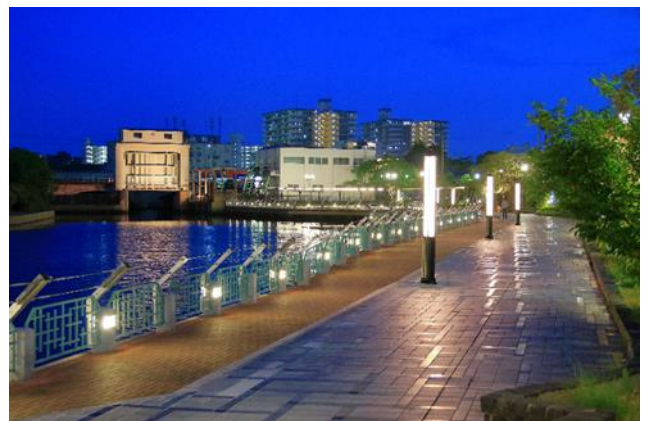
・須磨海岸・海浜公園の魅力向上

KPI 観光客数（須磨・舞子エリア）：450 万人【2025 年(令和 7 年)】

⑬ 地下鉄海岸線沿線・市街地西部地域の活性化

地下鉄海岸線沿線・市街地西部地域は、古くより瀬戸内海の交通の要衝として歴史に名をとどめてきた地域であり、地域住民や周辺企業などとともに活性化に取り組んでいます。

兵庫津は、2018 年（平成 30 年）に北前船寄港地として日本遺産に認定されました。また、2022 年（令和 4 年）には「県立兵庫津ミュージアム」がグランドオープンしました。兵庫運河のプロムナード※の



延伸や夜間景観の創出などにより活性化を図るとともに貴重な歴史的遺産として内外に発信していきます。

また、兵庫区・長田区ではアーティスト・クリエイターなどの方が活動拠点を開設する動きが活発になっており、作品を発表する場を確保するなど活動環境をつくるとともに、下町芸術祭など地域に根差したアート活動を支援しながら、アートによるまちの魅力向上を推進します。

※プロムナード…遊歩道

—事業例と KPI—

・兵庫運河の魅力づくり

KPI ・ライトアップ整備箇所：6 橋、護岸 1 か所、プロムナード約 1,000m【2025 年度(令和 7 年度)】

・プロムナード整備延長：約 1,000m【2025 年度(令和 7 年度)】

基本目標 4 災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築

基本的方向



近年、その頻度を増している地震・集中豪雨など、自然災害のリスクが高まっています。また、新型コロナウイルス感染症が市民生活・社会経済情勢に大きな影を落とす中、感染症の存在を前提とした with コロナ時代が今後年単位の期間で継続されるという認識のもと、市民の生活スタイルや経済活動を with コロナ時代に対応したものへと変容させることが求められています。

神戸市は、阪神淡路大震災を経験し、乗り越えてきた都市として、災害に強い社会基盤を構築し、あらゆる災害や感染症から市民の安心・安全な生活環境を守る必要があります。

こうした背景を踏まえ、あらゆる災害や感染症に対して、要援護者へのサポートや、さまざまな媒体を用いた外国人をはじめ誰にとっても分かりやすい情報発信、災害時の緊急輸送道路ネットワークの確保など、強靱なまちづくりと充実した医療提供体制の整備などを行い、誰もが職場や地域で充実した暮らしを送り、元気に活躍するための施策に取り組みます。さらに、安全性の向上に向け、主要駅や公共施設周辺などへの防犯カメラの増設を進めます。

また、南海トラフ巨大地震に伴う津波対策として、避難を中心としたソフト対策に加え、既成市街地において、減災を目標に、防潮堤などを「ねばり強い構造へ補強」するハード対策を進めており、津波による浸水被害の軽減をめざします。あわせて、県・市の連携や都市間の連携といった広域防災の視点も重要です。

さらに、「新しい生活様式」への支援を進めるとともに、感染症などを踏まえた医療提供体制の構築や文化的活動の振興、行政手続きスマート化の推進、公園などを活用した、ゆとりをもって遊ぶことができる環境整備など、市民が抱える不安と向き合い軽減しながら、感染症への対策を進めていきます。

数値目標

・行政手続きスマート化率※：件数ベースで 70%【2025 年度(令和 7 年度)】

※手続きのスマート化…電子申請のほか、Web サイトを通じた郵送申請の支援や、申請内容の事前登録など窓口滞在時間を短くする新時代の窓口申請の仕組みを構築すること

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 防災・減災の取り組み

市民の安心・安全を確保するため、激化・多様化する自然災害や感染症などに対する危機対応力の強化を進めます。ICT・AI をはじめとした新技術を積極的に活用し、情報収集・分析など危機管理体制のさらなる強化を図ります。さらに、土砂災害による被害防止のための治山砂防事業や、まちの治水安全度を高める河川改修事業を関係機関と連携しながら引き続き推進し、安全・安心な市民の暮らしを支えます。

また、避難所環境の改善や、地域による避難所の開設運営体制の確立、さらには感染症流行下での緊急避難場所などの運営体制確立や必要資材の備蓄などを進めます。

市民啓発や防災教育などにより防災への意識改革を図り、「自己決定力」の向上による「自助・共助」の対応力強化を進めるとともに、震災経験の継承・発信を継続します。

—事業例と KPI—

・家庭の災害対応力の向上

KPI	家庭内備蓄の実施率	90%以上【2025 年度(令和 7 年度)】
	感震ブレーカーの設置率	50%以上【2025 年度(令和 7 年度)】
	家具固定の実施率	90%以上【2025 年度(令和 7 年度)】

② 災害に強いみなとづくり

近い将来、発生が想定される南海トラフ巨大地震に伴う津波及び大型化する台風に伴う高潮に対し、ハード、ソフトをあわせた総合的な津波・高潮対策を推進します。

南海トラフ巨大地震に伴う津波対策として、避難を中心としたソフト対策に加え、減災を目標に防潮堤などの構造を補強するとともに、津波時にも防潮鉄扉及び水門を迅速かつ安全に閉鎖できるよう防潮鉄扉の遠隔操作化のハード対策を進め、津波による浸水被害の軽減をめざします。さらに、高潮発生時においても、ポートアイランドと六甲アイランド内の緊急輸送道路の浸水を防止し、通行機能を確保します。

—事業例と KPI—

・災害に強いみなとづくり

KPI	鉄扉の遠隔操作化（78 基）	：2024 年度(令和 6 年度)完了
-----	----------------	---------------------

③ 浸水に強いまちづくり

市街地沿岸部は人口や都市機能が集積した地域であり、浸水被害を受けることを防ぐため、浸水対策の強化が必要です。

地盤が低い地区や人口の集中している地区のうち、近年の豪雨時に著しい浸水被害が発生した神戸駅周辺地区などの浸水対策重点地区を中心に、雨水ポンプ場や雨水管きよの整備などの浸水対策事業を継続して実施します。また、浸水リスクの情報をわかりやすく提供し、市民の速やかな避難を促します。

—事業例と KPI—

・浸水対策重点地区におけるポンプ場・雨水管の整備

KPI	継続的な事業実施による床上・床下浸水を解消する地区
	：3 地区【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

④ 感染症などを踏まえた消防・救急体制の確立

感染症の次なる波や、感染爆発時においても、市民の安心・安全を守り続ける消防・救急体制を確立します。

職員間の感染防止に配慮した庁舎整備を順次実施し、消防力を維持します。また、来庁者への感染防止の面からも、接触機会を極力減らすため、電子申請や郵送手続き及び来庁時間を短縮する取り組みによる「行政手続きのスマート化」を推進します。さらに、救急の面からは医療機関や保健所などとの連携強化により、安定した病院収容体制を確保するとともに、物資の流通状況に左右されない感染防止資器材の備蓄体制を整備します。

—事業例と KPI—

- ・with コロナ時代における安定的な消防・救急体制の確立

KPI 申請・届出などの「スマート化」：総処理件数の 70%【2025 年度(令和 7 年度)】

感染防止資器材の備蓄量：6 か月分【2025 年度(令和 7 年度)】

⑤ 感染症の発生拡大に備えた保健所の体制強化や感染症予防対策の強化

新型コロナウイルス感染症対策について、インフルエンザ流行期にも対応可能な相談、外来診療及び PCR 等検査体制を確保するとともに、兵庫県対処方針におけるフェーズに応じた病床及び宿泊療養施設を確保しました。引き続き、中央市民病院では重症患者に対応するため臨時病棟を運営し、西市民病院、西神戸医療センターにおいては、中軽症患者の対応にあたります。

また、5 類移行後も、感染拡大期において、新型コロナウイルス感染症患者を円滑に受け入れられるよう、医療機関との調整を行うことにより、医療提供体制の安定的確保を図ります。

その他の感染症対策について、今後の新たな新興感染症への対応も見据え、日頃からの発生予防対策や発生した場合の拡大防止に向けた迅速な初動対応のため、感染症法などに基づいた健康危機管理体制の構築を行います。特に、平常時から区保健師などが地域の施設を巡回しながら地域連携を図り、施設で感染症の症状のある人が発生した早い段階で報告を受け、区が迅速に対応を行う感染症早期探知地域連携システム（神戸モデル）の取り組みを進めます。

また、今後の新たな新興感染症発生時に市民病院において速やかな病床確保を図るため、感染対策の強化を図ります。

—事業例と KPI—

- ・神戸モデルの推進

KPI 区保健師などの巡回施設箇所数：新規施設は全て、既存施設 1,000 箇所／年間【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

⑥ 新しい生活様式に対応した企業活動の支援（再掲）

「新しい生活様式」の定着に伴い変容する生活スタイルや消費動向に対応し、リモートワークをはじめとした働き方改革や、オンライン商談会・展示会といった非対面・非接触の商談取引手法の導入、新事業の展開などに取り組む事業者に対し、セミナーなどによる啓発、人材育成支援、経営相談支援などに取り組めます。

—事業例と KPI—

- ・テクノロジーを活用した企業の課題解決支援（再掲）

⑦ 感染症などを踏まえた移動手段の利用促進

with コロナ時代に対応した移動手段として有用性が見直されている自転車の利用促進に向けて、自転車走行空間整備や放置自転車対策といった安全・快適な自転車利活用のための環境づくりを進めるとともに、都心部の回遊性を向上させる移動手段として導入されているシェアサイクル「Kobe Linkle（こうべリンクル：通称コベリン）」をさらに活用・拡大することで、環境にやさしい乗り物として利用を推進し、市民や来街者へのサービス向上を図ります。



—事業例と KPI—

- ・自転車の利活用促進

KPI 「コベリン」会員数：60,000 人【2019 年度(令和元年度)】⇒100,000 人【2025 年度(令和 7 年度)】

⑧ 感染症などを踏まえた文化的活動の維持・振興

感染症などの流行期においても文化・スポーツ活動を継続できるよう、文化・スポーツ施設における感染症対策の徹底や、文化施設などにおいてキャッシュレス決済を導入するなど、デジタル技術を活用した新たな文化・スポーツ振興を推進します。

図書館については、貸出や返却時などに職員が行う対面サービスについて、窓口にてできる行列の「密」を避けるため、自動化を進めます。利用者が予約した図書を館内の窓口以外の場所で利用者自ら受け取る「予約図書セルフ受取棚」、窓口に並ぶことなく借りた図書の返却が可能な「自動返却機」、WEB で館内の座席予約が可能な「座席予約システム」などを、新図書館を含め必要な施設整備を進めながら、順次導入します。

—具体的な事業と KPI—

- ・神戸市文化芸術推進ビジョンの取り組み（再掲）
- ・スポーツの振興（再掲）
- ・図書館サービス自動化などによる利便性向上と非接触サービスの推進

KPI ・自動貸出機の利用率：全貸出のうち 50%以上【2025 年度(令和 7 年度)】

- ・キャッシュレス決済を導入する文化施設など

：0 施設【2020 年(令和 2 年)10 月時点】⇒全施設【2025 年度(令和 7 年度)】

⑨ 行政手続きスマート化

申請・届出などの各種行政手続きを、市民が来庁せずに行えるようにするため、電子申請・郵送申請を拡充します。また対面での対応が必要な手続きについても、WEB 上での事前の申請書作成や予約制を取り入れるなどして、便利で快適な市民サービスの提供をめざします。

さらに、オンライン上での確実な本人確認を可能とするマイナンバーカードについて、区役所やサテライトオフィスなどを活用した普及促進を図ります。

あわせて、地域団体の負担軽減や、電子申請が可能な環境を整備する必要性が高まっており、国の電子申請に係る法整備などを注視しつつ、具体的取り組みを進めます。

—事業例と KPI—

- ・来庁不要の市民サービスの向上

KPI 行政手続きスマート化率：件数ベースで 70%【2025 年度(令和 7 年度)】

⑩デジタルリテラシーの向上

スマートフォンやパソコンの操作に不安を覚えておられる高齢者などに対して、地域での自主的な ICT スキルアップの活動への支援や、ICT スキルが高い若い世代との交流を促進し、デジタルリテラシーの向上を図ります。

—事業例と KPI—

- ・デジタルリテラシーの向上

KPI インターネットを使用する高齢者の割合： 90%【2025 年度(令和 7 年度)】

⑪児童生徒の学びの保障

感染症のまん延や大規模災害時などにおいても児童生徒一人ひとりの学びを保障するため、児童生徒 1 人 1 台の端末をはじめとした ICT 機器やデジタル教科書、教育用ソフトウェアを最大限活用した教育活動を展開します。

—事業例と KPI—

- ・GIGA スクール構想の実現とこれからの時代に求められる資質を育む教育の推進（再掲）



基本目標 5 安心・健康でゆとりあるくらしの実現

基本的方向



総人口が減少し続け、高齢化が進行する中で、高齢者、障がい者、介護が必要な方など、誰もが安心・安全に暮らしていける環境づくりの重要性は一層高まっています。加えて疾病構造の変化とともに健康に対する市民の意識は多様化し、きめ細かな健康づくり施策が求められています。平均寿命が過去最高を記録し、「人生 100 年時代」と言われる中、予防医療・先進医療などを促進しながら、健康増進、健康長寿社会の実現をめざしていかなければなりません。

そこで、全ての市民が健康で心にゆとりのある暮らしができるまちづくりを推進するとともに、ユニバーサルデザインの理念のもと、旅客施設、建築物、道路、公園などのバリアフリー化や、市民への啓発活動、心のバリアフリーの推進によるまちづくりなど、誰もが外出しやすいまちへの取り組みを推進します。

あわせて、生涯にわたる健康づくり、職場環境づくりなど、これまでの神戸医療産業都市などでの取り組みも活かしながら、市民の健康づくりを積極的に支援し、高齢期の入り口に当たってのフレイルチェック、認知症対策や介護予防、健康づくりなど、高齢者の方や家族が、安心して暮らせる、シニア世代にやさしいまちづくりをすすめます。

数値目標

- ・がん検診の受診率※：50.0%【2025 年度(令和 7 年度)】
※5 大がんである、胃がん、大腸がん、肺がん、子宮頸がん、乳がんの受診率
- ・65 歳以上の要支援・要介護認定率：23.6%【2025 年度(令和 7 年度)】

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 認知症神戸モデルの推進・高齢者への支援

高齢化の進展により、今後も認知症高齢者の増加が見込まれており、認知症「神戸モデル」の推進をはじめ、市民への啓発と理解を促進し、認知症の人にやさしいまちづくりを推進します。

また、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、多様な施設・居住系サービスの充実とともに、施設系サービスについて、地域の実情に応じた必要な整備を計画的に進めます。



—事業例と KPI—

- ・認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域の力を豊かにする
KPI ・認知症高齢者など声かけ訓練：全あんしんすこやかセンターで実施【2025 年度(令和 7 年度)】
・認知症サポーター養成数：累計 15 万人【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】
- ・地域包括ケアの推進 ※第 8 期神戸市介護保険事業計画より
KPI 施設系サービス：15,387 床【2025 年度(令和 7 年度)】

② 障がい者への支援

障がい者の高齢化や重度化が進む中、地域で安心して住み続けていくためには、親が亡くなった後や家族による支援が難しくなった場合も含めた支援が必要です。そのため、身近な地域に住まいが確保され、地域において一人ひとりの状況に応じた福祉や医療サービスを受けることができるよう専門職を増やすなどの取り組み、高齢化や重度化、「親なき後」を見据えた暮らしを支える支援の取り組みを進めます。

また、障がい者の、社会に貢献したい、働きたいという意欲や個々人の多様な能力を発揮できるような働き方を創造する取り組みを進めます。

—事業例と KPI—

- ・障がい者が住み慣れた地域の中でともに支え合い、安心して暮らし、活躍できる社会の実現

KPI ・計画相談支援専門員の人数：120 人増【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

・グループホーム（定員数）：1,800 人【2025 年度(令和 7 年度)】

③ 生活困窮者の支援

非正規雇用者の増加や貧困・格差が顕在化し社会問題となる中、神戸市では各区に「くらし支援窓口」を設置し、生活保護を含め生活困窮に関する相談に対応します。

区社会福祉協議会に配置する地域福祉ネットワークや関係機関と連携し、社会的に孤立しがちな生活困窮者へのアプローチ、福祉事務所内へのハローワーク常設窓口の設置、巡回相談の実施を通して、職業相談、職業紹介を一体的に行い、自立に向けた支援を行います。また、法に基づく任意事業として、動機づけや基礎能力の形成など就労に向けた準備を行う支援、家計に関する相談支援、ひとり親支援や、生活困窮世帯などの子どもたちが、生活環境にかかわらず確かな学力と学習習慣を身に付けられるように小中学生を対象とした学習支援を実施します。

—事業例と KPI—

- ・生活困窮者支援

KPI 個別支援を実施したもののうち、自立に向けた目標の達成などにより支援を終える割合
： 7 割【2025 年度(令和 7 年度)】

④ 神戸医療産業都市の推進（再掲）

神戸医療産業都市は、阪神・淡路大震災で「いのちの大切さ」を改めて知った神戸市が「市民福祉の向上」、「神戸経済の活性化」、「国際社会への貢献」を目的として開始したプロジェクトです。これまで iPS 細胞を活用した網膜再生医療の臨床研究や、国産初の手術支援ロボットなどさまざまな成果を生み出してきました。

今後もさらなる成果の創出をめざし、産学官の連携による AI・5G・8K などの最新技術を活用した医療機器の研究開発を推進するとともに、医工連携人材の育成に取り組み、医療機器開発エコシステムの構築を図ります。

また、さまざまな企業との連携が可能な神戸医療産業都市の強みを活かし、企業ニーズを踏まえたヘルスケア関連データの取得などにより、デジタルヘルス分野の研究開発の促進に取り組みます。

自動 PCR 検査ロボットの開発など新型コロナウイルス感染症対策、スーパーコンピュータ「富岳」を活用した革新的な創薬、遠隔医療システムの開発・導入などに取り組み、全地球的規模で貢献していきます。

—事業例と KPI—

- ・神戸未来医療構想の推進（再掲）

⑤ 医療の変革

感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着が進む中、新型コロナウイルス感染症の感染状況などを継続的に監視し、再度の感染拡大期に十分対応することができる万全の医療提供体制の整備に取り組みます。また、個人情報保護に配慮しながら、自治体や病院などが保有する健康・医療関連データを活用し、病気の発症などを予測することで、市民の健康増進や健康長寿社会の実現をめざします。

—事業例と KPI—

- ・予防医療・先制医療の推進

KPI 神戸医療産業都市内の企業やアカデミアなどにより、健康・医療関連データを活用し、実施される共同研究や実証試験の件数：20 件【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

⑥ 「健康創造都市 KOBE」の推進

少子高齢化や疾病構造の変化と共に健康に対する市民の意識も多様化しています。よりきめ細かな健康づくり施策が求められている中で、エビデンスに基づく保健事業を推進するために、医療や介護のレセプトデータや健診データを連結・匿名化した新たなヘルスケア情報基盤を整備し、生活習慣病予防や介護予防など健康増進施策の検討・評価に活用していきます。

—事業例と KPI—

- ・予防医療・先制医療の推進（再掲）

⑦ 地域福祉のプラットフォームの推進

各区社会福祉協議会などが主体となり、生活課題を抱える人やその支援に携わる人など多様な主体がネットワークを構築し、協議する場（地域福祉のプラットフォーム）を設け、地域福祉課題の解決や新たな仕組みづくりを推進します。

—事業例と KPI—

- ・多様な主体による地域活動の展開における出会い・学びのプラットフォームの推進

KPI 全区展開【2025 年度(令和 7 年度)】

基本目標 6 将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ

基本的方向



神戸のような成熟都市では、これまで市民、民間企業、行政がつくりあげてきたものが必然的に古くなり、老朽化して

いきます。地域の、ひいては神戸全体の衰退を防ぐため、こうした施設、建物、インフラについては、撤去、転用、再生の取り組みを一層加速する必要があります。

神戸には野山が広がり、自然の地形を活かした公園も多く、普段から自然に触れる機会にあふれたまちです。感染症の拡大により、働き方・暮らし方にさまざまな変革が起きている中で、自然や景観などの空間や流れる時間が豊かな「疎の空間を活かしたまちづくり」に注目することも重要です。

密集市街地の再整備、渋滞対策などだけでなく、空き家・空き地対策や異常高温対策など、人口減少や地球温暖化などに起因する新たに発生する課題にも取り組んでいきます。

また、生活と産業を支える道路・上下水道・公園・鉄道・港湾・エネルギーなどについては、ストックマネジメント計画の策定や先端技術などの活用により、老朽インフラの維持管理及び改築更新の効率化、高度化を進め、計画的な予防保全の実施により長寿命化や健全性確保を図ります。

加えて他都市にはない神戸の魅力である六甲山や帝釈・丹生山などの森林については、その多様な機能を十分に発揮させ、都市環境を守るため引き続き整備を進めます。

さらに、国が 2050 年（令和 32 年）の温室効果ガス排出量を実質ゼロと掲げていることも踏まえ、持続可能な社会の構築をめざし、再生可能エネルギーなどの利用拡大による脱炭素化を図るとともに、環境や社会の持続可能性に貢献する事業を実施する際の資金調達には、SDGs 債・ローンを活用します。

数値目標

- ・二酸化炭素排出量：実質ゼロ【2050 年(令和 32 年)までに】
- ・在住者アンケート「交通や生活利便施設などの利便性が高い」の評価：85%以上【2025 年度(令和 7 年度)】

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 空き家・空き地対策

まち全体の衰退を食い止め、再生を図っていくうえで極めて重要な分野として、空き家・空き地対策に積極的取り組みます。

空き家対策として、所有者からの相談をワンストップでできる公的窓口の設置により、賃貸や売却に出されていない空き家の市場流通化、地域での転活用、老朽家屋解体を支援します。空き家の所有者と NPO や地域団体などとのマッチング推進や、地域活動や地域住民の交流拠点などとして活用する場合の改修支援などに取り組み、地域活性化に資する施設などへの転活用を促進します。また、ライフステージに応じた住み替え支援や既存住宅の魅力発信などにより、市内への定住・転入促進とあわせた既存住宅の流通促進に取り組むとともに、不適切な状態で放置されている空き家・空き地の増加を抑制する施策を実行していきます。

—事業例と KPI—

・既存住宅の流通促進

KPI 全流通戸数に対する既存住宅の流通戸数の割合：30.0%【2025 年度(令和 7 年度)】

・管理不全空家空地の改善

KPI 老朽空家等解体支援などによる改善件数：5,000 件【2021 年度(令和 3 年度)~2025 年度(令和 7 年度)】

② きめ細かで持続可能な交通環境の形成

公共交通の基本方針として、まちづくりや観光施策と連携し、快適に移動できる交通環境を整備するとともに、市民、企業、交通事業者、行政の相互の協力のもと、将来にわたって持続可能で体系的な公共交通ネットワークを構築し、都市の魅力・活力を維持向上させます。

この取り組みの一環として、市民の足を広く担う市バスについて、より使いやすく、将来にわたって安定したサービスの提供をめざします。具体的には、市民や利用者からのご意見に加えて、客観的なデータに基づいて移動需要を分析し、それらをもとに、便数・ルートなどを最適に設定するとともに、多様かつ地域の実情にあった移動手段の活用を進めます。

また、MaaS※に関しては、全国で実施されているさまざまな取り組みの動向を注視しながら研究するとともに、自動運転やパーソナルモビリティなどといった新たなモビリティサービスの活用に向けた検討を進める観点から、民間事業者などによる実証実験などに対して必要な支援を行います。

※MaaS（マース：Mobility as a Service）…地域住民や旅行者などの移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済などを一括で行うサービスや、IoT・AI の活用で提供が可能となる自動運転やデマンド運行バスなどの新たなモビリティサービスを指す



北五葉 コミュニティタクシー「おでかけ号」



塩屋 コミュニティバス「しおかぜ」

—事業例と KPI—

・神戸市地域公共交通計画の推進

KPI 公共交通分担率：35%【2025 年度(令和 7 年度)】

・路線バスの最適配置

KPI 市バスの乗車効率：公営企業平均を上回る数値をめざす【2021 年度(令和 3 年度)~2025 年度(令和 7 年度)】

・多様な移動手段の導入検討

KPI 多様な移動手段の導入地区数：20 地区【2025 年度(令和 7 年度)】

・新たなモビリティサービスの導入支援

KPI 新たなモビリティを活用した事例数：10 事例【2025 年度(令和 7 年度)】

③ 交通インフラの整備

都市間の連携を一層進めていくためにも、広域的な交通網の形成が必要です。大阪湾岸道路西伸部、神戸西バイパスなどの広域幹線道路ネットワークを形成し、ミッシングリンク※の解消をめざすとともに、主要幹線道路ネットワークの構築並びに渋滞対策を進め、速達性や利便性の向上と自動車交通による環境負荷低減を図ります。

また、神戸空港の国際化に伴う交通アクセスの強化として、バスによる交通利便性・快適性の充実を図るとともに、将来の利用者需要に応じたポートライナーの輸送力強化策を幅広く検討します。さらに、新神戸トンネル南伸部の整備や生田川右岸線の機能強化、神戸空港連絡橋の4車線化といった南北軸道路の強化を進め、リムジンバスを含む広域ネットワークの強化に取り組みます。

※ミッシングリンク…高規格幹線道路などの未整備区間のこと

<神戸空港・神戸空港島の機能強化>

新たなステージに進む神戸空港が、神戸経済の成長を担う観点から果たす役割は大きく、2025 年大阪・関西万博、その先の航空需要の拡大を見据え、神戸空港の価値を向上させ、将来の神戸のまちの成長・発展につながる取り組みを進めます。

具体的には、2025 年（令和 7 年）の国際チャーター便の運用開始・国内線発着枠拡大に向け、空港基本施設や新たなターミナル整備など、神戸の空の玄関口にふさわしい施設整備を行うとともに、広域ネットワークの機能強化に向けた取り組みを進め、神戸市以西の新たな市場開拓を進めます。また、国際プライベートジェットの誘致に向け、施設の整備・運営等を行う事業者の誘致など、受入体制の強化を進めます。

神戸空港島では、ウォーターフロント再開発などのプロジェクトとの連携を踏まえた将来ビジョンを策定し、戦略的な利活用を図るとともに、神戸空港と海上アクセスターミナル間のアクセス向上のため、南北の新たな動線としての歩行者デッキ整備に向けた検討などを進めます。



—事業例と KPI—

・大阪湾岸道路西伸部などの整備促進

KPI 神戸西バイパス整備後の第二神明道路（玉津 IC-伊川谷 IC 間）の平日交通量：9.1 万台／日 ⇒6.4 万台／日【2025 年度(令和 7 年度)】

④ 持続可能なまちづくりとエネルギー政策

持続可能なまちづくりに向け、資源循環型社会の形成と地球温暖化の防止といった環境問題の解決と経済成長の好循環を実現させるサーキュラーエコノミー※の取り組みが広がるよう、市民広報・啓発などを行うとともに、企業によるイノベーションの促進を支援していきます。

水素エネルギーについては、民間事業者との連携により、これまでの実証事業から社会実装に向けた取り組みを一層加速させるとともに、市民に身近な分野である燃料電池自動車などを推進します。

さらに、CO₂ 吸収源としてのブルーカーボン※の推進など、新たな地球温暖化防止につながる施策の検討を進めるとともに、豊かな自然と調和する持続可能な都市づくりをめざします。

あわせて、電動車を活用した蓄電池の普及と、リユース・リサイクルの推進による資源循環・低炭素社会の実現をめざします。

また、IoT や AI などの新技術の活用や地域でのエネルギーマネジメントの実践や、新たに建築される建物への環境配慮型の取り組みの導入の推進により、エネルギー利用の効率化・脱炭素化を進めます。

※サーキュラーエコノミー…製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済を指す。再生可能エネルギーの分野では、「エネルギーの地産地消」「災害時のエネルギー供給の強靱化」などの取り組みを加速させるため、民間事業者や NPO 法人などと事業化の可能性を検討する

※ブルーカーボン…海洋生物に蓄積される炭素のこと

—事業例と KPI—

・再生可能エネルギーや水素エネルギーの利活用拡大などによるエネルギーの脱炭素化

KPI 二酸化炭素排出量：実質ゼロ【2050 年(令和 32 年)までに】

⑤ 環境にやさしい移動手段の利用促進（再掲）

with コロナ時代に対応した移動手段として有用性が見直されている自転車の利用促進に向けて、自転車走行空間整備や放置自転車対策といった安全・快適な自転車利活用のための環境づくりを進めるとともに、都心部の回遊性を向上させる移動手段として導入されているシェアサイクル「Kobe Linkle（こうべリンクル：通称コペリン）」をさらに活用・拡大することで、環境にやさしい乗り物として利用を推進し、市民や来街者へのサービス向上を図ります。

—事業例と KPI—

・自転車の利活用促進（再掲）

⑥ 計画的開発団地・都市公園などのリノベーション

昭和 30 年代以降の人口増加に対応するため整備された計画的開発団地は、まちびらきのタイミングで同じ世代が一斉に入居したことから、入居世代が偏っており、人口減少・高齢化が急速に進行することで、空き家・空き地の増加、生活利便施設の撤退、施設の老朽化などさまざまなオールドタウン化の問題が顕在化しつつあります。

このような住宅団地を再生し良好な住環境を維持していくため、コミュニティの活性化のための地域活動の支援、地域の現状にあわせた公共空間の活用、キッチンカー、移動販売など生活利便機能を維持するためのモビリティサービスの導入など、個別の団地の状況に応じてハード・ソフトの施策を組み合わせたリノベーションに取り組みます。

また、都市の高質化のために、道路や公園において、リノベーションに取り組み、市民ニーズに対応しながら、貴重な空間としての機能を高めます。なかでも、神戸電鉄の沿線の団地などにおいては、まちの顔となる駅を快適でにぎわいのある空間とし、まちの魅力を一層向上させるため、駅施設や駅前空間の再整備に取り組みます。

大規模公園においては、自然環境の保全やまちの魅力向上に寄与するため「大規模公園ビジョン」に基づき計画的にリノベーションに取り組めます。なお、王子公園については、施設の老朽化が進んでいることから、利便性の高い文教エリアの特性を活かした大学誘致などによる地域ブランドの向上をめざし、再整備に取り組めます。

—事業例と KPI—

・計画的開発団地のリノベーション

KPI 取り組みを行っている地区のうち生産年齢人口の減少の緩和が図られた地区：50%以上
【2025 年度(令和 7 年度)】

・都市公園のリノベーション

KPI リノベーションする拠点公園数：10 公園【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

⑦ 都心・三宮再整備の推進と回遊性の向上、駅前空間の魅力向上（再掲）

駅前空間はまちの「顔」となる重要なエリアです。三宮駅周辺を、利便性が高く、神戸の玄関口にふさわしい空間として創出するとともに、その他の駅についても、駅前空間のリノベーションを進め、まちの質・くらしの質を一層高めます。

—事業例と KPI—

・都心・三宮再整備の推進（再掲）

・駅前空間の魅力向上（再掲）

⑧ 持続的な農漁業振興のための環境づくり

新型コロナウイルス感染症を契機として、里山や農村地域などで過ごす新たなライフスタイルが注目されていますが、都心に隣接していながら、茅葺民家などの魅力ある風景や豊かな自然が残る神戸の農村は非常に暮らしやすい環境が整っています。農業にも生活にも恵まれた環境を最大限活かし、「持続可能な農業の振興」、「農村定住環境の整備」、「自然文化環境の保全」の 3 本柱で取り組みを進め、持続可能な農業と快適な里山暮らしを実現します。



また、自然豊かな漁場である瀬戸内海に面した神戸の海を次世代に引き継いでいくため、市民に対する漁業体験・漁業教育の場づくりや、海域の適正な栄養環境の保全に努め、豊かで美しい神戸の海づくりをめざします。

—事業例と KPI—

・里山・農村地域活性化ビジョンの推進（再掲）

基本目標 7 多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化

基本的方向



少子高齢化が進展する中、国内有数の大学集積都市である本市において、優秀な人材をいかに各大学で獲得・育成し、卒業後の市内への定着、さらには各分野での活躍につなげていくかが課題となっています。

また、地域のコミュニティについては、少子高齢化、人口減少の影響で、地域活動に取り組む担い手不足が進行しています。さらに地域では、これまでの防災や美化活動などのほか、空き家・空き地、高齢者の見守りなど地域課題の多様化、複雑化が進んでおり、また、SDGs の取り組みにおいても、地域で支えあう活動が一層重要視されています。これまでも自治会、婦人会、ふれあいのまちづくり協議会、防災福祉コミュニティなどさまざまな団体が活動を続けられています。

しかし、地域課題に対して地域でのつながりの醸成だけでは解決が難しいことも多く、持続可能な地域社会の形成のためには、公共私との連携が重要であり、特により一層産学官が連携することにより、知恵と経験を集め、さまざまな課題の解決に取り組むことが必要となっています。また、子育て支援など一定のテーマについて活動したい市民団体や個人が社会の課題解決として参加・参画する動きもあります。さらに、留学生をはじめとして、増加する外国人が地域のコミュニティへ参画できる地域づくりも求められています。

これらの背景をふまえ、防災、こども、高齢者など幅広い分野において、行政内部での組織横断的な取り組みを強化するとともに、NPO、企業、大学などとの連携を促進します。このような多様な世代や背景を持つ市民との協働と参画により、地域特性に応じたコミュニティの形成に向けて、地域活動の活性化の促進、外国人留学生と地域コミュニティとのつながり強化など、さまざまな取り組みを進め、多様化、複雑化する課題の解決につなげます。

数値目標

- ・市内留学生数(大学・短大) : 5,000 人【2025 年度(令和 7 年度)】
- ・民間事業者と連携して実施したプロジェクト数 : 累計 700 プロジェクト【2021 年度(令和 3 年度)～2025 年度(令和 7 年度)】

具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI)

① 地域活動の活性化

地域団体と地域課題の解決に取り組む NPO・企業・大学との連携や、市内各地域の多様な地域特性に応じた地域コミュニティ施策の推進により、人口減少社会を見据えた「総合的・自律的な地域コミュニティ」の環境づくりにつなげていきます。

このため、地域福祉センターの拠点機能の強化として、「こども食堂」など子育て世代の利用や多世代交流などを通じた地域コミュニティの活性化や ICT の活用を促進します。

また、地域活動を支援するための行政手続きの事務負担の軽減とともに、with コロナを契機に行政手続き電子化の必要性が高まっていることから、地域団体や NPO などの利便性の向上をはかり、電子申請などができる環境整備に向けた検討を進めます。

—事業例と KPI—

- ・顔の見える地域社会づくりと支えあい活動の推進

KPI 地域福祉センターの子育て世代の利用割合 4割【2025年度(令和7年度)】

② 防災・減災の取り組み（再掲）

市民の安心・安全を確保するため、激化・多様化する自然災害や感染症などに対する危機対応力の強化を進めます。ICT・AIをはじめとした新技術を積極的に活用し、情報収集・分析など危機管理体制のさらなる強化を図ります。さらに、土砂災害による被害防止のための治山砂防事業や、まちの治水安全度を高める河川改修事業を関係機関と連携しながら引き続き推進し、安全・安心な市民の暮らしを支えます。

また、避難所環境の改善や、地域による避難所の開設運営体制の確立、さらには感染症流行下での緊急避難場所などの運営体制確立や必要資材の備蓄などを進めます。

市民啓発や防災教育などにより防災への意識改革を図り、「自己決定力」の向上による「自助・共助」の対応力強化を進めるとともに、震災経験の継承・発信を継続します。

—事業例と KPI—

- ・家庭の災害対応力の向上（再掲）

③ 妊娠・出産・子育て期の支援、子育て支援施策の情報発信（再掲）

保護者の子育てに対する負担や不安、孤立感を解消し、子どもの特性、地域の実情を踏まえながら、誰もが安心して子どもを産み育てることができるような支援や情報発信を行います。

妊娠・出産・子育て期のサービスや情報提供を充実するとともに、ワンストップで確実に支援につなげる体制づくりにつとめるほか、児童虐待の早期発見、対応、未然・再発防止に取り組み、社会的養育を必要とする子どもたち、障がい児やひとり親家庭への支援、貧困の連鎖防止などの支援を充実させます。

また、子どもが安心・安全に過ごすことができる環境づくりを図るなど、地域における子育て支援を推進するとともに、青少年が社会の一員としての自覚を持ち、自立と自己実現が図れるよう支援を進めます。

あわせて、神戸市子育て応援サイト「こどもと KOBE」を中心として、子育て支援施策の認知度向上を図り、神戸で安心して子育てする魅力を発信していきます。

—事業例と KPI—

- ・幼稚園預かり保育事業（再掲）
- ・一時保育事業（再掲）
- ・子育てリフレッシュステイ事業（再掲）
- ・地域子育て支援拠点事業（再掲）
- ・ファミリー・サポート・センター事業（再掲）

④ 地域福祉のプラットフォームの推進（再掲）

各区社会福祉協議会などが主体となり、生活課題を抱える人やその支援に携わる人など多様な主体がネットワークを構築し、協議する場（地域福祉のプラットフォーム）を設け、地域福祉課題の解決や新たな仕組みづくりを推進します。

—事業例と KPI—

- ・多様な主体による地域活動の展開における出会い・学びのプラットフォームの推進（再掲）

⑤ 大学などとの連携促進（再掲）

神戸市には 22 の大学・短期大学をはじめ、高等専門学校、多くの専門学校があります。こうした機関と産業界・行政などとの地域内連携により、地域の将来ビジョンを共有し、地域の課題解決に向けた連携協力を強化します。

また、グローバル化が進展し、各都市・大学間で世界規模の人材獲得に向けた競争が激しさを増している中、大学が集積している神戸に、優秀な外国人留学生を戦略的に獲得し、卒業・修了後の市内定着につなげていくための施策に取り組みます。

—事業例と KPI—

- ・地域連携プラットフォーム（仮称）構築の検討（再掲）
- ・外国人留学生の戦略的獲得と定着（再掲）

⑥ 在住外国人との共生の推進（再掲）

「地域への課題」への対応に加え、特定の外国人が孤立したりしないよう日本人と外国人が地域でともに生活することのできる「多文化共生」のまちづくりの推進が必要となっています。

日本語学習を希望するすべての在住外国人に対し、ニーズに応じた日本語学習環境を提供するとともに、「やさしい日本語」の活用など、外国人にもわかりやすい広報物の作成を推進し、よりきめ細やかな双方向型情報共有ネットワークを構築します。また、医療通訳システムへの支援を拡充し、外国人の方も安心して医療機関を受診できる体制を確立します。あわせて、多文化共生の推進拠点「ふたば国際プラザ」や「多文化交流員制度」により、多文化交流事業や地域の防災訓練への参加など、地域における日本人と外国人との交流を推進します。

既存住宅を共同居住型住宅（シェアハウス）として改修し、外国人を受け入れる企業や法人などが、住宅の確保に支援が必要な外国人や学生などに賃貸する場合に、改修工事費用を補助する「共同居住型住宅改修補助制度」に取り組みます。また、市営住宅の空き家をシェアハウスとして留学生などに提供するとともに、社宅などとしての活用を推進します。

—事業例と KPI—

- ・総合的な日本語学習プラットフォームの構築（再掲）
- ・在住外国人への情報発信及び言語サービスの充実（再掲）
- ・地域コミュニティへの外国人流入の活性化（再掲）

⑦ 空き家・空き地対策（再掲）

まち全体の衰退を食い止め、再生を図っていくうえで極めて重要な分野として、空き家・空き地に積極的に取り組みます。

空き家対策として、所有者からの相談をワンストップでできる公的窓口の設置により、賃貸や売却に出されていない「その他空き家」の市場流通化、地域での転活用、老朽家屋解体を支援します。ライフステージに応じた住み替え支援や既存住宅の魅力発信などにより、市内への定住・転入促進とあわせた既存住宅の流通促進に取り組むとともに、不適切な状態で放置されている空き家・空き地の増加を抑制する施策を実行していきます。

—事業例と KPI—

- ・既存住宅の流通促進（再掲）
- ・管理不全空家空地の改善（再掲）

(参考)

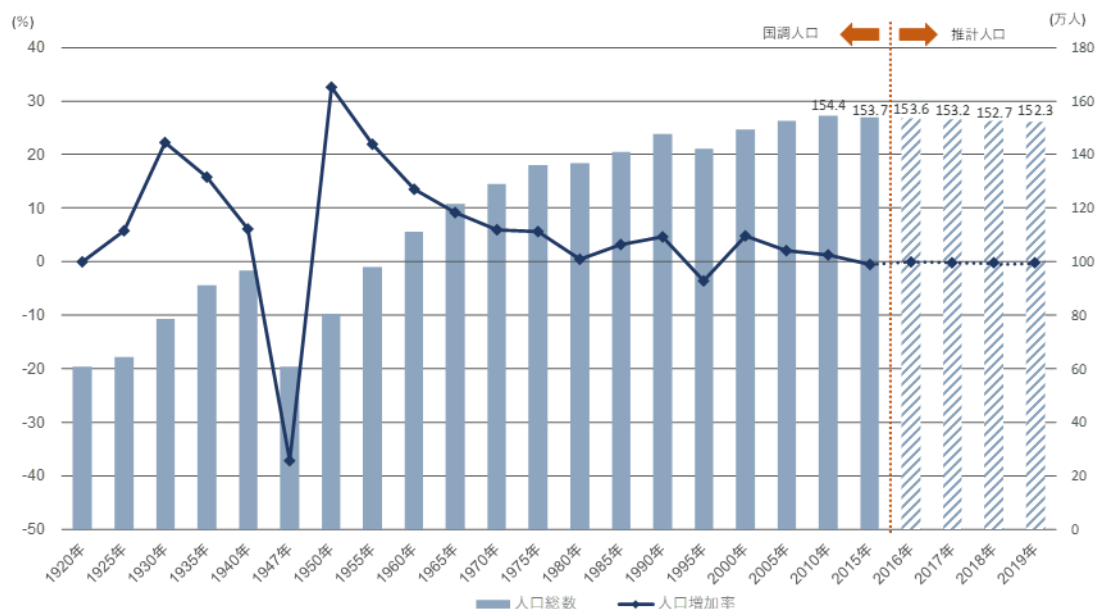
- 1. 神戸人口ビジョン（改訂版）の概要**
- 2. 神戸 2025 ビジョン策定に向けた有識者会議 名簿**
- 3. 策定・改訂の履歴**

1. 神戸人口ビジョン（改訂版）の概要

1) 神戸市の人口動態とその背景

国勢調査ベースの神戸市の人口は、2010 年（平成 22 年）の 154.4 万人をピークに、直近の 2015 年（平成 27 年）の調査において、戦災、震災以外の局面で初めて減少に転じました。

図 1 神戸市の総人口と人口増加率の推移



【注】2015 年（平成 27 年）までは国勢調査、2016 年（平成 28 年）以降は推計人口（毎年 10 月 1 日時点）による。

【資料】総務省「国勢調査」、神戸市「毎月推計人口」

人口減少の主な要因は死亡数が出生数を上回る自然減少と転入超過幅の減少によるもので、人口減少に転じて以降の毎年の人口減少率は-0.1%から-0.3%程度で推移しています。

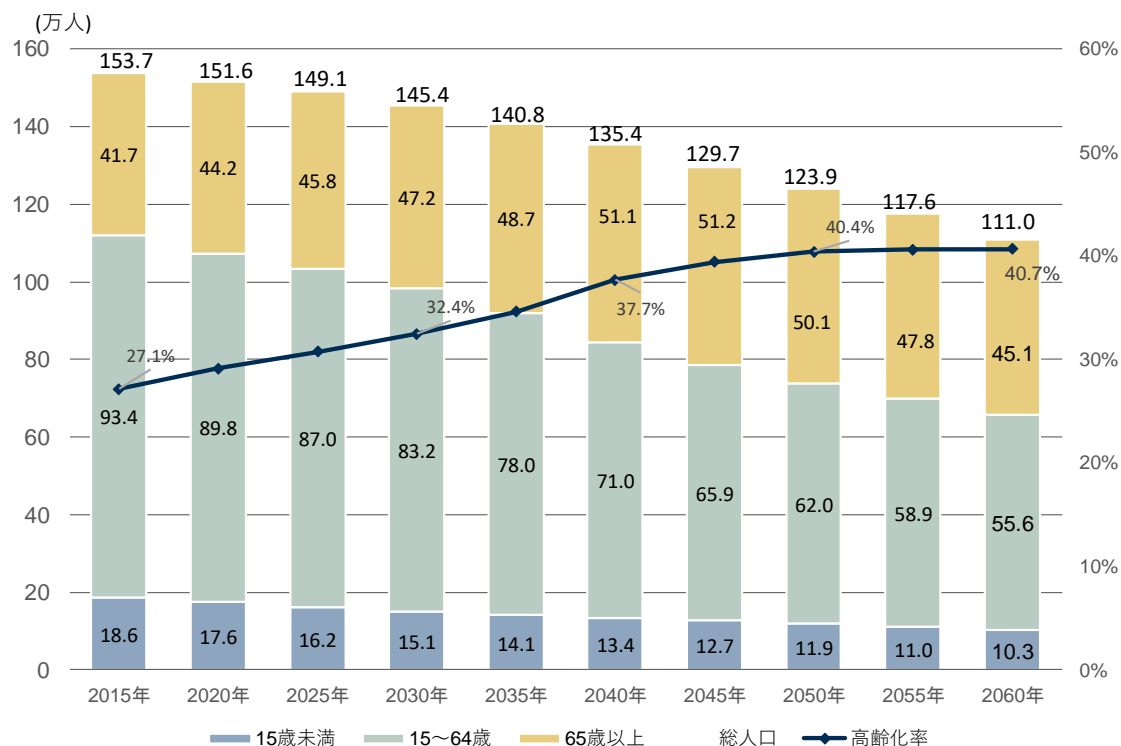
自然動態については、2005 年（平成 17 年）に初めて自然減少に転じ、2007 年（平成 19 年）以降 13 年連続で自然減少となっています。自然減少となっている主な原因は高齢化に伴う死亡数の増加と少母化に伴う出生数の減少です。神戸市における平均寿命は 1995 年（平成 7 年）以降伸び続けていて、男女とも 80 歳代（男性 80.9 歳、女性 87.0 歳）であり、死亡数は今後も増加が見込まれます。また、20・30 歳代の女性の人口そのものが構造的に減少していることから、これからも出生数が減少し続けることが見込まれます。

社会動態については、特に、東京圏や大阪市、阪神間 6 市に対して大幅に転出超過となっています。一方で、海外からの転入は増加しており、特にベトナムからの転入者は 2014 年（平成 26 年）から 2019 年（令和元年）にかけて、3 倍以上に増加しています。また、年齢別・コーホート別に人口増減数を見ると、多くの若者が高卒就職時・大学入学時に相当する 10 代後半、20 代前半に流入し、大卒・院卒就職時に相当する 20 代後半で流出していることがうかがえます。ただし、2019 年（令和元年）は 20 歳代後半の転出超過幅が縮まるなど、変化の兆しも見られます。

2) 人口推計の結果

近年の人口動態と国の動向を踏まえ、改めて基準となる将来人口推計を行いました。今の状況が続けば、2030年（令和12年）には145.4万人、2060年（令和42年）には111.0万人まで減少すると見込まれています。

図2 人口推計結果



【推計方法】2020年（令和2年）の推計値から「日本の地域別将来推計人口（2018年（平成30年）推計）」における仮定値（純移動率、生残率、出生率、出生性比）を用いて推計している。（出生中位・死亡中位仮定）

（参考）神戸人口ビジョン（改訂版）

<https://www.city.kobe.lg.jp/documents/35913/kobejinkouvisoin1.pdf>

（神戸市ホームページ）

2. 神戸 2025 ビジョン策定に向けた有識者会議 名簿

1) 神戸 2025 ビジョン策定に向けた有識者検討会議

会 長

品田 裕 神戸大学 理事

委 員（五十音順、敬称略）

植戸 貴子 神戸女子大学 健康福祉学部教授
小野 セレスタ 摩耶 滋慶医療科学大学院大学 医療管理学部研究科 准教授
加藤 恵正 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授
嘉納 未来 ネスレ日本株式会社 執行役員 コーポレートアフェアーズ統括部長
栗山 尚子 神戸大学大学院工学研究科 准教授
小林 由佳 神戸新聞社 論説委員
中林 志郎 神戸商工会議所 専務理事
服部 孝司 神戸市民文化振興財団 理事長
藤岡 義己 兵庫県中小企業家同友会 代表理事
眞鍋 智子 連合神戸地域協議会 副議長

2) 神戸 2025 ビジョン策定に向けたワーキンググループ

委 員（五十音順、敬称略）

議論テーマ「若者が選ぶまち」

織田澤 利守 神戸大学大学院工学研究科 准教授
大仁 恵美子 株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長代理
田邊 昭博 ヤフー株式会社
西岡 幸子 こ・ねくすと 代表

議論テーマ「誰もが活躍するまち」

澤田 有希子 関西学院大学人間福祉学部 准教授
竹村 匡正 兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科 教授
永野 敦子 神戸労働者福祉協議会 委員
林 英樹 林英樹司法書士事務所 司法書士、東灘区カネボウアーバン自治会 会長
山田 基靖 学校法人摺河学園 学園長

3) 神戸 2025 ビジョン策定に向けたアドバイザー

（五十音順、敬称略）

荒畑 稔 独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）神戸貿易情報センター 所長
森本 作也 コウベ・インターナショナル・クラブ シリコンバレー（サンフランシスコ）支部 代表
諸富 徹 京都大学大学院経済学研究科 教授
横田 浩一 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授

3. 策定・改訂の履歴

第1版	2021年（令和3年）4月 策定
第2版	2022年（令和4年）12月 改訂
第3版	2023年（令和5年）6月 改訂
第4版	2024年（令和6年）12月改訂

神戸2025ビジョン

総括報告書

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



神戸2025ビジョンの全体像

神戸が目指す将来像

「海と山が育むグローバル貢献都市」

(考え方)

海や山、里山・農村などの豊かな自然環境、国際性や多様性、芸術文化といった神戸の強みを磨き、活かすとともに、医療や環境などの分野で、世界に貢献し、市民一人ひとりが安心安全で心豊かに幸せを実感できる持続可能なまちを目指す。



神戸を取り巻く情勢

1. 人口

- ①これまでの推移
- ②神戸市全体の人口動態
- ③神戸市の今後の人口見通し
- ④在留外国人の推移

2. 東京一極集中

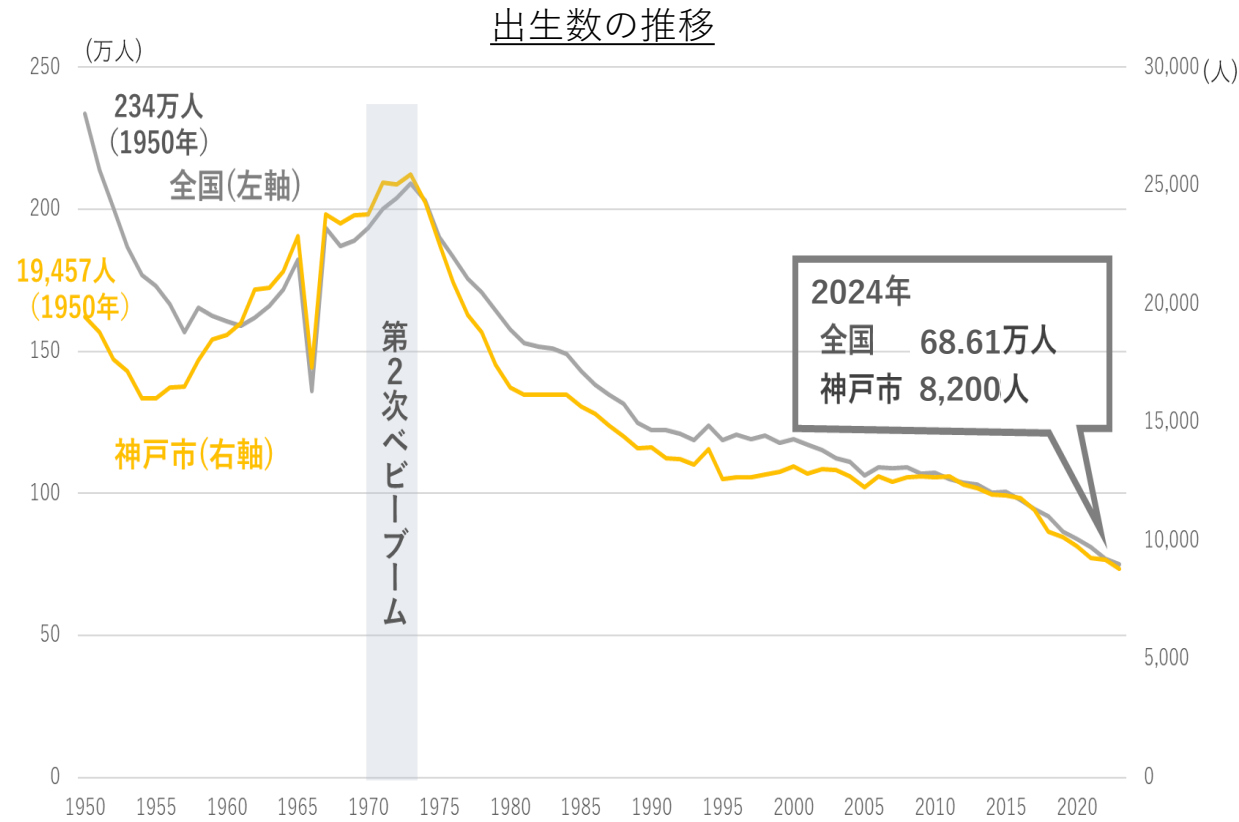
- ①政令市および市町村の人口状況
- ②東京都の人口推移
- ③資本金10億円以上の企業数

3. 経済社会情勢

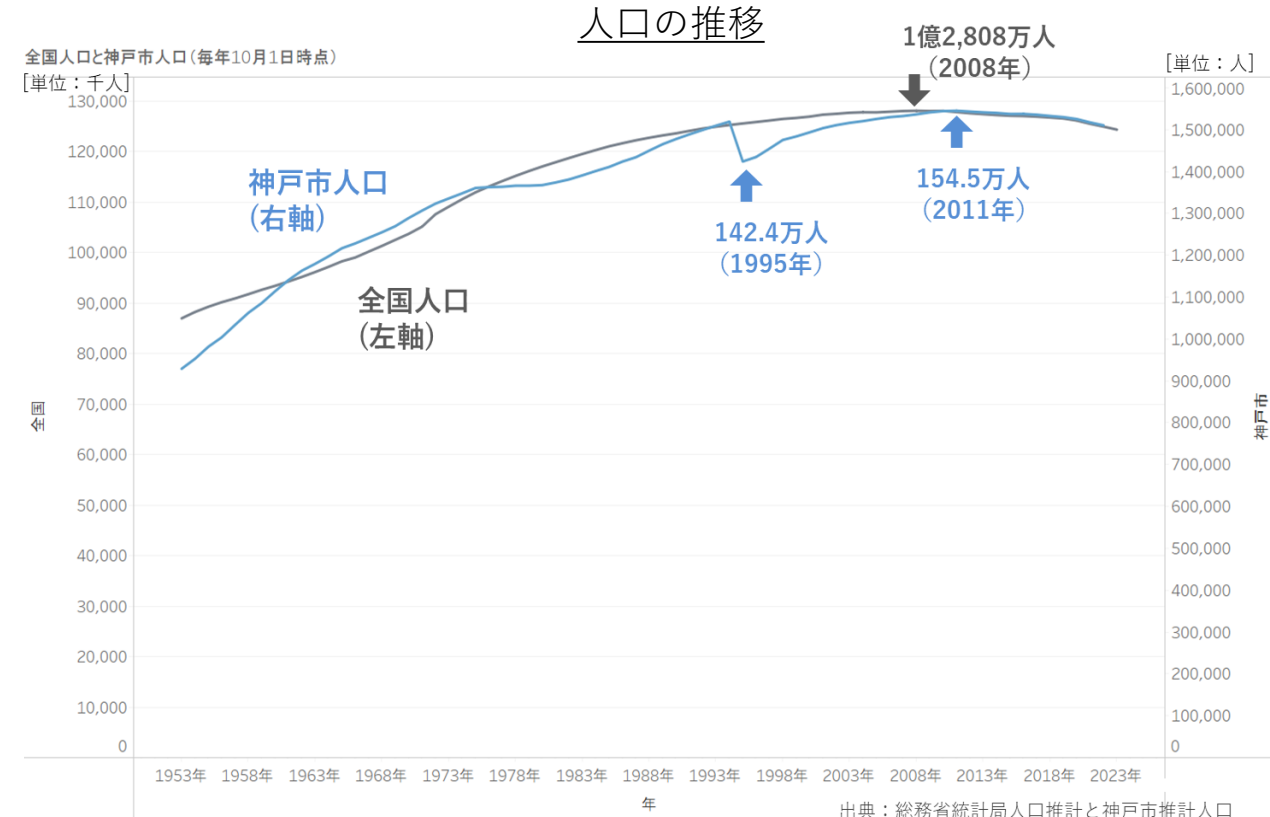
- ①実質県内総生産、景況・雇用動向調査
- ②物価高騰の状況
- ③観光の動向
- ④有効求人倍率、完全失業率
- ⑤地域のつながり

1. 人口（①これまでの推移）

- 日本全体で急激な少子化が進行し、2008年をピークに人口減少が続く
- 本市の人口も2011年から減少に転じ、今後も自然減により減少傾向が続くことが予測される



出典：厚生労働省人口動態統計、神戸市統計書より市作成

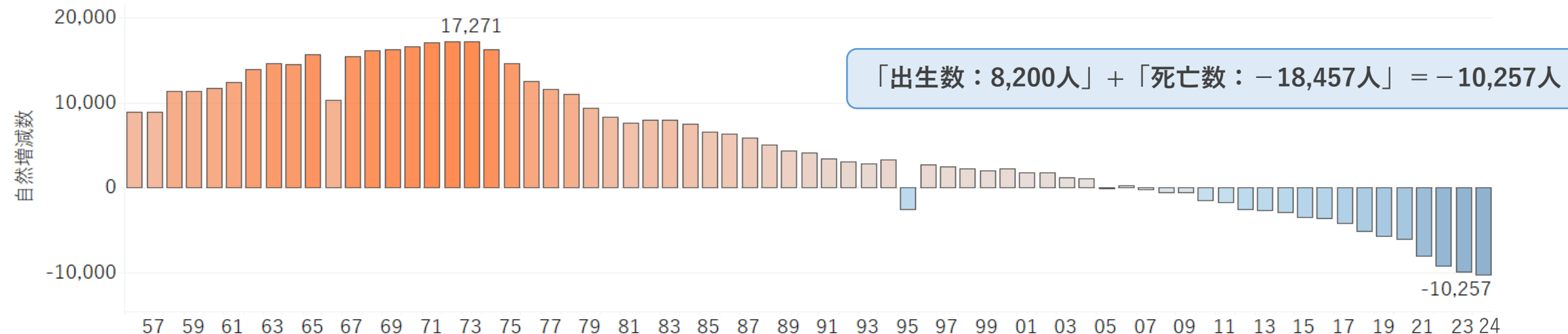


出典：総務省統計局人口推計と神戸市推計人口

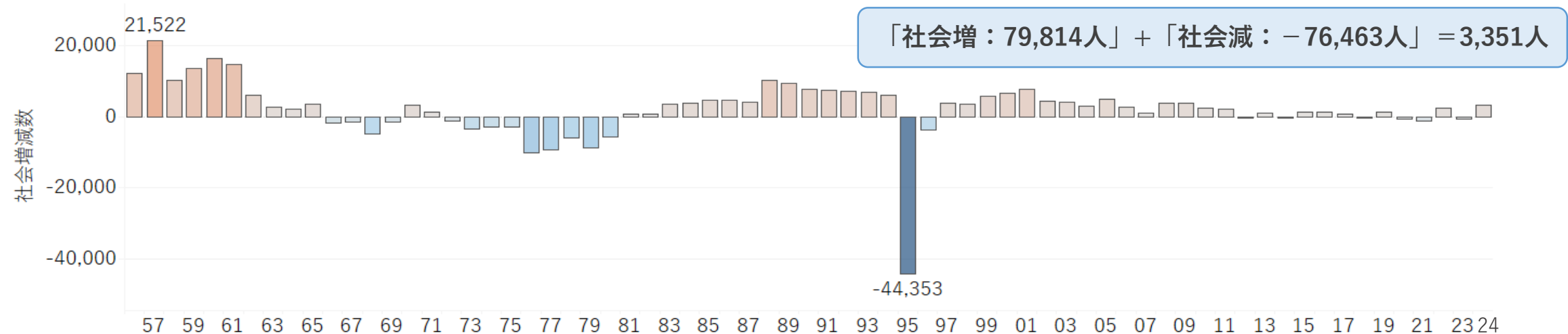
1. 人口（②神戸市全体の人口動態）

- 本市の**出生数は減少**が続いている一方で、**高齢化による死亡数は増加**しており、自然減の拡大が常態化

自然動態の推移

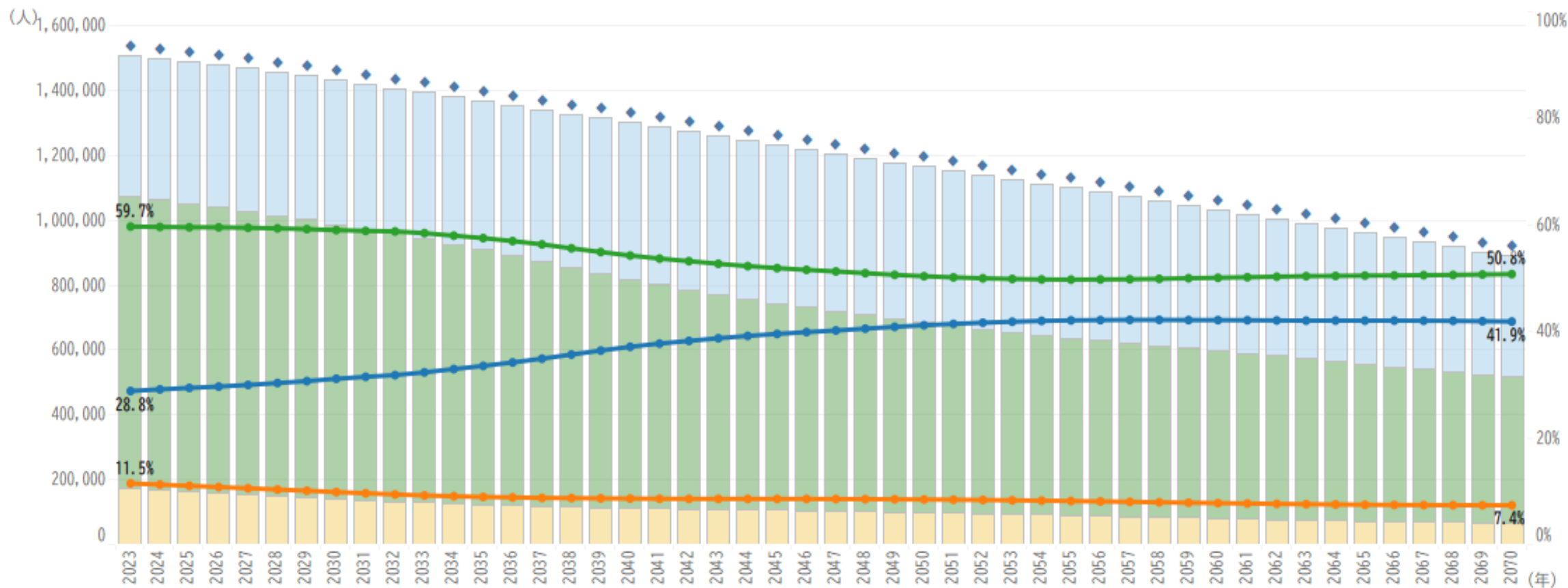


社会動態の推移



1. 人口（③神戸市の今後の人口見通し）

- 今後、神戸の人口は減少が続いていくことが見込まれる。
- 総人口が減少していく中で高齢化が進むため、**老年人口の占める割合が大きくなる**ことが予測される。



凡例（年齢3区分）

- 老年人口（65歳以上）
- 生産年齢人口（15～64歳）
- 年少人口（15歳未満）

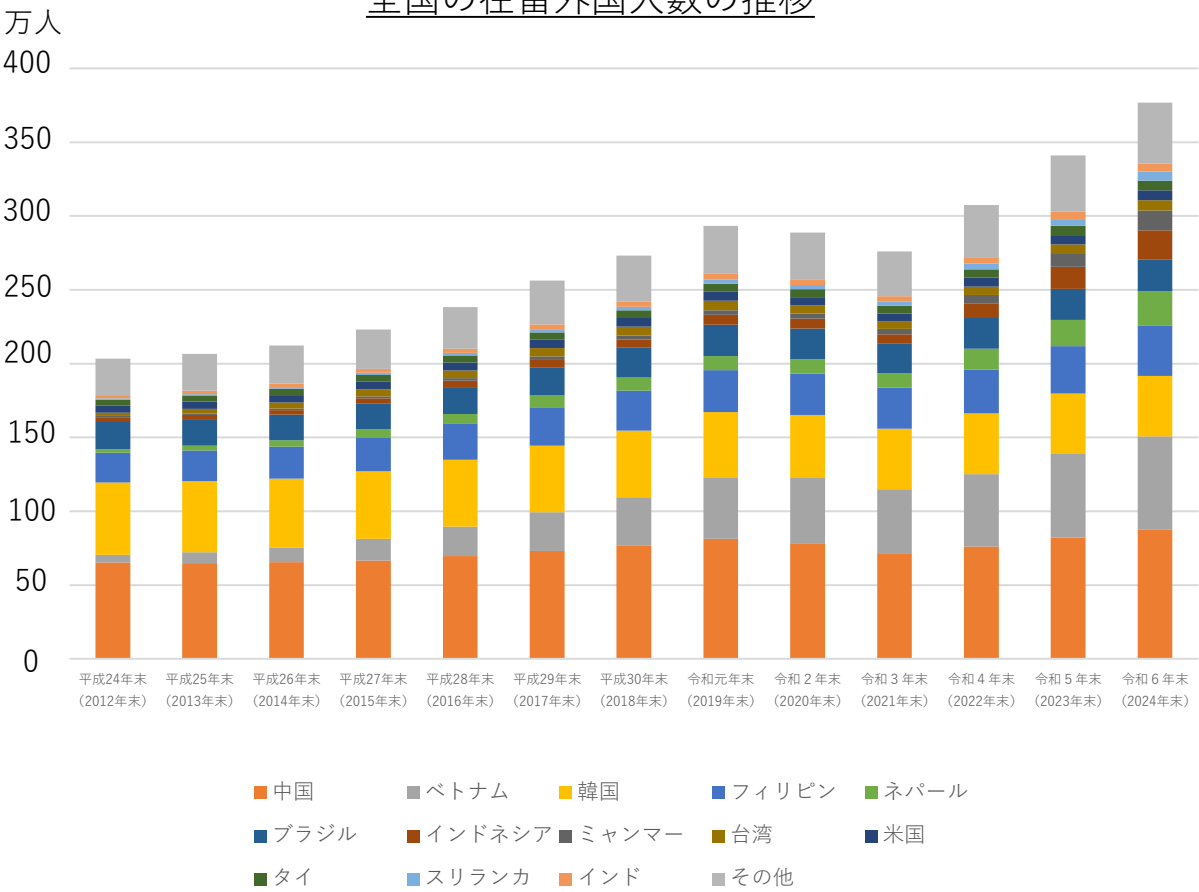
- 老年人口割合
- 生産年齢人口割合
- 年少人口割合

出典：神戸人口ビジョン

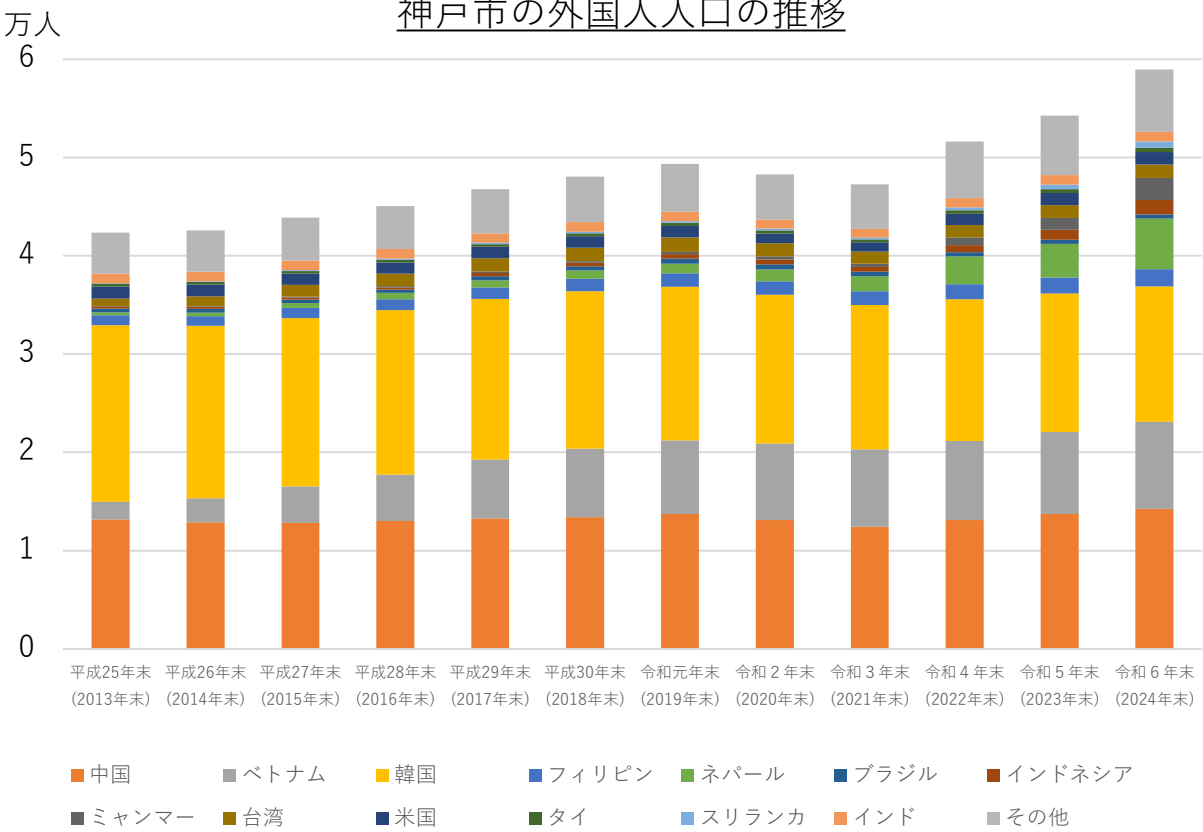
1. 人口（④在留外国人の推移）

- 全国の**在留外国人**は、コロナ禍の一時的な減少を除けば**増加**している
- 本市の外国人人口も増加傾向にあり、近年では特に**ベトナムやネパール、ミャンマーからの流入が増加**している

全国の在留外国人数の推移



神戸市の外国人人口の推移

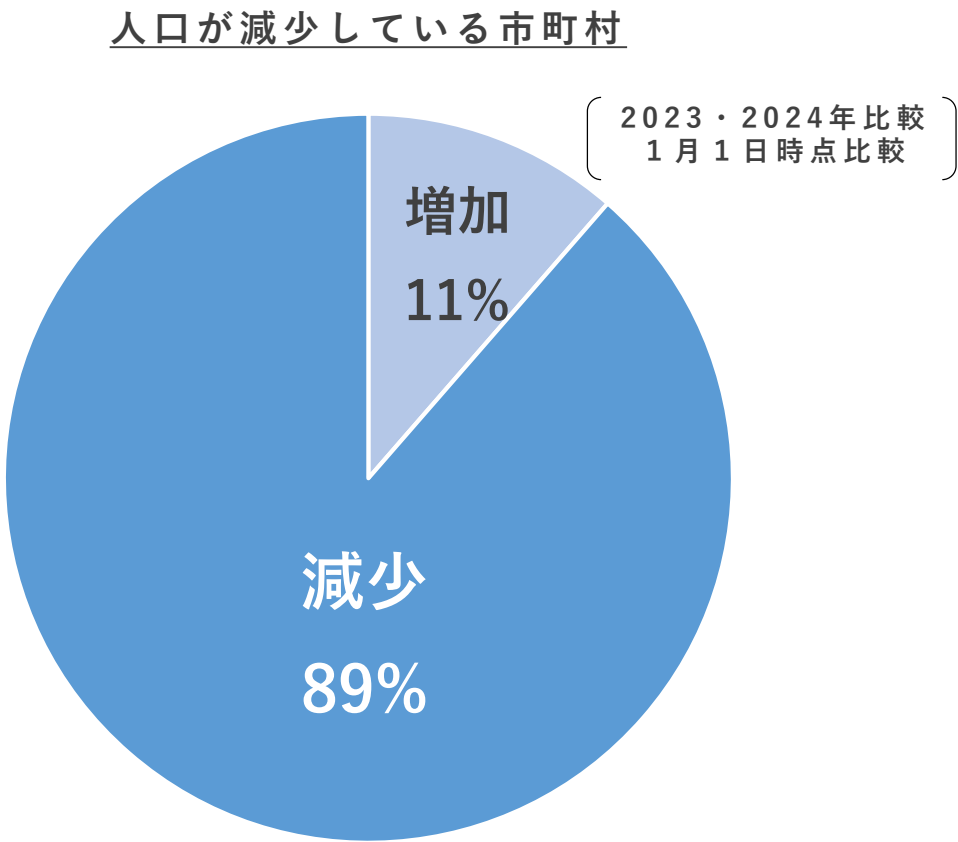
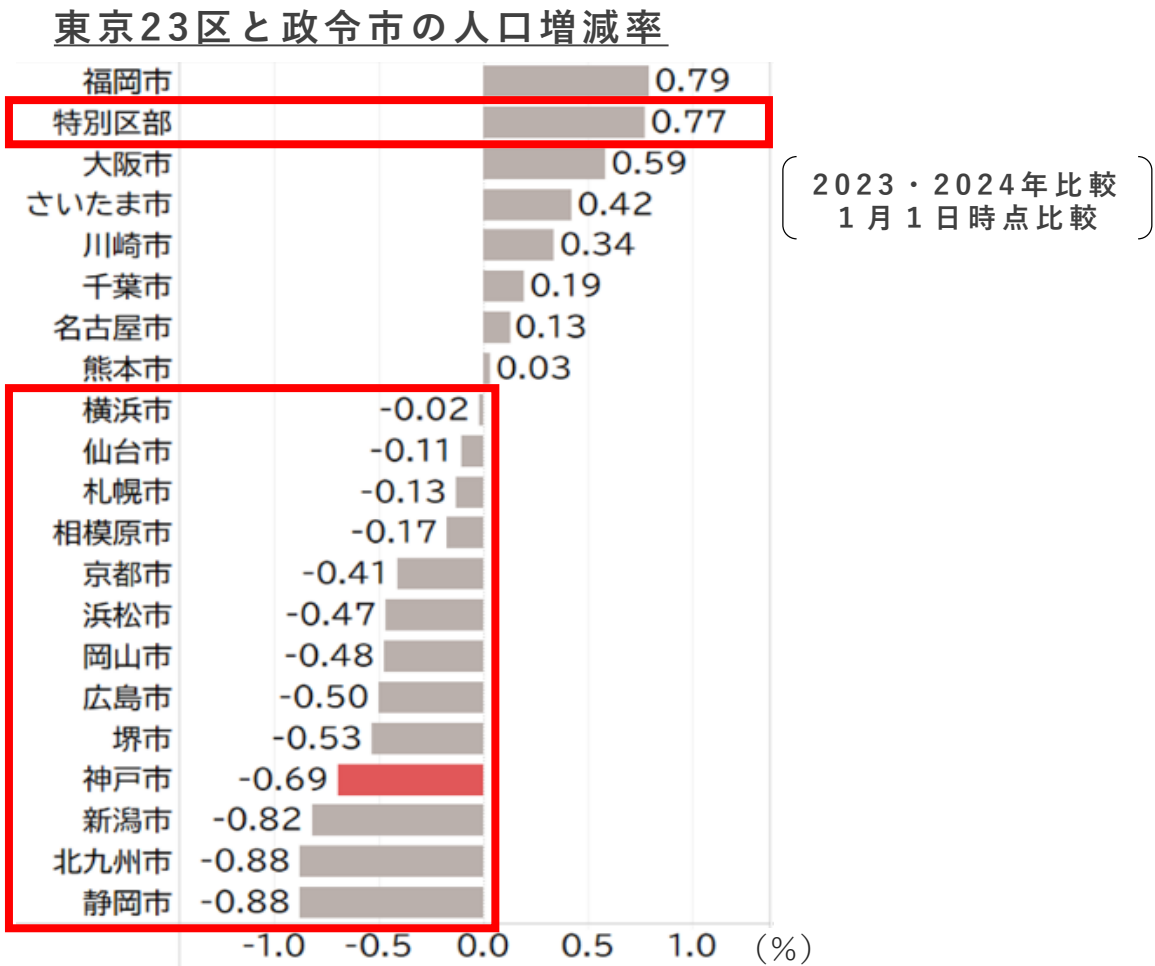


出典：出入国在留管理庁のデータより作成

出典：神戸市

2. 東京一極集中の状況（①政令市および市町村の人口状況）

- 指定都市20都市のうち、**13都市が人口減少**となっている
- **約89%の市町村が人口減少**となっている

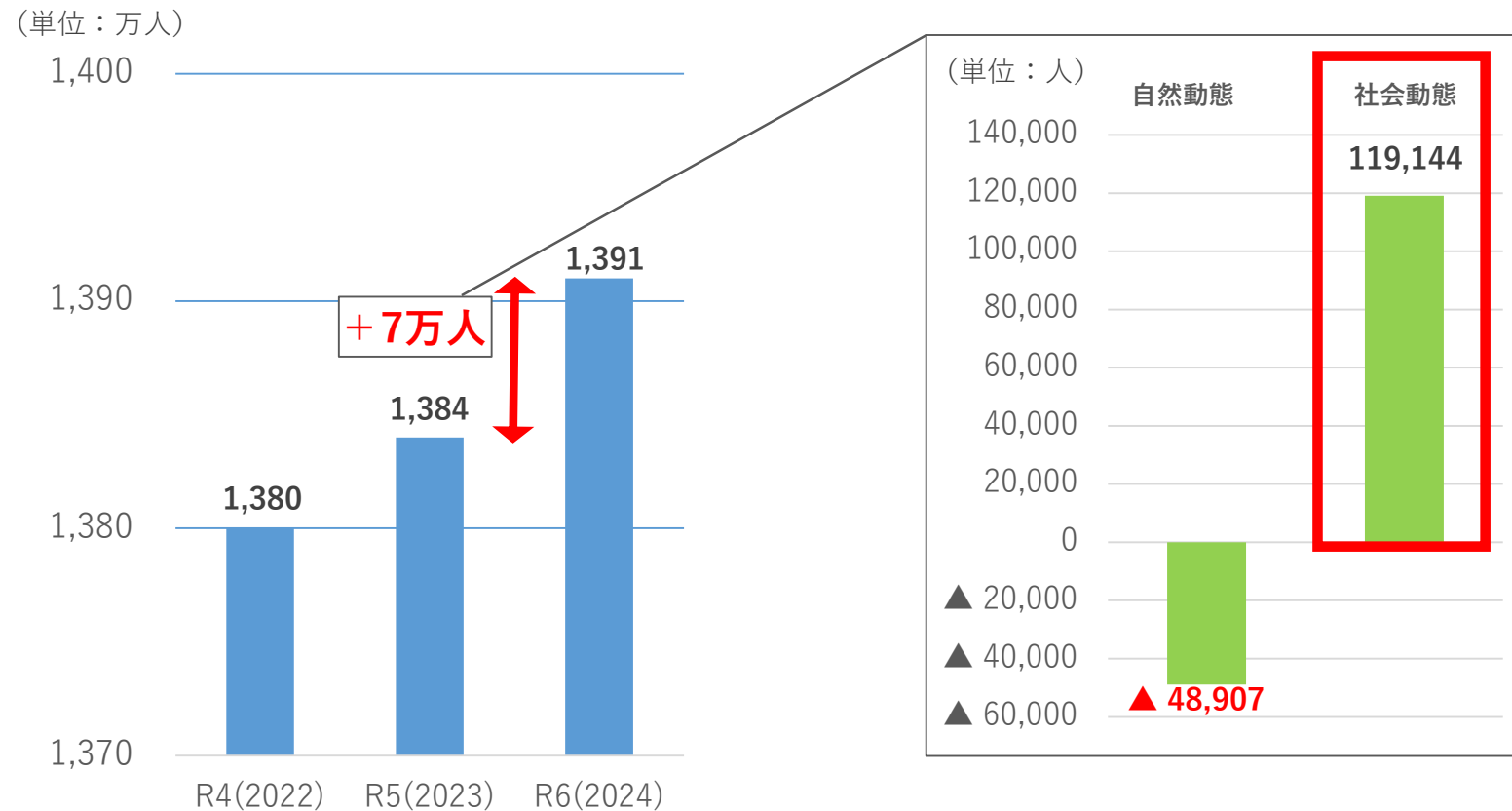


出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（令和6年1月1日現在）（総務省）

出典：総務省・2023/2024年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査より神戸市集計
東京都特別区部は1市として算定

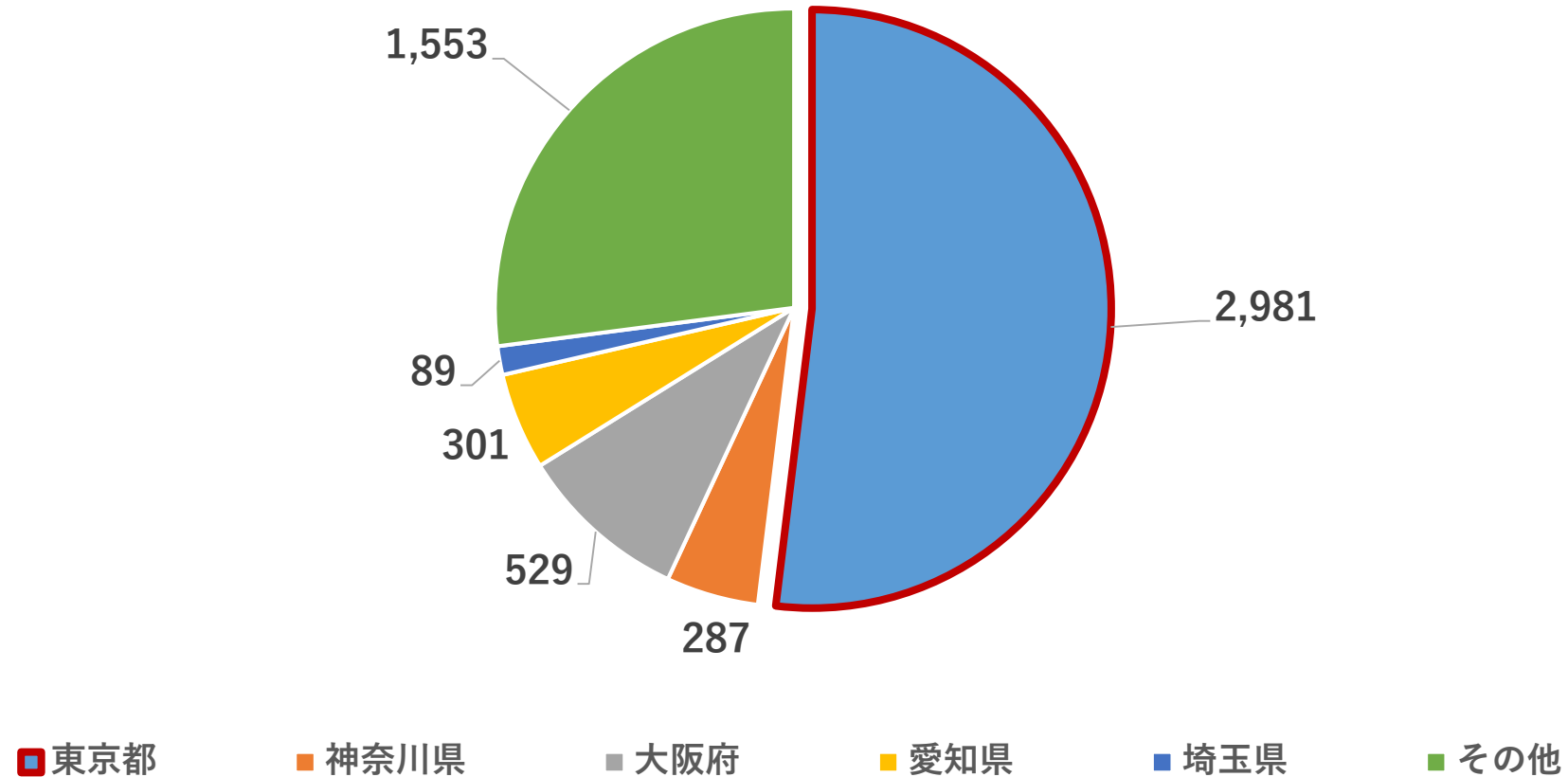
2. 東京一極集中の状況（②東京都の人口推移）

- 東京都の人口は、自然減を上回る社会増（他都市からの流入）により増加している
- 人口減少に伴って他都市からの流入が減少していくため、将来的には東京都においても自然減が社会増を上回り、人口減少に転じることが予想される



2. 東京一極集中の状況（③資本金10億円以上の企業数）

➤ 大企業は東京都に偏在している



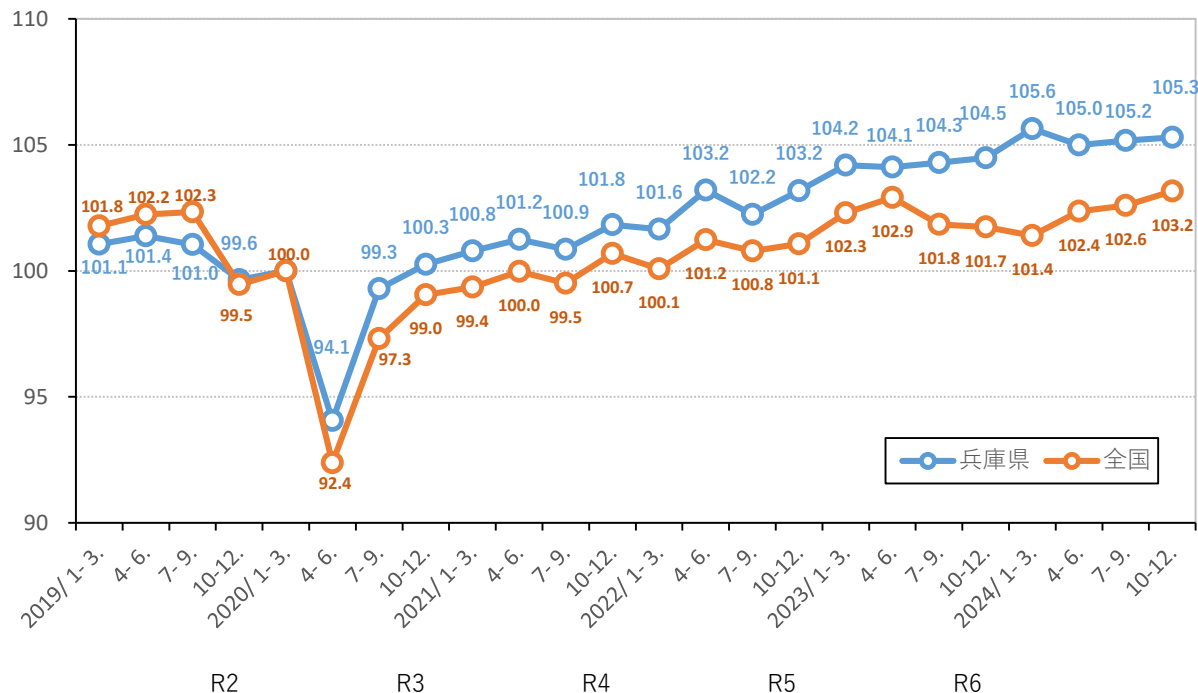
出典：総務省「令和3（2021）年経済センサス」を基に作成
人口上位5都府県を抜粋

3. 経済社会情勢（①実質県内総生産、景況・雇用動向調査）

- 実質県内総生産はコロナ禍に大きく落ち込んだが、2021年10月以降はコロナ禍以前の水準に回復し、増加傾向を維持しながら推移
- 神戸市内景況・雇用動向調査では、コロナ禍で製造業・非製造業ともに生産・売上が大きく落ち込んだが、2021年度以降は徐々に好転傾向を示している

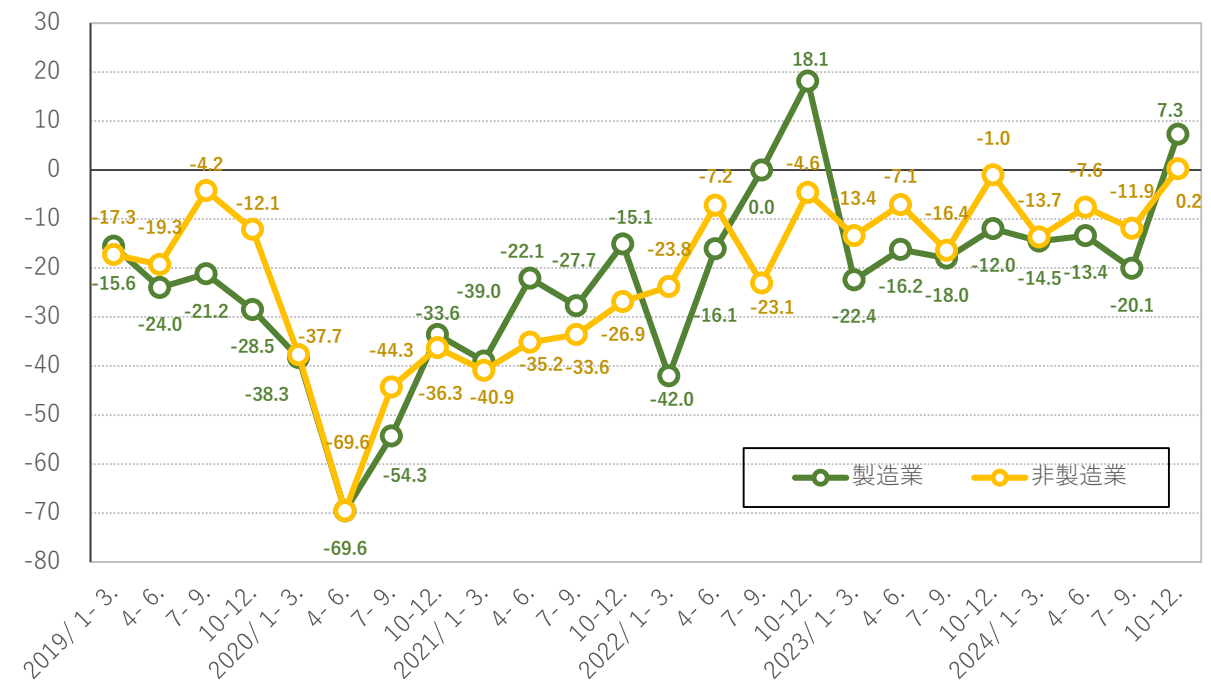
実質県内総生産

(2020年1-3月を100とした指数。季節調整済み)



出典：兵庫県民経済計算関連データ

神戸市内景況・雇用動向調査（生産・売上）

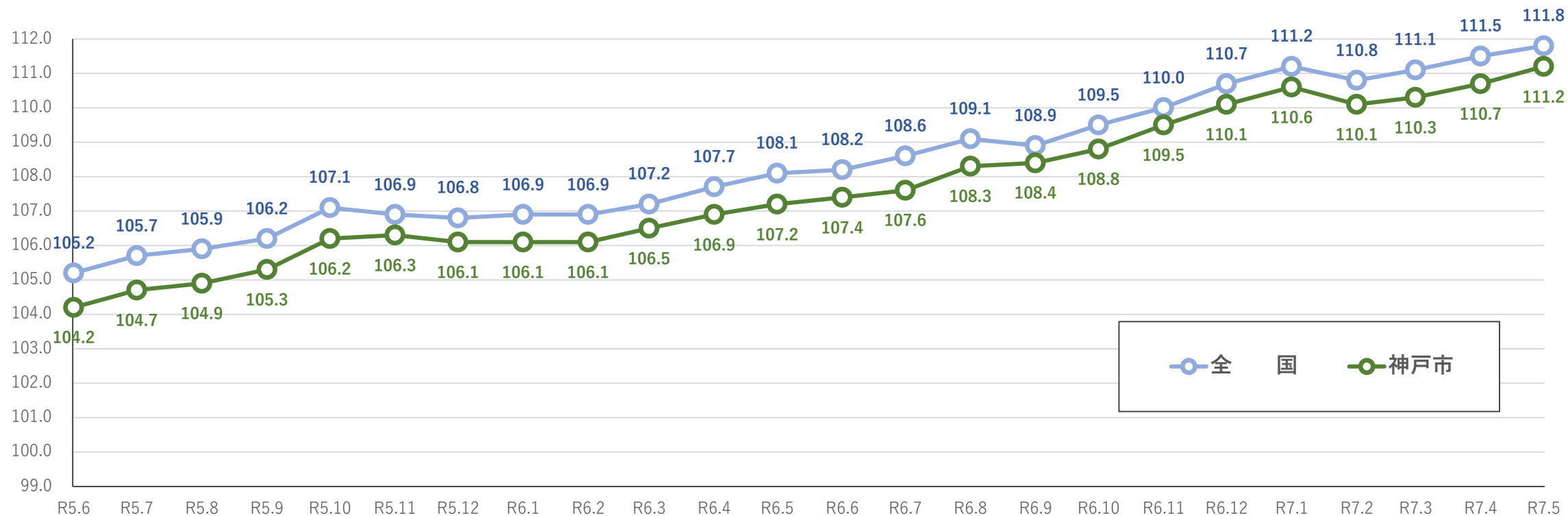


出典：神戸市景況・雇用動向調査

3. 経済社会情勢（②物価高騰の状況）

- ロシアのウクライナ侵攻を発端としたエネルギー価格や穀物価格の高騰、また、円安による輸入コストの上昇、さらに人手不足による人件費上昇などを背景に全国の消費者物価指数は上昇
- 神戸市においても同様に物価の上昇が加速している

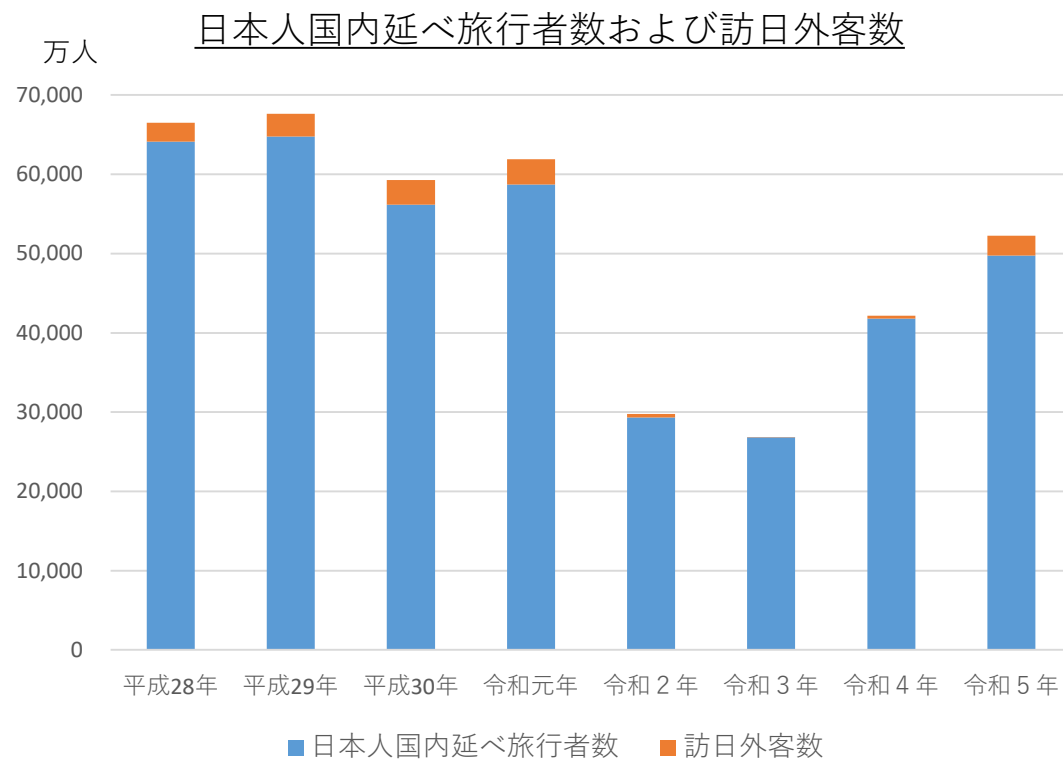
2020年基準 消費者物価指数 全国及び神戸市の総合指数の動き



出展：兵庫県HP

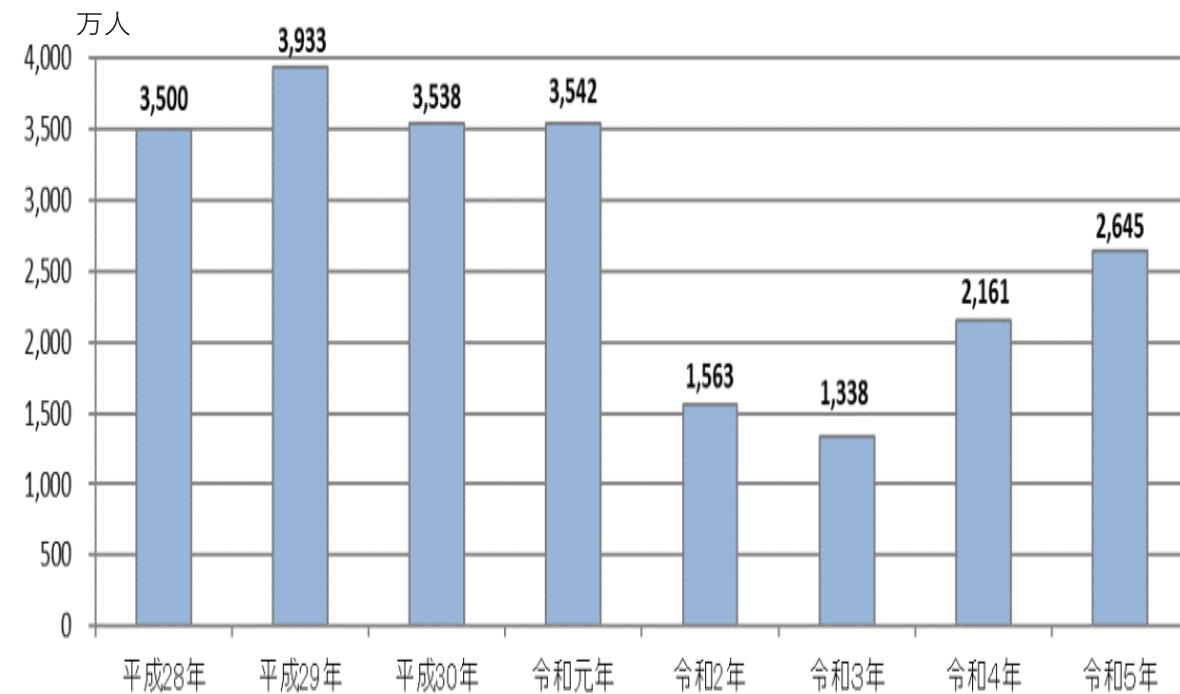
3. 経済社会情勢（③観光の動向）

- 全国の国内旅行者数および訪日外客数は、コロナ禍で一時的に大きく減少したが、徐々に回復。
- 神戸市の観光入込客数は、コロナ禍以前の水準には達しないものの増加傾向にある。



出典：観光庁・日本政府観光局（JNTO）のデータより作成

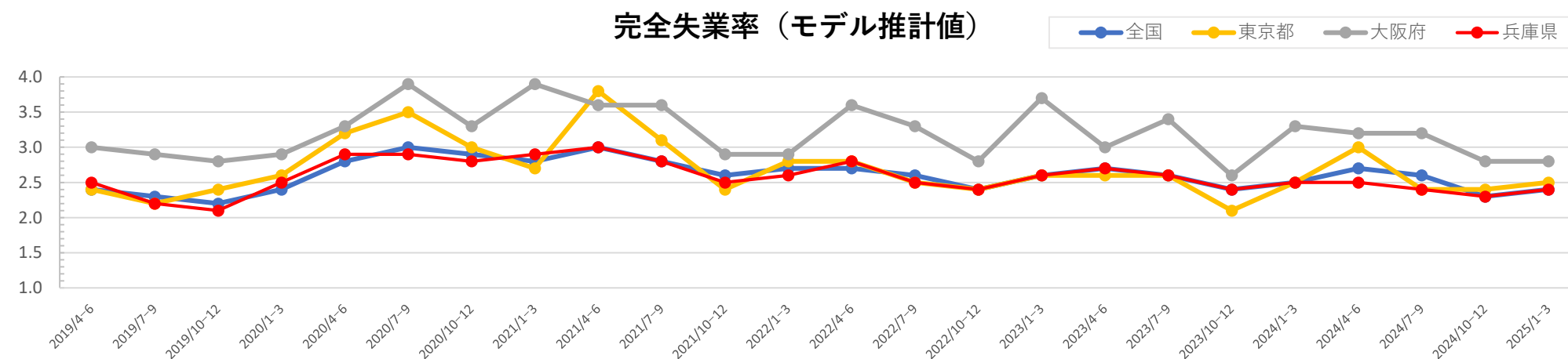
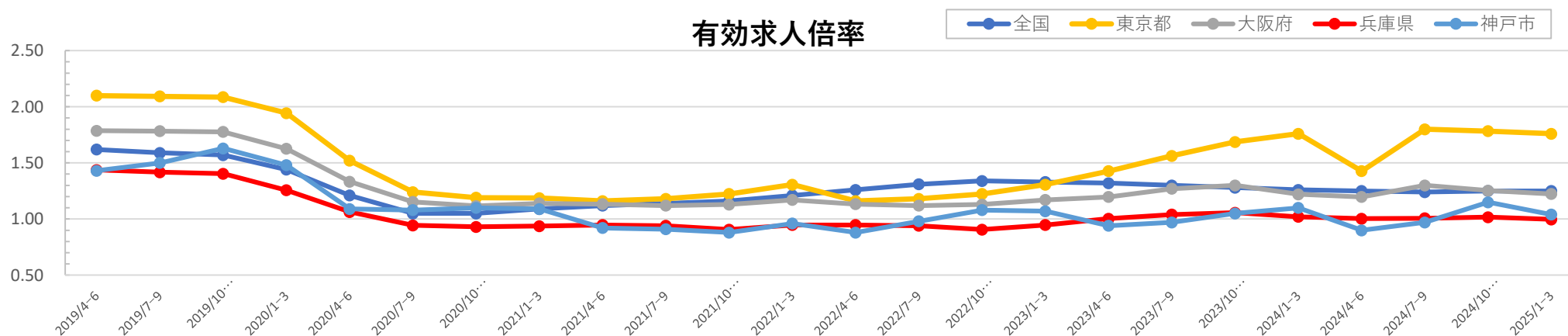
神戸市観光入込客数（日帰り客・宿泊客及び行祭事・イベントの合計）推移



出典：神戸市経済観光局

3. 経済社会情勢（④有効求人倍率、完全失業率）

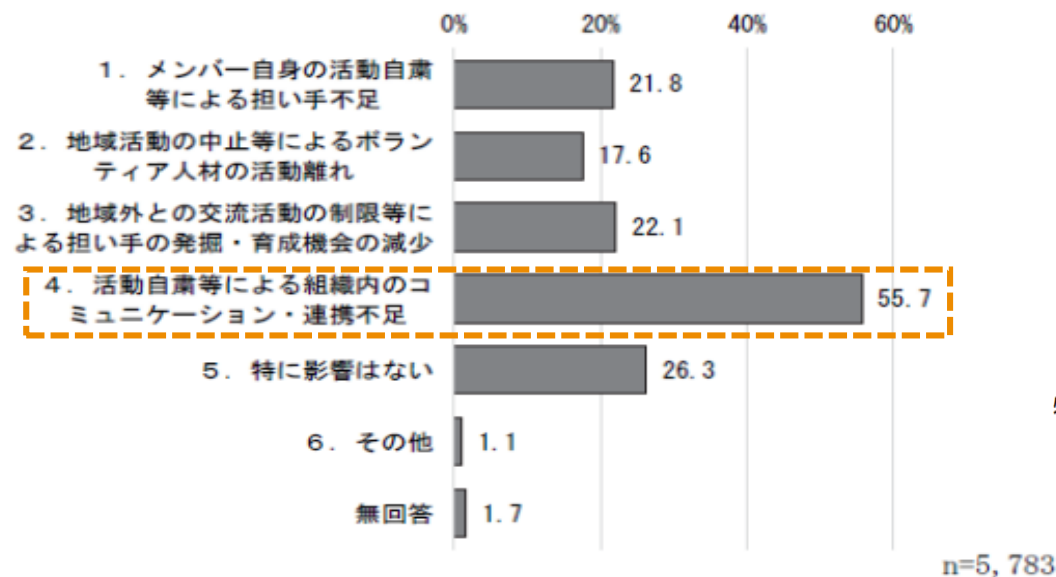
- 全国の有効求人倍率は、**コロナ禍で大幅に低下**したが、その後の経済活動の再開に伴い徐々に回復
- 神戸市の有効求人倍率も全国と同様の傾向に推移し、**近年では約1.0倍前後で推移**
- 完全失業率はコロナ禍で上昇したが、経済活動の再開に伴い徐々に改善し、近年は2.4～2.5％で推移



3. 経済社会情勢（⑤地域のつながり）

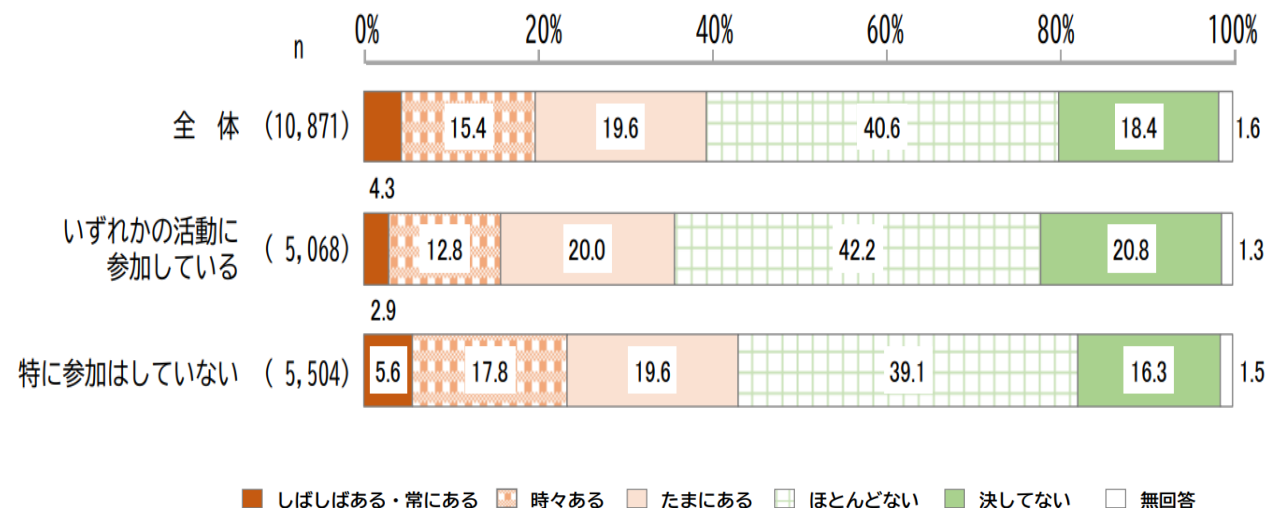
- 人口減少や少子高齢化に加えコロナ禍の影響により、地域住民の交流機会が減少し、**地域のつながりや世代間交流が希薄**となることで、**孤独を感じる人が増加**

地域コミュニティ活動における新型コロナウイルスの影響



出典：総務省 地域コミュニティに関する研究会
「地域コミュニティに関する研究会報告書」

社会活動への参加状況別孤独感



出典：内閣府「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」

主な取り組みと数値目標・KPIの総括検証

○検証期間

令和3年度～令和7年度（5か年）

○総括検証の方法

- ・ 令和3年度～令和6年度の数値目標・KPIの実績を踏まえ、「**最終見込値**」を推計し、「**最終目標値**」と比較して達成見込を評価

○評価基準

- ・ **達成** …令和6年度実績がすでに最終目標値を超えている場合
- ・ **A判定** …最終見込値が最終目標値の**8割以上**の場合
- ・ **B判定** …最終見込値が最終目標値の**5割以上**の場合
- ・ **C判定** …最終見込値が最終目標値の**5割未満**の場合

○最終実績

- ・ 令和7年度の最終実績は、決算作業を踏まえて更新を行い、次年度に市ホームページで公表予定

基本目標 1 魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長

計画期間における主な取り組み



- ✓ 中小企業の事業継承・競争力強化・海外展開（神戸市中小企業DXお助け隊事業 等）
- ✓ スタートアップ支援・イノベーション創出（会員制ビジネススクエア「アンカー神戸」の開設等）
- ✓ 持続的な農業と農村地域の活性化（神戸農産物の新たなブランド「BE KOBE農産物」の開始 等）
- ✓ 神戸医療産業都市の推進（先端技術を用いた医療機器の研究開発 等）
- ✓ 国際コンテナ戦略港湾の集貨・創貨・競争力強化（高規格コンテナターミナルの整備 等）
- ✓ 女性が活躍できる環境づくり（キッズスペースを併設したコワーキングスペースの開設 等）



(参考) 神戸空港の国際化 ～第2の開港～

大韓航空 (韓国)



神戸空港 第2ターミナル内



吉祥航空 (中国)



スターラックス航空 (台湾)



エバー航空 (台湾)



2025年4月18日から
国際チャーター便が就航

(参考) 神戸空港の国際化 ～第2の開港～

週40便 アジア 5 都市に就航

※2025年4月18日現在

ソウル (仁川) | 週 14 往復

南京 | 週 7 往復

上海 (浦東) | 週 7 往復

台北 (桃園) | 週 5 往復

台中 | 週 7 往復

[ベトナム | 4月30日、5月4日]



そして、2030年前後には、**国際定期便**の運用開始を目指す

基本目標 1 魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長

数値目標	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
雇用創出数（医療関連企業を含む） （企業誘致に伴うものに限定）	680人	791人 ※R3～6累計3,839人	順調	3,400人 ※R3～7累計	4,746人	達成
大学生アンケート「勤務希望地を『神戸市』」とした人の割合 （市内大学3、4回生、短大生を対象）	43.2%	39.5%	順調	45%以上	41.7%	A

達成見込が「達成」又は「A」の主なKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
専門家派遣によるITなどの導入件数 （中小企業のDXを支援）	20件	51件 ※R3～6累計112件	順調	100件 ※R3～7累計	201件	達成
域内スタートアップ設立数（域内…神戸市内）	16社	25社 ※R3～6累計122社	順調	80社 ※R3～7累計	153社	達成
再就職やキャリアアップを希望する女性への支援人数	600人	1,139人 ※R3～6累計3,318人	順調	3,000人 ※R3～7累計	4,792人	達成

基本目標 1 魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長

達成見込が「B」又は「C」の全てのKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
山上オフィス利用者数	—	—	—	1,800人 ※R3～5累計	938人	B
高度人材、介護など資格職人材の在留資格外国人数	28人	32人 ※R3～6累計39人	順調	100人 ※R3～7累計	71人	B
営農組織の広域化・法人化	1件	0件 ※R3～6累計1件	遅れ	5件 ※R3～7累計	1件	C

（取組状況の総括と今後の課題）

- 数値目標のうち「雇用創出数」は令和6年度末時点で最終目標を達成している。また、「市内就職希望率」についても達成見込はA判定となっており、目標達成に向けて順調に進展している。
- KPIについては、中小企業のDX支援やスタートアップ支援、キャリアアップを目指す女性への支援は、令和6年度末時点で最終目標を達成済みであるが、六甲山上オフィスの利用者数や資格職人材の在留外国人の集積に関する取り組みに遅れが見られる。また、営農組織の広域化・法人化についても、経営ノウハウや人材の不足などの影響に伴い、十分に進んでいない。
- 今後は、神戸空港の国際化の効果を最大限に活用し、神戸経済のグローバル化や、グローバル人材の育成・教育等にも取り組んでいく必要がある。

基本目標 2 妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実

計画期間における主な取り組み



- ✓ 妊娠・出産・子育て期の支援、子育て支援施策の情報発信
(こべっこウェルカム定期便の開始、高校生等通学定期補助、こども医療費の外来助成の対象拡大、こどもの居場所づくりの推進、こべっこランドのリニューアルオープン、こども本の森 神戸の開館、中学校給食全員喫食制の推進 等)
- ✓ 仕事と子育ての両立支援
(病児保育や学童保育の充実、利用定員拡大や施設整備実施等による待機児童ゼロの実現 等)
- ✓ 生きる力と夢を育む教育の推進
(GIGAスクール構想の実現、「KOBE◆KATSU (コベカツ)」の推進、まちなか自習室の設置 等)

こべっこウェルカム定期便



高校生通学定期券補助



こべっこランド



おやこふらっとひろば



基本目標 2 妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実

数値目標	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
在住者アンケート「子育て環境が良いまち」の評価 (20～39歳の市内在住者を対象)	69.0%	51.4%	やや遅れ	70%以上	51.5%	B
在住者アンケート「教育環境が良いまち」の評価 (20～39歳の市内在住者を対象)	69.0%	50.9%	やや遅れ	70%以上	49.8%	B

達成見込が「達成」又は「A」の主なKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
地域子育て支援拠点事業	141箇所	155箇所	順調	141箇所	155箇所	達成
病児保育事業（利用定員数(延べ)）	25,680人	37,872人	順調	25,680人	39,860人	達成
学童保育（利用者数）	17,760人	19,206人	順調	17,760人	20,418人	達成
待機児童対策（利用定員）	30,629人	30,359人	順調	30,629人	30,466人	A
「自分にはよいところがあると思う」児童生徒（小6・中3）の割合（全国学力、学習状況調査より）	全国平均以上	【小6】全国平均：84.1% 神戸市：82.3% 【中3】全国平均：83.3% 神戸市：82.7%	順調	全国平均以上	【小6】84.5% 【中1】85.1%	A

基本目標 2 妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実

達成見込が「B」又は「C」の全てのKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
ファミリー・サポート・センター事業 利用者数（週あたり延べ）	519人	207人	遅れ	519人	202人	C

（取組状況の総括と今後の課題）

- 数値目標に掲げる「子育て環境・教育環境のアンケート評価」の達成見込はB判定となっている。
- 一方で、KPIではファミリーサポートセンターの利用者数については最終目標に対して遅れがみられるものの、その他の「地域子育て支援拠点事業」や「待機児童対策」等、多くのKPIが令和6年度末時点で最終目標を達成又はA判定と、順調に進展している。加えて、KPIに掲げていない高校生等通学定期券補助やこべっこウェルカム定期便等の新規・拡充事業にも取り組んでおり、子育てがしやすい街に向けた取り組みは大きく進んでいる。
- 上記を踏まえると、個別の取り組みが十分に認知されていないことが考えられるため、今後、情報発信を強化していく必要がある。また、アンケート調査は、集計時の状況によって回答に偏りが生じるなど課題があるため、今後、アンケート結果をKPIや目標値として設定することは慎重に考える必要がある。

基本目標 3 多様な文化・芸術・魅力づくり

計画期間における主な取り組み



- ✓ 神戸市文化芸術推進ビジョンの取り組み（KOBEmachinakaパフォーマンス 等）
- ✓ 文化財の新たな保存と活用の推進（歴史的建築物等の保存・活用に対する所有者等への支援拡充 等）
- ✓ スポーツの振興（世界パラ陸上競技選手権大会の開催、公園におけるバスケットゴール増設計画の推進 等）
- ✓ 本を親しめる環境づくり（西図書館リニューアルオープン、神戸「本」の文化振興プロジェクト 等）
- ✓ 六甲山・摩耶山での観光と豊かな自然を活かしたアートシーンの推進（神戸登山プロジェクト 等）
- ✓ 須磨海岸・海浜公園の魅力向上（須磨海浜公園再整備、須磨海釣り公園リニューアルオープン 等）
- ✓ 地下鉄海岸線沿線・市街地西部の活性化（兵庫津ミュージアム周辺プロムナード整備 等）

KOBEmachinakaパフォーマンス



世界パラ陸上競技選手権大会



バスケットゴール増設プラン



神戸登山プロジェクト



基本目標 3 多様な文化・芸術・魅力づくり

数値目標	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
観光消費額	3,400億円 (3,300億円) ※括弧内はR5年度の目標値	(参考) R5年度実績 3,340億円 ※R6年度実績は8月末頃確定予定	—	3,700億円	3,649億円	A
在住者アンケート 「楽しむ場所として魅力的である」の評価	79.7%	72.1%	順調	80%以上	68.9%	A

達成見込が「達成」又は「A」の主なKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
日本人延べ宿泊者数 外国人延べ宿泊者数	560万人 74万人 ※コロナ前と同水準数値	609万人 96万人 ※速報値のため変更の可能性あり	順調	590万人 100万人	651万人 159万人	達成 A
神戸の文化的な環境に対する満足度	48.0%	46.4%	順調	50%以上	57.7%	A
国際級・全国級のスポーツイベントの開催件数	28件	35件 ※R3～6累計105件	順調	140件 ※R3～7累計	146件	A
観光客数 (六甲・摩耶エリア) (神戸港エリア)	230万人(230万人) 640万人(620万人) ※括弧内はR5年度目標値	(参考) 189万人 494万人 ※R5年度実績	—	230万人 700万人	196万人 604万人	A A

基本目標 3 多様な文化・芸術・魅力づくり

達成見込が「B」又は「C」の全てのKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
未指定文化財の神戸歴史遺産新規認定件数	6件	4件 ※R3～6累計18件	やや遅れ	30件 ※R3～7累計	22件	B
新西図書館の入館者数	700,000人	554,173人	やや遅れ	700,000人	514,001人	B
神戸市への住み替え・移住相談件数	778件	549件 ※R3～6累計1,707人	やや遅れ	3,000件 ※R3～7累計	2,363件	B
観光客数（須磨・舞子エリア）	405万人(295万人) ※括弧内はR5年度目標値	(参考) 217万人 ※R5年度実績	—	450万人	240万人	B
兵庫運河ライトアップ整備箇所（プロムナード）	480m	0 m ※R3～6累計380m	遅れ	約1,000m ※R3～7累計	733m	B
兵庫運河プロムナード整備延長	480m	0 m ※R3～6累計380m	遅れ	約1,000m ※R3～7累計	733m	B
コウベ・インター・ナショナル・クラブ支部設置数	45支部	22支部	遅れ	50支部	21支部	C
コウベ・インター・ナショナル・クラブ会員数	2,600人	648人	遅れ	3,000人	578人	C
国際会議開催件数	420件	—	—	420件	93件	C
兵庫運河ライトアップ整備箇所（橋）	1 橋	1 橋 ※R3～6累計1橋	順調	6橋 ※R3～7累計	2橋	C

基本目標 3 多様な文化・芸術・魅力づくり

（取組状況の総括と今後の課題）

- 数値目標の「観光消費額」および「楽しむ場所としての魅力に関する評価」の達成見込みはいずれも A 判定となっており、目標達成に向けて順調に進展している。
- KPIのうち、コウベ・インターナショナルクラブ設置や国際会議等はコロナの影響もあり最終目標に対して遅れがみられる。また、兵庫運河のプロムナード整備についても一部遅れが見られる。
- 一方で、KOBEMACHINAKAパフォーマンスなど市民が日常的に芸術・文化、スポーツに触れられる環境づくりにより、神戸の文化的な環境に対する満足度は順調に進展し、コロナで影響を受けた観光においても、市内宿泊者数は令和6年度末時点でコロナ前の水準まで回復している。
- 今後も、引き続き市民が文化・芸術・スポーツに触れられるまちづくりを進めながら、神戸空港の国際化に伴うインバウンド需要の高まりを踏まえた受入環境整備や関連施策の充実を図ることで、外国人宿泊者数や観光客数の増加につなげていく必要がある。

基本目標 4 災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築

計画期間における主な取り組み



- ✓ 感染症の発生拡大に備えた保健所の体制強化や感染症予防対策の強化（神戸市独自の大規模接種会場の設置、ワクチン接種申込お助け隊の配置、家賃負担軽減緊急一時金 等）
- ✓ 防災・減災の取り組み、災害に強いみなとづくり（LINEを活用した道路・公園の破損・故障の通報や神戸市災害掲示板、タブレットによる防潮鉄扉の遠隔操作 等）
- ✓ デジタルリテラシーの向上（高齢者のスマホ相談窓口 等）
- ✓ 行政手続きのスマート化（e-KOBE（神戸市スマート申請システム）の運用 等）

大規模接種会場



LINEでの不具合通報



防潮鉄扉



スマホ相談窓口



基本目標 4 災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築

数値目標	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
行政手続きスマート化率	65.0%	68.7%	順調	70% (件数ベース)	78.9%	A

達成見込が「達成」又は「A」の主なKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
鉄扉の遠隔操作化	10基	17基 ※R3～6累計78基	順調	78基 ※R3～6累計	78基	達成
区保健師などの巡回施設箇所数（新規施設）	全新規施設 (42箇所)	42箇所	順調	全新規施設	全新規施設	達成
区保健師などの巡回施設箇所数（既存施設）	1,000箇所	1,127箇所	順調	1,000箇所/年間	1,232箇所	達成
インターネットを使用する高齢者の割合	86.5%	91.7%	順調	90.0%	92.0%	達成

基本目標 4 災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築

達成見込が「B」又は「C」の全てのKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
家庭内備蓄の実施率	90%以上	—	—	90%以上	69.6%	B
感震ブレーカーの設置率	50%以上	—	—	50%以上	29.3%	B
家具固定の実施率	90%以上	—	—	90%以上	64.3%	B

（取組状況の総括と今後の課題）

- 数値目標に掲げる「行政手続きのスマート化率」の達成見込はA判定となっており、目標達成に向けて順調に進展している。
- KPIについては、防潮鉄扉の遠隔操作化や区保健師などの巡回施設数など、複数の項目において令和6年度末時点で最終目標値を達成しており、災害に強い社会基盤の構築や市民の安心・安全な生活環境の確保に向けた取り組みは順調に進展している。一方で、家庭内備蓄や家具固定の実施率など市民主体の災害への備えについての達成見込はB判定となっている。
- 今後、南海トラフ地震をはじめ様々な危機を想定し、新たなテクノロジーや先進技術を積極的に取り入れながらDXの活用を進めるとともに、より市民の防災意識を高める取り組みの強化が必要である。

基本目標 5 安心・健康でゆとりあるくらしの実現

計画期間における主な取り組み



- ✓ 認知症神戸モデルの推進・高齢者への支援（認知症診断助成制度、認知症事故救済制度の継続実施、コウベ de カイゴ、シニアキャリア相談・就労支援 等）
- ✓ 障がい者への支援（発達相談支援体制の充実、医療的ケア児の受入れ拡大 等）
- ✓ 生活困窮者の支援・地域福祉のプラットフォームの推進（物価高騰に対する経済支援、こども・若者ケアラー相談・支援窓口運営と交流・情報交換の場づくりやこどもケアラーへの訪問支援 等）

認知症診断助成制度 やさしいまち「神戸モデル」

認知症診断

無料

無料で受けられる4つの安心

- 1 賠償責任保険
最高2億円の賠償責任保険への加入
- 2 コールセンター
24時間
365日対応
- 3 GPS
かけつけサービス
- 4 見舞金
最高3,000万円

認知症と診断された場合

シニアキャリア相談・就労支援



発達相談支援

こどもっと
KOBE

発達が気になる子ども
障害のある子ども
医療的ケアが必要な子どもの

支援ハンドブック

KOBE

こども・若者ケアラー 相談・支援窓口

誰かを支えて
頑張るあなたを
支えたい。

We are here
to make you smile.

家族のケアやお世話をしている「ヤングケアラー」は、20人に1人と推定されています。
家族のこと、自分のことで悩んだら、気軽に相談しましょう。

こども・若者ケアラー相談・支援窓口

〒450-0811 神戸市中央区南長崎通一丁目1番1号
神戸市立中央図書館（南長崎通一丁目1番1号）
電話 078-343-1740
メール carer_shien@office.city.kobe.jp

KOBE

基本目標 5 安心・健康でゆとりあるくらしの実現

数値目標	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
65歳以上の要支援・要介護認定率	23.0%以下	22.1%	順調	23.6%以下	22.5%	達成
がん検診の受診率 ※国民生活基礎調査において、3年に1度調査、直近はR 4 実施	— 参考：46.2%(R4)	— 参考：43.7%(R4)	—	50.0%	—	—

達成見込が「達成」又は「A」の主なKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
認知症高齢者など声かけ訓練	26センター (3か年で全76センター)	38センター (3か年で全76センター)	順調	全あんしんすこやか センター (3か年で全76センター)	全あんしんすこやか センター (3か年で全76センター)	達成
神戸医療産業都市内の企業やアカデミアなどにより、健康・医療関連データを活用し、実施された共同研究や実証試験の件数	4件	10件 ※R3～6累計36件	順調	20件 ※R3～7 累計	47件	達成
認知症サポーター養成数	147,388人	146,161人	順調	150,000人	152,835人	A

基本目標 5 安心・健康でゆとりあるくらしの実現

達成見込が「B」又は「C」の全てのKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
障がいのある方を支援する計画相談支援専門員の人数	30人増	15人増 ※R3～6累計50人増	やや遅れ	120人増 ※R3～7累計	63人増	B

（取組状況の総括と今後の課題）

- 数値目標のうち「65歳以上の要支援・要介護認定率」は令和6年度末時点で最終目標を達成している。がん検診の受診率についても、直近（R4）の調査結果によれば順調に進展している。
- KPIについては、認知症高齢者など声かけ訓練や認知症サポーター養成等の取り組みなどが順調に進展している一方、障害のある方を支援する計画相談支援専門員数の確保について一部遅れが見られる。
- 今後、さらなる少子高齢化の進展や生産年齢人口のさらなる減少を見据え、シニア世代が健康でいきいきと暮らすことができるよう、高齢者就労支援やフレイル予防等の健康づくり等の取り組みを進めていく必要がある。また、だれもが安心して、健康でゆとりのあるくらしを実現するため、孤独・孤立対策や、医療的ケア児及び家族への支援等の障害者支援施策の充実、医療・介護分野の人手不足への対応等が求められる。

基本目標 6 将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ

計画期間における主な取り組み



- ✓ 空き家・空き地対策（建築家との協働による空き家活用促進、神戸市老朽空家等解体補助 等）
- ✓ 持続可能なまちづくりとエネルギー政策（こうべ木陰プロジェクト、こうべ再生リンプロジェクト、カーボンニュートラルポート（CNP）の形成 等）
- ✓ 持続的な農漁業振興のための環境づくり（神戸ネクストファーマー制度の創設、神戸地域おこし隊の増員、里山広葉樹の循環利用の促進 等）
- ✓ 都心・三宮再整備の推進と回遊性の向上・ウォーターフロントなどの魅力向上・駅前空間の魅力向上（東遊園地リニューアル、ジーライオンアリーナ神戸開業、駅前リノベーション 等）

建築家との協働による空き家活用促進



こうべ木陰プロジェクト



こうべ再生リンを使用した肥料の利用促進



ネクストファーマー制度



(参考) 都心・三宮再整備の推進と回遊性の向上

神戸三宮阪急ビル (仮称)JR三ノ宮新駅ビル
2021年4月開業 2029年度完成予定



サンキタ通り
2021年4月リニューアル



三宮クロススクエア
(第1段階)
2029年度完成予定



雲井通5丁目地区
(新バスターミナル1期)
2027年12月完成予定



東遊園地
2023年4月リニューアル



フラワーロード(税関線)
2025年度以降順次工事



中央区役所・
中央区文化センター
2022年7月オープン



市役所本庁舎2号館
2029年度完成予定



※パースはイメージであり、今後の設計及び関係機関との協議により変更となる場合があります

(参考) ウォーターフロントなどの魅力向上



神戸ポートタワー
2024年4月26日リニューアルオープン



GLION ARENA KOBE
2025年4月4日 オープン



(参考) 駅前空間の魅力向上

西神中央駅



鈴蘭台駅



大池駅



名谷駅



垂水駅



花山駅



神戸駅



基本目標 6 将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ

数値目標	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
在住者アンケート 「交通や生活利便施設などの利便性が高い」の評価	84.8%	85.3%	順調	85%以上	85.7%	達成
(参考) 二酸化炭素排出量：実質ゼロ（2050年までに） ※算定に国の統計資料等を使用することから最新数値はR4実績値	—	— ▲30.6%（R4） ※実績値は翌々年の10月頃 公表予定	—	— 2030年度までに 2013年度比で二酸化炭素 排出量を約60%削減	—	—

達成見込が「達成」又は「A」の主なKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
新たなモビリティを活用した事例数	2 事例	1 事例 ※R3～6累計19事例	順調	10事例 ※R3～7累計	20事例	達成
リノベーションする拠点公園数	2 公園	2 公園 ※R3～6累計11公園	順調	10公園 ※R3～7累計	13公園	達成
老朽空家等解体支援などによる改善件数	1,000件	1,093件 ※R3～6累計4,554件	順調	5,000件 ※R3～7累計	5,620件	A
公共交通分担率	34.73%	34.0%	順調	35.0%	34.0%	A

基本目標 6 将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ

達成見込が「B」又は「C」の全てのKPI	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
多様な移動手段の導入地区数	4 地区	1 地区 ※R3～6累計13地区	遅れ	20地区 ※R3～7累計	14地区	B
三宮周辺地区の建替えの計画件数	0件	0件 ※累計5件	—	7 件 ※累計	5 件	B
駅前空間クオリティアップの整備完了数	5 駅	1 駅 ※R3～6累計6駅	遅れ	12駅 ※R3～7累計	6 駅	B

（取組状況の総括と今後の課題）

- 数値目標に掲げる「交通や生活利便施設などの利便性に関する評価」は令和 6 年度末時点で最終目標を達成している。
- KPIについては、老朽空家等解体支援による空き家・空き地対策は順調に進展するとともに、公共交通分担率や新たなモビリティを活用した事例など、快適で持続可能な交通環境の整備に向けた取り組みも順調に進展している。一方、多様な移動手段の導入地区件数や三宮周辺地区の建替え計画件数についてはやや遅れがみられる。また、建設コストの高騰や建設関係の人材不足等が影響し、駅前空間クオリティアップの整備についてもやや遅れがみられる。
- 今後、さらなる人口減少に伴い、ニュータウンのオールドタウン化や、空き家・空き地の増加等による都市のスポンジ化が進行することが予測される。将来にわたって都市の持続可能性を確保するため、都心の魅力向上をはじめ、既存ストックの有効活用や駅周辺リノベーション等により、既成市街地・ニュータウンの再生等に取り組む必要がある。

基本目標 7 多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化

計画期間における主な取り組み



- ✓ 地域活動の活性化（地域協働局の新設、地域貢献相談窓口の開設、ボランティアマッチングサイト「ぼらくる」の設置、エコノバ（資源回収ステーション）の拡大、地域福祉センターの利活用促進 等）
- ✓ 在住外国人との共生の推進（「多文化交流員」制度の実施 等）
- ✓ 大学などとの連携促進（「大学都市神戸産官学プラットフォーム」の設立 等）

地域貢献相談窓口



大学都市神戸産官学プラットフォーム (KOBE Co CREATION CENTER)

神戸でつながり、神戸を創る。

大学都市神戸産官学プラットフォームについて

大学都市神戸産官学プラットフォームのポータルサイトです。
神戸の大学や企業が行政と共に共創できる街を目指します。

詳しく見る



基本目標 7 多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化

数値目標	R6目標	R6実績	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
市内留学生数(大学・短大)	4,750人	4,613人	順調	5,000人	4,804人	A
民間事業者と連携して実施したプロジェクト数	140件	187件 ※R3～6累計680件	順調	700件 ※R3～7累計	869件	A

達成見込が「達成」又は「A」の主なKPI	R6目標	R6実績	進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
地域連携プラットフォーム構築の検討	—	—	—	構築完了	構築完了	達成
多文化共生推進拠点の増設	3か所	4 か所	順調	3 か所	4 か所	達成
外国人向けの広報物の多言語(英中越・やさしい日本語)対応率	80%	79%	順調	100%	80%	A
外国人向け双方向型情報共有ネットワークの提携拠点設置数	83拠点	79拠点	順調	100拠点(全区)	90拠点	A

基本目標 7 多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化

達成見込が「B」又は「C」の全てのKPI	R6目標	R6実績	進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
地域福祉センターの子育て世代の利用割合（ネットモニターアンケート） ※R3以降は利用者満足度調査で代替	— 〔17%以上〕	— 〔12.5%〕	— 〔やや遅れ〕	40% 〔20%以上〕	— 〔13.3%〕	— 〔B〕
多様な主体が参画する居場所の全区展開	8区	6区	やや遅れ	9区	7区	B
地域日本語教室における学習者数	1,800人	1,344人	やや遅れ	2,000人	1,471人	B
多文化交流員などの年間派遣件数	90件	70件	やや遅れ	100件	65	B
企業などへの日本語教師の紹介件数	15件	3件	遅れ	20件	4件	C

（取組状況の総括と今後の課題）

- 数値目標の「市内留学生数」及び「民間事業者と連携して実施したプロジェクト数」の達成見込みはいずれもA判定となっており、順調に進展している。
- KPIについては、大学都市神戸産官学プラットフォームの構築や外国人向け双方型情報共有ネットワークの提携拠点設置などの地域課題の解決に向けた連携強化や多文化共生のまちづくりに向けた取り組みが順調に進展した一方で、人口減少や新型コロナの影響により、全国的に地域のつながりが希薄化したことから、地域福祉センターの子育て世代の利用割合や地域日本語教室における学習者数等、複数の項目で遅れがみられる。
- 今後、人口減少が加速していく中、多様な主体が地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して暮らせるまちを目指し、地域貢献活動の伴走支援や、外国人との地域での共生に向けて日本語教育などの取り組みをさらに進める必要がある。

基本目標別 数値目標・KPIの進捗状況

計画期間における達成見込

基本目標	数値目標		KPI			
	指標名	達成見込	達成	A	B	C
1	雇用創出数（医療関連企業を含む）	達成	13	7	2	1
	大学生アンケート「勤務希望地を「神戸市」とした人の割合	A				
2	在住者アンケート「子育て環境が良いまち」の評価	B	7	9	0	1
	在住者アンケート「教育環境が良いまち」の評価	B				
3	観光消費額	A	3	10	6	4
	在住者アンケート「楽しむ場所として魅力的である」の評価	A				
4	行政手続きスマート化率	A	6	4	3	0
5	65歳以上の要支援・要介護認定率	達成	3	4	1	0
6	在住者アンケート「交通や生活利便施設などの利便性が高い」の評価	達成	3	3	3	0
7	市内留学生数(大学・短大)	A	2	4	4	1
	民間事業者と連携して実施したプロジェクト数	A				
合計	—		37	41	19	7

※再掲除く
※推計等できないものを除く

「神戸2025ビジョン」の総括まとめ

各基本目標に掲げる全11項目の数値目標のうち、雇用創出（基本目標1）、健康増進・健康長寿社会の実現（基本目標5）、持続可能な交通環境の整備（基本目標6）に関する3つの数値目標は「達成」となった。また、子育て環境・教育環境の評価（基本目標2）を除くその他の6項目の数値目標についても「A判定」となった。

また、個別のKPIについても、人口減少の加速や新型コロナウイルスの影響等により、国際会議の実施（基本目標3）や地域のつながりの確保（基本目標7）等の一部のKPIで遅れが生じたものの、すべてのKPI104項目のうち78項目が、「達成」又は「A判定」となり、これらを踏まえると、「神戸2025ビジョン」に掲げる目標や各施策の取り組みは、全体として概ね順調に進展したと評価できる。

なお、基本目標2では、数値目標の達成見込がB判定である一方、KPIの達成見込はすでに達成又はA判定となっており、数値目標とKPIに相関がみられない結果となった。そのため、アンケート結果をKPIや目標値として設定することは慎重に考える必要がある。

今後も、神戸を取り巻く社会情勢の変化に対応しながら、神戸が目指す持続可能で魅力ある都市の実現に向けて、着実な歩みを進めていくためには、5か年計画に基づきPDCAサイクルを着実に実践し、施策の実効性を高めていくことが重要である。

神戸2025ビジョン総括報告書議事録

日 時：令和 7 年 7 月 30 日（水） 15:00～17:00

場 所：神戸市役所 1 号館14階 大会議室

<出席者>

氏 名	役 職
（会長）品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
石川 路子	甲南大学 経済学部経済学科 教授
稲垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
小野 セレスタ 摩耶	同志社大学 社会学部社会福祉学科 准教授
佐合 純	iC株式会社 代表取締役
中野 みゆき	特定非営利活動法人Oneself 理事長
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長
長谷川 孝之	連合神戸地域協議会 議長
服部 孝司	公益財団法人 神戸市民文化振興財団 理事長
村川 勝	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事

1. 開会

2. 議事

神戸 2025 ビジョン総括検証

<事務局>

－資料 2 に基づき説明－

<委員>

- ・神戸市の方針が、東京への人口流出対策や出生率の向上といった観点から、人口減少を受け入れたうえで施策を検討するという方向にシフトしていることが市民に伝わっていない。

<事務局>

- ・人口減少を受け入れながらの視点は重要。次期「基本計画」策定に向けたワークショップの中でも人口減少を受け止めて施策を展開していくということを説明しており、今後も周知を行っていきたい。

<委員>

- ・基本目標 2 で、数値目標の子育て・教育環境へのアンケート評価が B 評価となっている点について、アンケート結果を KPI や目標値として設定することは慎重に考える必要があると説明があった。しかし、施策で良いことをやっていたとしても市民に伝わっていなければ意味がないので、調査の仕方によって結果がぶれる可能性はあるが、市民がどう感じているかはしっかりと聞くべき。取り組みが悪いのではなく、広報が足りないという課題感はつかむことができるので、アンケート調査を目標に使わないという議論よりもなぜ伸びなかったのかを分析するツールとして使うのが良い。数字が良かったから良いではなく、数字は数字として受け止めて、要因を分析し、深掘りする必要がある。
- ・基本目標 2 のアンケート調査は、対象が子育て世代ではない方も含まれているため、まず対象を明確にすることが課題。KPI を定めた当初のやり方を 5 年間続けてきたのだと思うが、計画期間中でも適宜見直してもよいと思う。
- ・今の子育て世代を対象としたいのか、他の世代も含めて全体の変化を見たいのか等、整理してターゲットを定めることが重要である。アンケートは主観的ではあるが、いろいろな価値観を持った人の意見が見えるため大事。実施する際にはターゲットの定め方ややり方を工夫する必要がある。
- ・アンケートを KPI・数値目標として使うこと自体はいい。
- ・アンケートの数値が独り歩きすると怖いのが、市民がどう感じているかを把握するには必要なツールであり、主観でないと図れないものもある。しかし、代表値として使うかどうかは慎重に考えなければならない。

- ・人口減少と国際化により、神戸の経済は大きく変化していくと思われる。社会が非常に速いスピードで変化しており、次の5年間ですら予測が難しい。次の計画では、こうした変化への対応をしっかりと考える必要がある。
- ・全体としては非常にわかりやすいKPIの設定で進捗も良いと感じている。この5年間ではコロナなど先を憂う話は多かったが、それを乗り越えて前進できたことは非常に良かった。「突き抜けて達成したもの」と「ぎりぎりで達成したもの」の違いが見えにくいので、達成度合いの濃淡が分かるようになれば、市がどう取り組みを進めてきたのかのメッセージ性がより伝わるのではないか。
- ・神戸2025ビジョンではKPIの粒度に差があったため、次の計画では上位計画との連動をしっかりと図りながら、KPIの立て方をしっかりと考えていかなければならない。
- ・基本目標2では、数値目標がB評価となっていたが、身の回りの体感として明石市の子育ての政策の話がよく出てくる。神戸市の方針が伝わっていないことがこの評価に影響しているのではないかと思うので、しっかりとPRをしていく必要がある。

<事務局>

- ・明石市との比較はよく出るが、取り組み自体は見劣りしておらず、昨年、共働き子育てしやすい街ランキングで1位の評価もいただいたところ。取り組みが市民に周知されるように広報をどう頑張っていくのかが課題と捉えている。

<委員>

- ・基本目標3の「コウベ・インター・ナショナル・クラブ」について、KPIとして数を増やす理由や、その増加が神戸市の目指す目標とどう結びつくのかが分からない。また、国際都市として活用できる場面は多いはずだが、周囲ではあまり聞かないため、具体的な取り組み状況を知りたい。
- ・基本目標1の「営農組織の広域化・法人化」について、持続可能な農業や就農数増加、連携・協業など、どの目標と紐づいているのか分かりづらい。また、農家が組織拡大を望んでいるのかも不明なので、神戸市としての意図を知りたい。

<事務局>

- ・コウベ・インター・ナショナル・クラブは、神戸に留学した経験を持つ人が、帰国後に母国から神戸の魅力を発信するコミュニティである。神戸市は海外発信の重要性から、応援者や拠点国数の増加を目指して取り組んできたが、帰国した留学生の後継者づくりが難しく、現在は22拠点にとどまっている。また、最近個人がSNSなどを通じて発信する傾向が強まり、人数把握が難しい状況にある。それでも、この取り組みは神戸の魅力発信という基本目標3にも合致していることから、拠点・会員の増加は今後も進めていきたい。
- ・「営農組織の広域化・法人化」については、現在、全国的に農業の担い手不足が

課題となっている。国は農地中間管理事業推進法に基づき、今後の農地利用や後継者の計画作成を求めており、営農組織の広域化・法人化を目標としたが、地域の組合では実現が難しい状況にある。市としては、広域化・法人化を進める組織に対し、農機具補助や融資などのインセンティブで支援しており、一次産業維持のため今後も推進していきたい。

<委員>

- ・神戸市は竹チップ機械の無料貸し出しなど、他地域から羨ましがられる施策があるにも関わらずKPIの結果がC評価だと非常にもったいない。子育ての分野と同様、数字だけで悪い印象を持つ人もいるため、「広域化・法人化」のような最終目標だけではなく、相談件数など途中段階の取り組み状況が分かる指標も必要。
- ・数値目標の設定は、遠すぎても近すぎても良くないし、必要なら途中で変更もできるが、何でも変えてしまうと報告書の体をなさないため、最初にしっかり考える必要がある。
- ・指標設定時の意図が5年後にも分かる形で残すことが重要。
- ・基本目標1の「高度人材、介護など資格職人材の在留資格外国人数」は、神戸国際高度人材サポートセンターを通して雇用された人数なのか、一般的な在留資格を持つ外国人全体の数なのか。感覚的としては卒業後に介護分野で働く留学生はもう少し多いように感じる。

<事務局>

- ・大学都市神戸産官学プラットフォームで実施している神戸外国人高度専門人材育成プロジェクトという取り組みを介した介護人材の人数を対象としている。

<委員>

- ・基本目標3について、KPIにB評価やC評価の事業が多いが、大切なのは達成できなかった理由を分析して目標に近づけていくこと。次の計画では、達成できなかった理由や改善策についてのコメントがあると、前向きに取り組む姿勢が確認できるので、その記載をお願いしたい。
- ・基本目標1について、スタートアップの設立数は結果を見るといい数値だが、経済成長の観点から考えると、役割を終えたように感じている。設立数だけではなく支援や立ち上がりのある地域だという次のステージを目標にしていけたらいいと思う。
- ・神戸の経済成長を何の指標を持って評価するのかについてはしっかり考えるべき。市内就職希望者数、DXお助け隊などKPIとしての設定が適切か不明な指標もあるため、最終的な経済成長につなげるには何が必要かそもそもの議論が必要。
- ・ストレッチ目標か現実的な目標かの整理が必要という指摘があったが、理論を組み立てて正確な指標をつける必要がある。

- ・リフレッシュステイの数など、一部の事業は、数字で図って意味があるのか疑問。数値で測るのが適切なものとそうでないものがあるため指標設定に工夫が必要。福祉分野では数値で評価できない課題が多く、また変化のスピードも速いためKPI自体が時代遅れになることもある。なぜ計画段階で指標に置いたのかを分かるようにしておくことが大事。
- ・基本目標5の数値目標「65歳以上の要支援・要介護認定率」のように、高める目標ではなく抑制すべき指標は、数値目標の数字が独り歩きして現場で不要な抑制バイアスがかからないようにしなければならない。元気な高齢者が増えるのと、要介護率が低いのはまた別軸の話なので、前向きな指標の置き方をすべき。次の計画では指標の置き方をしっかり検討してほしい。
- ・基本目標2の「生きる力と夢を育む教育の推進」では、コベカツの推進の記載があるが、最終目的が生徒と地域のつながりを深めて地域活性化につなげることだということが学校現場を含め市民にきちんと伝わっていない。地域の活性化という意味で基本目標7の項目に含めてPRしてもいいのでは。
- ・コベカツはみんなが自分の地域のことを考えるきっかけになる非常にいい材料なので、プラスに転じるようにぜひ周知をお願いしたい。
- ・社会情勢として孤立・孤独、地域のつながりが課題としてあるが、基本目標5と7でもそれぞれ孤独・孤立対策や地域コミュニティ活性化が挙げられている。今は別々に扱われているが、実際には密接に関連している。孤立・孤独は子どもから高齢者まで全世代共通の課題なので、指標も横断的に連携できる形が望ましいと考える。次の計画では、孤立・孤独対策と地域のつながりが一体的に見える仕組みにしてほしい。
- ・基本目標7では、「地域日本語教室の学習者数」と「企業への日本語教師の紹介件数」が掲げられているが、両者は性質が異なる。企業側は日本語力を伸ばすかどうかは個人の意欲の問題として捉えている側面がある一方、地域の語学学習場はボランティアが支えており、カリキュラムや習得レベルの管理には限界があるため線引きが必要。例えば企業に就労している外国人が地域の日本語教室に来る場合は、企業が有償で有資格者を派遣し、いつまでにどの程度のスキルがいるかというニーズを地域の日本語教室で拾ってカリキュラムを作るというやり方もある。今のKPIの設定の仕方は相反するものを一緒に求められているような違和感があるので見直す必要がある。
- ・関係者や企業、専門家の意見を聞き、両方を踏まえて指標を採用する必要がある。

3. 閉会

<事務局>

- ・本日議論やご指摘をいただき、数値目標やKPIについて十分議論し、且つそれが5年後の人間にも伝わる形で残すことが大事だと感じた。神戸2025ビジョンの総括にあたり、ご指摘をふまえ、設定した数値目標やKPIをどう市民に説明していくか

が求められていると認識している。

- ・ 同時進行で進めている次期計画には、本日いただいたご指摘を踏まえできる限り盛り込むような努力をしていきたい。

基本目標 1 魅力的な仕事の創出と産学連携による経済成長

数値目標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
—	雇用創出数（医療関連企業を含む）	680	人	791	3,839	順調	3,400	4,746	達成
—	大学生アンケート「勤務希望地を「神戸市」とした人の割合	43.2	%以上	39.5	—	順調	45	41.7	A

KPI指標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
テクノロジーを活用した企業の課題解決支援	専門家派遣によるITなどの導入件数	20	件	51	112	順調	100	201	達成
大学・企業と連携したスタートアップ創業支援及び起業家育成	域内スタートアップ設立数	16	社	25	122	順調	80	153	達成
大学・企業と連携したスタートアップ創業支援及び起業家育成	域内大学発ベンチャー設立数	4	社	5	30	順調	20	36	達成
大学・企業と連携したスタートアップ創業支援及び起業家育成	域内スタートアップVISA認定件数	3	件	—	4	—	15	—	—
スタートアップ育成・集積のための総合的支援	支援スタートアップ数	200	社	102	899	やや遅れ	1,000	967	A
スタートアップ育成・集積のための総合的支援	ベンチャーキャピタルやファンドの投資スタートアップ数	20	社	34	128	順調	100	166	達成
六甲山上スマートシティ構想の推進	山上オフィス企業会員数	—	社	—	203※R3～5	—	200	203	達成
六甲山上スマートシティ構想の推進	山上オフィス利用者数	—	人（延べ）	—	938※R3～5	—	1,800	938	B
里山・農村地域活性化ビジョンの推進	営農組織の広域化・法人化	1	件	0	1	遅れ	5	1	C
里山・農村地域活性化ビジョンの推進	省力化農業用機械の導入件数	10	件	12	32	順調	50	45	A
里山・農村地域活性化ビジョンの推進	農村移住件数	15	件	13	60	順調	75	72	A
里山・農村地域活性化ビジョンの推進	農村地域における起業数	25	件	43	153	順調	125	202	達成
食都神戸の推進	ローカルフードのアクセス機会への参加者数、ローカルフードへのアクセス機会（ファーマーズマーケット、食材フェア等）	450	回	470	—	順調	500	516	A
食都神戸の推進	ローカルフードのアクセス機会への参加者数	26	万人	26	—	順調	30	25.5	A
食都神戸の推進	世界へ向けた神戸の「食」または「食文化」の発信項目	19	種類/累計	35	—	順調	20	36	達成
食都神戸の推進	「農」に関する体験、活動を行っている市民の人数	90,000	人	100,000	—	順調	100,000	107,242	達成
食都神戸の推進	地域食材の利用を意識している市民・事業者の割合	70	%	69	—	順調	80	81	A
神戸未来医療構想の推進	神戸未来医療構想に参画する神戸大学や企業による研究開発により、国産手術支援ロボットに実装される新技術の件数	—	件	5	5	順調	5	5	達成
国際コンテナ戦略港湾の集貨・創貨・競争力強化	外航コンテナ航路	78	航路以上	79	—	順調	78	80	達成
国際コンテナ戦略港湾の集貨・創貨・競争力強化	内航フィーダー航路	90	便/週以上	88.5	—	順調	90	90	A
国際コンテナ戦略港湾の集貨・創貨・競争力強化	外航在来船航路（RORO船含む）	29	航路以上	31	—	順調	29	31	達成
高度外国人材の調査・発掘・開拓、介護など資格職人材の就労支援	高度人材、介護など資格職人材の在留資格外国人数	28	人	32	39	順調	100	71	B
再就職やキャリアアップを希望する女性への支援	再就職やキャリアアップを希望する女性への支援人数	600	人	1139	3,318	順調	3,000	4,792	達成
女性リーダー育成事業	女性リーダー育成プログラムの参加者数	50	人	194	373	順調	250	567	達成

神戸2025ビジョン 数値目標・KPI進捗状況一覧表

基本目標2 妊娠・出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実

数値目標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
—	在住者アンケート「子育て環境が良いまち」の評価	69.0	%以上	51.4	—	やや遅れ	70.0	51.5	B
—	在住者アンケート「教育環境が良いまち」の評価	69.0	%以上	50.9	—	やや遅れ	70.0	49.8	B

KPI指標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
幼稚園預かり保育事業	利用者数（延べ）	854,451	人	771,178	—	順調	854,451	765,317	A
一時保育事業	利用者数（延べ）	69,846	人	52,093	—	やや遅れ	69,846	57,130	A
子育てリフレッシュステイ事業	ショートステイ利用者数（延べ）	1,355	人	1,906	—	順調	1,355	2,133	達成
子育てリフレッシュステイ事業	デイサービス利用者数（延べ）	1,484	人	1,375	—	順調	1,484	1,367	A
地域子育て支援拠点事業	箇所数（地域子育て支援拠点）	141	箇所	155	—	順調	141	155	達成
ファミリー・サポート・センター事業	利用者数（週あたり延べ）	519	人/週	207	—	遅れ	519	202	C
待機児童対策	教育・保育施設などの利用定員	30,629	人	30,359	—	順調	30,629	30,466	A
保育士などの負担軽減	保育業務効率化システムの導入	—	—	市内希望全施設	—	順調	市内希望全施設	市内希望全施設	達成
病児保育事業	利用定員数（延べ）	25,680	人	37,872	—	順調	25,680	39,860	達成
学童保育	利用者数	17,760	人	19,206	—	順調	17,760	20,418	達成
育休中の市民の交流の場の提供	育休復帰のためのカウンセリング、セミナーの参加者数	140	人	400	829	順調	700	1,092	達成
GIGAスクール構想の実現とこれからの時代に求められる資質を育む教育の推進	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う」児童生徒（小6）の割合	全国平均以上	—	全国平均未滿 ・全国平均（小6：81.9%） ・神戸市（小6：77.1%）	—	順調	全国平均以上	全国平均未滿 ・全国平均（小6：83.2%） ・神戸市（小6：77.2%）	A
GIGAスクール構想の実現とこれからの時代に求められる資質を育む教育の推進	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う」児童生徒（中3）の割合	全国平均以上	—	全国平均未滿 ・全国平均（中3：80.3%） ・神戸市（中3：77.0%）	—	順調	全国平均以上	全国平均未滿 ・全国平均（中3：80.1%） ・神戸市（中3：76.5%）	A
児童生徒が生き生きと過ごせる安心・安全で楽しい学校の構築	「自分にはよいところがあると思う」児童生徒（小6）の割合	全国平均以上	—	全国平均未滿 ・全国平均（小6：84.1%） ・神戸市（小6：82.3%）	—	順調	全国平均以上	全国平均未滿 ・全国平均（小6：86.7%） ・神戸市（小6：84.5%）	A
児童生徒が生き生きと過ごせる安心・安全で楽しい学校の構築	「自分にはよいところがあると思う」児童生徒（中3）の割合	全国平均以上	—	全国平均未滿 ・全国平均（中3：83.3%） ・神戸市（中3：82.7%）	—	順調	全国平均以上	全国平均未滿 ・全国平均（中3：85.4%） ・神戸市（中3：85.1%）	A
子どもの創造的学びの推進	創造的な学びを取り入れた活動を行う小学校	20	校	21	—	順調	30	29	A
神戸市外国語大学における「世界と神戸を結ぶ」グローバル人材の育成	グローバル教育センターの設立	—	—	—	—	—	設立	設立	達成
神戸市外国語大学における「世界と神戸を結ぶ」グローバル人材の育成	グローバル教育センターの設立	①JUEMUN（日本大学英語模擬国連大会）、②模擬国連世界大会、③模擬国連NY大会への参加	—	①JUEMUN（日本大学英語模擬国連大会）、③模擬国連NY大会への参加	—	やや遅れ	日本英語模擬国連（JUEMUN）を主催	—	—
神戸市外国語大学における「世界と神戸を結ぶ」グローバル人材の育成	新たなプログラムの設置	—	—	—	—	—	—	—	—

神戸2025ビジョン 数値目標・KPI進捗状況一覧表

基本目標3 多様な文化・芸術・魅力づくり

数値目標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
—	観光消費額								
—	在住者アンケート「楽しむ場所として魅力的である」の評価	3,400	億円	8月末頃確定予定	—	—	3,700	3,649	A
—		79.7	%以上	72.1	—	順調	80.0	68.9	A

KPI指標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
神戸市文化芸術推進ビジョンの取り組み	ストリートピアノの設置台数								
神戸市文化芸術推進ビジョンの取り組み	現・神戸文化ホール利用率	30	台	34	—	順調	30	35	達成
神戸市文化芸術推進ビジョンの取り組み	現・神戸文化ホール利用率	80	%	72.5	—	順調	80.0	77.8	A
神戸市文化芸術推進ビジョンの取り組み	屋内・屋外を問わず、過去1年間で芸術文化を鑑賞した人の割合（絵画・音楽・演劇・映画・ダンスなど）※ネットモニターアンケート調査	75	%以上	75.2	—	順調	80.0	75.2	A
神戸市文化芸術推進ビジョンの取り組み	神戸の文化的な環境に対する満足度（文化施設の使いやすさ、情報の入手のし易さ、文化芸術に触れる機会など）※ネットモニターアンケート調査	48	%以上	46.4	—	順調	50.0	57.7	A
文化財の新たな保存と活用の推進	指定文化財などの新規指定など件数	2	件	3	8	順調	10	12	A
文化財の新たな保存と活用の推進	未指定文化財の神戸歴史遺産新規認定件数	6	件	4	18	やや遅れ	30	22	B
文化財の新たな保存と活用の推進	基金からの助成件数	3	件	7	32	順調	15	39	達成
スポーツの振興	国際級・全国級のスポーツイベントの開催件数	28	件	35	105	順調	140	146	A
新西図書館の整備	新西図書館の入館者数	700,000	人	554,173	—	やや遅れ	700,000	514,001	B
新垂水図書館の整備	新垂水図書館の入館者数	—	人	—	—	—	600,000	—	—
魅力発信及び相談対応による移住促進	神戸市への住み替え・移住相談件数	778	件	549	1,707	やや遅れ	3,000	2,363	B
コウベ・インターナショナル・クラブの普及と積極的な情報提供	コウベ・インター・ナショナル・クラブ支部設置数	45	支部	22	—	遅れ	50	21	C
コウベ・インターナショナル・クラブの普及と積極的な情報提供	コウベ・インター・ナショナル・クラブ会員数	2,600	人	648	—	遅れ	3,000	578	C
神戸観光の推進	日本人延べ宿泊者数	560	万人	609（速報値）	—	順調	590	651	達成
神戸観光の推進	外国人延べ宿泊者数	74	万人	96（速報値）	—	順調	100	159	A
MICEの推進	国際会議開催件数	420	件	390（433） ※JNTO基準の国際会議件数は現地参加が要件だが、参考として、オンライン参加も含めた国際会議件数を（）で併記 ※390件は申請ベース（正式には12月頃確定予定）	—	—	420	93	C
六甲山・摩耶山の活性化	観光客数（六甲・摩耶エリア）	230	万人	—	—	—	230	196	A
都心・三宮再整備の推進（文化施設の整備）	中央区の新たな文化施設の利用率	70	%	56.5	—	順調	70	64.2	A
新港突堤西地区・中突堤周辺地区の再開発及びウォーターフロント内の回遊性促進	観光客数（神戸港エリア）	640	万人	—	—	—	700	604	A
須磨海岸・海浜公園の魅力向上	観光客数（須磨・舞子エリア）	405	万人	—	—	—	450	240	B
兵庫運河の魅力づくり	ライトアップ整備箇所（橋）	1	橋	1	1	順調	6	2	C
兵庫運河の魅力づくり	ライトアップ整備箇所（護岸）	—	か所	—	—	—	1	1	A
兵庫運河の魅力づくり	兵庫運河ライトアップ整備箇所（プロムナード）	480	m	0	380	遅れ	約1,000	733	B
兵庫運河の魅力づくり	兵庫運河プロムナード整備延長	480	m	0	380	遅れ	約1,000	733	B

神戸2025ビジョン 数値目標・KPI進捗状況一覧表

基本目標 4 災害や感染症などを踏まえた安全な社会システムの構築

数値目標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
—	行政手続きスマート化率	65.0	%（件数ベース）	68.7	—	順調	70	78.9	A

KPI指標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
家庭の災害対応力の向上	家庭内備蓄の実施率	90	%以上	—	—	—	90	69.6	B
家庭の災害対応力の向上	感震ブレーカーの設置率	50	%以上	—	—	—	50	29.3	B
家庭の災害対応力の向上	家具固定の実施率	90	%以上	—	—	—	90	64.3	B
災害に強いみなとづくり	鉄扉の遠隔操作化	10	基	17	78	順調	78	78	達成
浸水対策重点地区におけるポンプ場・雨水管の整備	継続的な事業実施による床上・床下浸水を解消する地区	1	地区	1	2	順調	3	3	A
withコロナ時代における安定的な消防・救急体制の確立	申請・届出などの「スマート化」	62	% <small>（総処理件数のうち）</small>	95	—	順調	70	95	達成
withコロナ時代における安定的な消防・救急体制の確立	感染防止資器材の備蓄量	6	か月分	6	—	順調	6	6	達成
神戸モデルの推進	区保健師などの巡回施設箇所数（新規施設）	全ての新規施設	—	42	—	順調	全ての新規施設	全ての新規施設	達成
神戸モデルの推進	区保健師などの巡回施設箇所数（既存施設）	1,000	箇所／年間	1,127	—	順調	1,000	1,232	達成
図書館サービス自動化などによる利便性向上と非接触サービスの推進	自動貸出機の利用率	46.8	%以上 <small>（全貸出のうち）</small>	46	—	順調	50	50.5	A
図書館サービス自動化などによる利便性向上と非接触サービスの推進	キャッシュレス決済を導入する文化施設など	全施設	—	18	—	順調	全施設	全施設	A
デジタルリテラシーの向上	インターネットを使用する高齢者の割合	86.5	%	91.7	—	順調	90	92.0	達成

神戸2025ビジョン 数値目標・KPI進捗状況一覧表

基本目標5 安心・健康でゆとりあるくらしの実現

数値目標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
—	がん検診の受診率	—	%	—	—	—	50.0	—	—
—	65歳以上の要支援・要介護認定率	23（以下）	%	22.1	—	順調	23.6	22.5	達成

KPI指標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域の力を豊かにする	認知症高齢者など声かけ訓練（全あんしんすこやかセンターで実施）	26	センター	38	—	順調	76	全あんしんすこやかセンター	達成
認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域の力を豊かにする	認知症サポーター養成数	147,388	人	146,161	—	順調	150,000	152,835	A
地域包括ケアの推進（第8期神戸市介護保険事業計画より）	施設系サービス	15,004	床	13,984	—	遅れ	15,387	14,076	A
障がい者が住み慣れた地域の中でともに支え合い、安心して暮らし、活躍できる社会の実現	計画相談支援専門員の人数	30	人増	15	50	やや遅れ	120	63	B
障がい者が住み慣れた地域の中でともに支え合い、安心して暮らし、活躍できる社会の実現	グループホーム（定員数）	—	人	1,774	—	順調	1,800	1,973	A
生活困窮者支援	個別支援を実施したものの内、自立に向けた目標の達成などにより支援を終える割合	6.4	割	5	—	やや遅れ	7	6	A
神戸未来医療構想の推進	神戸未来医療構想に参画する神戸大学や企業による研究開発により、国産手術支援ロボットに実装される新技術の件数	—	件	5	5	順調	5	5	達成
予防医療・先制医療の推進	神戸医療産業都市内の企業やアカデミアなどにより、健康・医療関連データを活用し、実施された共同研究や実証試験の件数	4	件	10	36	順調	20	47	達成

神戸2025ビジョン 数値目標・KPI進捗状況一覧表

基本目標 6 将来にわたって持続可能な都市空間・インフラ

数値目標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
—	在住者アンケート「交通や生活利便施設などの利便性が高い」の評価	84.8	%以上	85.3	—	順調	85	85.7	達成
—	(参考) 二酸化炭素排出量	—	—	R8年度確定予定	—	—	実質ゼロ	—	—

KPI指標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
既存住宅の流通促進	全流通戸数に対する既存住宅の流通戸数の割合	—	%	—	—	—	30	—	—
管理不全空家空地の改善	老朽空家等解体支援などによる改善件数	1,000	件	1,093	4,554	順調	5,000	5,620	A
神戸市地域公共交通計画の推進	公共交通分担率	34.73	%	34	—	順調	35	34	A
路線バスの最適配置	市バスの乗車効率	公営企業平均を上回る数値	—	令和 8 年頃確定予定	—	—	公営企業平均を上回る数値	18.4	A
多様な移動手段の導入検討	多様な移動手段の導入地区数		地区	1	13	遅れ	20	14	B
新たなモビリティサービスの導入支援	新たなモビリティを活用した事例数	2	事例	1	19	順調	10	20	達成
大阪湾岸道路西伸部などの整備促進	神戸西バイパス整備後の第二神明道路（玉津IC-伊川谷IC間）の平日交通量	—	万台／日	8.6	—	—	6.4	—	—
自転車の利活用促進	「コベリン」会員数	93,000	人	100,493	—	順調	100,000	110,391	達成
計画的開発団地のリノベーション	取り組みを行っている地区のうち生産年齢人口の減少の緩和が図られた地区	—	%以上	—	—	—	50	—	—
都市公園のリノベーション	リノベーションする拠点公園数	2	公園	2	11	順調	10	13	達成
都心・三宮再整備の推進	三宮周辺地区の建替えの計画件数	0	件	0	5	順調	7	5	B
駅前空間の魅力向上	駅前空間クオリティアップの整備完了数	5	駅	1	6	遅れ	12	6	B

神戸2025ビジョン 数値目標・KPI進捗状況一覧表

基本目標7 多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化

数値目標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
—	市内留学生数(大学・短大)	4,750	人	4,613	—	順調	5,000	4,804	A
—	民間事業者と連携して実施したプロジェクト数	140	プロジェクト	187	680	順調	700	869	A

KPI指標		R6目標	単位	R6実績	R3～6累計	R6進捗状況	最終目標値	最終見込値	達成見込
事業	指標名								
顔の見える地域社会づくりと支えあい活動の推進	地域福祉センターの子育て世代の利用割合（ネットモニターアンケート） ※R3以降は利用者満足度調査で代替	— 〔17%以上〕	%	— 〔12.5%〕	—	— 〔やや遅れ〕	40% 〔20%〕	— 〔13.3%〕	B
多様な主体による地域活動の展開における出会い・学びのプラットフォームの推進	全区展開（多様な主体が参画する居場所）	8	区	6	—	やや遅れ	9	7	B
地域連携プラットフォーム（仮称）構築の検討	「地域連携プラットフォーム（仮称）」の構築	—	—	構築完了	—	順調	構築完了	構築完了	達成
総合的な日本語学習プラットフォームの構築	市内日本語学習関連拠点の維持・拡充	54	か所	53	—	順調	55	54	A
総合的な日本語学習プラットフォームの構築	地域日本語教室における学習者数	1,800	人	1,344	—	やや遅れ	2,000	1,471	B
総合的な日本語学習プラットフォームの構築	企業などへの日本語教師の年間紹介件数	15	件	3	—	遅れ	20	4	C
在住外国人への情報発信及び言語サービスの充実	外国人向けの広報物の多言語(英中越・やさしい日本語)対応率	80	%	79	—	順調	100	80	A
在住外国人への情報発信及び言語サービスの充実	外国人向け双方向型情報共有ネットワークの提携拠点設置数	83	拠点（全区で）	79	—	順調	100	90	A
地域コミュニティへの外国人流入の活性化	多文化共生推進拠点の増設	3	か所	4	—	順調	3	4	達成
地域コミュニティへの外国人流入の活性化	多文化共生推進拠点への年間合計来館者数	50,000	人	42,957	—	順調	60,000	51,644	A
地域コミュニティへの外国人流入の活性化	多文化交流員などの年間派遣件数	90	件	70	—	やや遅れ	100	65	B

Well-Being指標の概要

Well-Being指標について

●Well-Being指標の概要

- ・国の「デジタル田園都市国家構想」のもと、デジタル庁が活用を促進 ⇒ 国が指標を自動更新
- ・総合指標（幸福度、生活満足度）を最上位に位置づけ、その要因を主観と客観の両面から分析できる仕組み。
- ・要因を分析できる主観・客観それぞれの指標は、3つの因子群（生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方）から構成され、因子群は**24のカテゴリー**に細分化されている。
- ・主観・客観指標は自治体の政策分野を網羅し、分野別に全国偏差値で表示。

ウェルビーイング 総合指標

- ・ どの程度幸せか（幸福度）
 - ・ 住んでいる地域の暮らしにどの程度満足しているか（生活満足度）
- 等の4～5項目を0～10点でアンケート回答 ⇒ 平均値を指標化

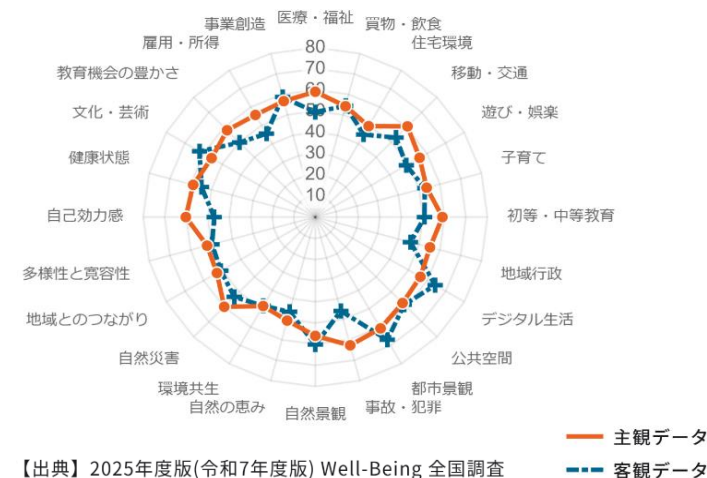
主観指標

【アンケート調査】										生活環境				地域の人間関係				自分らしい生き方					
医療・福祉	住宅環境	遊び・娯楽	初等・中等教育	デジタル生活	都市景観	自然の恵み	自然災害	地域とのつながり	自己効力感	文化・芸術	雇用・所得	買物・飲食	移動・交通	子育て	地域行政	公共空間	自然景観	環境共生	事故・犯罪	多様性と寛容性	健康状態	教育機会の豊かさ	事業創造

客観指標

【オープンデータ】										生活環境				地域の人間関係				自分らしい生き方			
医療・福祉	住宅環境	遊び・娯楽	初等・中等教育	デジタル生活	都市景観	自然の恵み	自然災害	地域とのつながり		自己効力感		文化・芸術	雇用・所得								
買物・飲食	移動・交通	子育て	地域行政	公共空間	自然景観	環境共生	事故・犯罪	多様性と寛容性		健康状態		教育機会の豊かさ	事業創造								

政策・事業



Well-Being指標の活用促進（骨太方針）

【経済財政運営と改革の基本方針2024】（抜粋）

「2. 豊かさと幸せを実感できる持続可能な経済社会に向けて

…意欲のある人が年齢・性別にかかわらず、「人への投資」などを通じて、自由に柔軟に活躍できる社会を構築する。さらに、若者が安心して結婚・出産・子育てに取り組めるよう若年世代の所得向上を図るとともに、健康意識の向上を図り、自らのキャリア設計の下で希望に応じて働くことで生涯所得を拡大させ、潜在的な支出ニーズを顕在化させていく。こうした「賃金と物価の好循環」や「成長と分配の好循環」の拡大・定着を通じて、希望あふれるWell-Beingの高い社会の実現を目指す。」

「4. 改革推進のためのEBPM強化

…客観指標と主観指標を併用し経済成長や政策効果を多面的に評価するなど、行政におけるWell-Being 指標の活用を促進するとともに、当該指標と各種政策との関係性を整理する。次世代の社会生活や価値観の変化を反映させた経済指標を検討し、将来的なSNA国際基準への反映や社会実装も見据えた取組を推進する。」

Well-Being指標【客観指標】

生活環境（16）

医療・福祉

- 医療施設徒歩圏人口カバー率
- 医療施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 人口あたり国保医療費 (-)
- 人口あたり後期高齢者医療費 (-)
- 特定健康診断受診率
- 福祉施設徒歩圏人口カバー率
- 福祉施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 人口あたり児童福祉施設数
- 人口あたり障害者施設支援数
- 人口あたり認知症サポーター・メイト・サポーター数

買物・飲食

- 商業施設徒歩圏人口カバー率
- 商業施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 可住地面積あたりの飲食店数
- 人口あたり飲食店数

住宅環境

- 住宅あたり延べ面積
- 平均価格（住宅地） (-)
- 専用住宅1m2あたり家賃 (-)
- 一戸建の持ち家の割合

移動・交通

- 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率
- 駅およびバス停徒歩圏人口密度 (-)
- 人口あたり小型車走行キロ (-)
- 通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合
- 職場までの平均通勤時間 (-)

遊び・娯楽

- 人口あたり娯楽業（映画館、劇場、スポーツ施設等）の事業所数

子育て

- 保育所まで1km未満の住宅割合
- 可住地面積あたり幼稚園数
- 施設あたり幼稚園児数 (-)
- 人口あたり待機児童数 (-)
- 歳出総額における教育費の構成比
- 合計特殊出生率

初等・中等教育

- 可住地面積あたり小学校数
- 可住地面積あたり中学校数
- 可住地面積あたり高等学校数
- 施設あたり小学生数 (-)
- 施設あたり中学生数 (-)
- 施設あたり高校生数 (-)

地域行政

- 人口あたり体育施設利用者数
- 人口あたり図書館帯出者数
- 人口あたり博物館入館者数
- 地域財政指数

デジタル生活

- 自治体DX指数
- デジタル政策指数
- デジタル生活指数

公共空間

- 公園緑地徒歩圏人口カバー率
- 人口あたり公園の面積
- 歩道設置率
- ウォーカブル指数

都市景観

- 都市景観指数

自然景観

- 自然景観指数

自然の恵み

- 食料生産ポテンシャル
- 水供給ポテンシャル
- 木材供給ポテンシャル
- 炭素吸収量
- 蒸発散量
- 地下水涵養量
- 土壌流出防止量
- 窒素除去量
- リン酸除去量
- NO2吸収量
- SO2吸収量
- 洪水調整量
- 表層崩壊からの安全率
- 緑地へのアクセス度
- 水域へのアクセス度
- オートキャンプ場への立地

環境共生

- NOx平均値 (-)
- PM2.5年平均値 (-)
- ゴミのリサイクル率
- 人口あたり年間CO2排出量 (-)
- 人口あたり再エネ発電量
- 環境政策指数

自然災害

- 外水氾濫危険度
- 高潮危険度
- 土砂災害危険度
- 地震動危険度
- 津波危険度
- ハード対策
- 避難・救助
- 要配慮者支援
- 防災教育
- 防災まちづくり
- 情報・デジタル防災

事故・犯罪

- 人口あたり交通事故件数* (-)
- 人口あたり刑法犯認知件数* (-)
- 空家率 (-)

指数を構成するKPIはP14~15を参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

Well-Being指標【客観指標】

地域の人間関係（2）

地域とのつながり

- 人口あたり自殺者数 (-)
- 拡大家族世帯割合
- 既婚者の割合
- 高齢単身世帯の割合 (-)
- 居住期間が20年以上の人口の割合
- 祭り開催数
- 自治会・町内会加入率*
- 人口あたり政治団体等の数
- 人口あたり宗教の事業所数
- 人口あたりNPOの数
- 人口あたり都市再生推進法人・UDCの数
- 関係人口創出活動指数

多様性と寛容性

- 議会における女性議員の割合
- 自治体の管理職職員における女性の割合
- 自治体職員における障害者の割合
- 人口あたり外国人人口
- 多様性政策指数

自分らしい生き方（6）

自己効力感

- 首長選挙投票率
- 市区町村議会選挙の投票率

健康状態

- 健康寿命（平均自立期間）（男性）
- 健康寿命（平均自立期間）（女性）

文化・芸術

- 芸術家・著述家等の割合
- 国宝・重要文化財（建造物）の数
- 日本遺産の数

教育機会の豊かさ

- 大卒・院卒者の割合
- 可住地面積あたり大学・短期大学の数
- 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数
- 人口あたり生涯学習講座数
- 人口あたり生涯学習講座受講者数
- 人口あたり青少年教育施設利用者数
- 人口あたり女性教育施設利用者数

雇用・所得

- 完全失業率 (-)
- 若年層完全失業率 (-)
- 正規雇用者比率
- 高齢者有業率
- 高卒者進路未定者率 (-)
- 市区町村内で従業している者の割合
- 創業比率
- 納税者あたり課税対象所得

事業創造

- クリエイティブ産業事業所の構成比
- 新規設立法人の割合
- 従業者数あたりコワーキングスペースの数
- 大学発ベンチャー企業数

Well-Being指標【客観指標(内訳)】

■ 地域財政指数

- ・ 財政力指数
- ・ 経常収支比率
- ・ 実質公債費比率
- ・ 将来負担比率

■ 自治体DX指数

- ・ 自治体DXの推進体制等
 - ・ CIO任命の有無（及び外部デジタル人材任用の有無）
 - ・ CIO補佐官任命の有無（及び外部デジタル人材任用の有無）
 - ・ DXを推進するための全体方針策定の有無
 - ・ DXを推進するための全庁的・横断的な推進体制構築の有無
 - ・ DX推進専任部署設置の有無
 - ・ DXを推進するための外部デジタル人材任用の有無
 - ・ DX・情報化を推進するために行っている職員の育成の取組の有無
- ・ 行政サービスの向上・高度化
 - ・ 申請・届出等手続のオンライン化計画・オンライン利用促進計画策定の有無
 - ・ 申請・届出等手続をオンライン化するための通則条例制定の有無
 - ・ e-文書条例制定の有無
 - ・ 申請・届出等手続をオンライン化するためのシステム導入の有無
 - ・ コンビニにおける証明書等の交付等の有無

- ・ 市民視点の指標の策定の有無
- ・ 指標に基づいた市民満足度測定の有無
- ・ 各システムの電子決裁機能の有無
- ・ 災害時の被災者情報管理業務システム整備の有無
- ・ 統合型GIS導入の有無
- ・ 情報セキュリティ対策の実施状況
 - ・ CISO任命の有無（及び外部デジタル人材任用の有無）
 - ・ 緊急時対応計画の策定の有無
 - ・ 情報システムに関する業務継続計画策定の有無
- ・ デジタルデバйд対策
 - ・ デジタルデバйд対策実施の有無

■ デジタル政策指数

- ・ 国土交通省Plateauの対象都市
- ・ 地方版IoT推進ラボの有無
- ・ 自治体によるオープンデータの有無
- ・ ローカル5G開発実証事業の採択の有無
- ・ スマートシティ合同審査の結果
- ・ 令和4年度デジ田交付金（type2/3）への採択
- ・ マイナンバーカード普及率
- ・ 国勢調査ネット回答率
- ・ 共創モデル実証プロジェクト
- ・ Digi田甲子園採択自治体
- ・ デジタル田園都市国家構想採択自治体

■ デジタル生活指数

- ・ Code forの団体の有無
- ・ ファブラボの有無
- ・ CoderDojoの有無
- ・ 大学のICT関連学部の有無
- ・ 高等専門学校の有無
- ・ 10万人あたり通信キャリア店舗数

■ ウォーカブル指数

- ・ ウォーカブル推進都市
- ・ （ウォーカブル推進都市のうち）滞在快適性等向上区域を設定している自治体
- ・ 「地方版自転車活用推進計画」の有無

■ 都市景観指数

- ・ 「都市景観大賞」受賞の市区町村
- ・ 景観条例の有無
- ・ 景観重要建造物の有無
- ・ 景観協定の有無

■ 自然景観指数

- ・ 国立・国定公園の有無
- ・ 「美しい日本のむら景観百選一覧」
- ・ 景観重要樹木の有無
- ・ 重要文化的景観

Well-Being指標【客観指標(内訳)】

■ 環境政策指数

- ・ SDGs未来都市
- ・ 2050年ゼロカーボンシティ
- ・ 気候変動イニシアティブへの参加
- ・ 「地域循環共生圏実践地域」活動団体
- ・ 脱炭素先行地域
- ・ ゼロカーボンパーク

■ 多様性政策指数

- ・ パートナースhip宣誓制度の有無
- ・ 性の多様性に関する条例の有無
- ・ 障害差別解消に関する条例の有無
- ・ 子どもに関する条例の有無
- ・ バリアフリー基本構想の有無
- ・ 男女共同参画条例・ジェンダー平等条例

■ 関係人口創出活動指数

- ・ 地域への移住・関係人口創出プロジェクトの数
- ・ 地域への移住・関係人口創出プロジェクトの発信可能者数
- ・ 地域への移住・関係人口創出プロジェクトの関心度

Well-Being指標【主観指標】

（１）生活環境（16分野）

医療・福祉	暮らしている地域は、医療機関が充実している 私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい
買物・飲食	暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない 私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している
住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている 私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる
移動・交通	私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる
遊び・娯楽	私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある
子育て	私の暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い 私の暮らしている地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる
初等・中等教育	私の暮らしている地域では、教育環境（小中高校）が整っている 私の暮らしている地域では、通学しやすい場所に学校がある
地域行政	暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である

デジタル生活	私の暮らしている地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる 私の暮らしている地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい
公共空間	暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい 私の暮らしている地域には、まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある
都市景観	私の暮らしている地域には、自慢できる都市景観がある
自然景観	私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある
自然の恵み	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
環境共生	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである
自然災害	私の暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている
事故・犯罪	私の暮らしている地域は、防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい 私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である

Well-Being指標【主観指標】

（２）地域の人間関係（２分野）

地域とのつながり	私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している
	私の暮らしている地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである
	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる
	私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする
	私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている
多様性と寛容性	この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
	私は、見知らぬ他者であっても信頼する
	私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる
	私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある
	私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある

（３）自分らしい生き方（６分野）

自己効力感	自分のことを好ましく感じる
健康状態	私は、精神的に健康な状態である
	私は、身体的に健康な状態である
文化・芸術	暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
教育機会の豊かさ	私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある
雇用・所得	私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい
	私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある
事業創造	暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある